# 登　米　市
# 男女共同参画に関する市民アンケート
# 結果報告書

平成 26 年 6 月

登米市

# 目　　次

第１章　調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　１　調査目的
　２　調査方法
　３　回収結果
　４　結果報告書の見方

第２章　調査結果のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　１　回答者の属性について
　２　男女平等意識について
　（１）男女共同参画の認知度について
　（２）各分野における男女の平等について・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　（３）「男は仕事、女は家庭」という考え方について・・・・・・・・・・4
　（４）子どもを産み育てやすくするために必要なこと
　（５）男性の育児休業・介護休業の取得について・・・・・・・・・・・ 5
　３　地域活動について
　４　ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）・・・・・・・・・・・・・・ 6
　５　児童虐待について
　６　高齢社会・介護について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　７　仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について・・・・・8
　８　男女共同参画社会の実現に向けて、市がすべきことについて

第３章　調査結果
　１　回答者の属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　２　男女平等意識について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　３　地域活動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
　４　ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）について・・・・・・・・・42
　５　児童虐待について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
　６　高齢社会・介護について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
　７　仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について・・・・・48
　８　男女共同参画社会の実現に向けて、市がすべきこと・・・・・・・・51

自由意見 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

# 第１章　調査概要

## １．調査目的

本調査は、市民の男女共同参画社会に対する意識や現状等を把握し、「第３次登米市男女共同参画基本計画」を策定するための基礎資料とすることを目的に実施したものである。

## ２．調査方法

（１）　調査対象

市内在住の満 20 歳以上の市民 2,000 人

（２）　抽出方法

住民基本台帳から、行政区別・年齢層別・性別人口割合に応じた無作為抽出

（基準日：平成 26 年２月 12 日現在）

（３）　調査方法

区長配付及び郵送による回収

（４）　調査期間

平成 26 年３月３日（月）～３月 17 日（月）

（５）　調査内容

① 回答者の属性について
② 男女平等意識について
③ 地域活動について
④ ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）について
⑤ 児童虐待について
⑥ 高齢社会・介護について
⑦ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
⑧ 男女共同参画社会の実現に向けて、市がすべきこと

## ３．回収結果

有効回答数（有効回答率）　845 人（42.3％）

（内　　訳）　男性 361 人、女性 475 人、不明９人

## ４．結果報告書の見方

（１）　アンケートの回答は、「単一回答（１つだけ選択する回答)」と「複数回答（該当する項目を選択する回答)」とがあり、複数回答の場合は「複数回答」と表記している。

（２）　調査結果の数値は、原則として構成比（％）で表記しており、値の母数は、その設問項目の集計対象総数であり、「総計＝Ｎ」と表記している。

（３）比率(％)は、小数点以下第２位を四捨五入し、小数点以下第１位までを表記しているため、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しない場合がある。

（４）　クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目及び「その他」「無回答」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。

# 第２章　調査結果のまとめ

## １　回答者の属性について（問 1～問 11）　［詳細９～13 頁］

・　就業の状況は、男性では「会社員・団体職員」25.2%が最も多く、女性では「専業主婦」22.9%が最も多くなった。

・　結婚の状況は「既婚」が 73.4%で、男女の回答率の差（ポイント）でみると「未婚」で男性が 10 ポイント高く、「離別・死別」で女性が 7.4 ポイント高くなっており、子どもが「いる」で女性が 12.1 ポイント高くなった。

・　世帯構成は 20 代を除く全ての年代で「２世代（親と子)」が最も多くなった。
年代別にみると、60 代以降からは全体に占める「夫婦のみ」の割合も高くなっている。

結果から見える課題

第２次行動計画に基づき「単身者や生活困窮者に対する支援」事業を展開しているが、未婚率の増加が少子化の要因の一つとなっていることや、単身世帯やひとり親世帯が増加傾向にあることから、引き続き支援が求められる。

## ２　男女平等意識について（問 12～問 23）

### （１）男女共同参画の認知度について　［詳細 17 頁］

・　「言葉を見聞きしたことがある程度」57.3%、「内容まで知っている」15.9%となった。
年代別にみると「知らなかった」で 20 代男性が 41.5%と最も多くなり、「内容まで知っている」で 70 代男性が 29.6%と最も多くなった。これは、「ワーク・ライフ・バランスの認知度」の項目でも同様の結果となった。

前回調査との比較

「内容まで知っている」と「言葉を見聞きしたことがある程度」を合わせた比率は、前回数値と比較し 1.2 ポイントの増となった。

「内容まで知っている」と「言葉を見聞きしたことがある程度」を合わせた割合

| 現況値（H26.3） | 前回調査値（H23.1） | 前回調査値（H18.7） |
|---|---|---|
| 73.2% | 72.0% | 39.8% |

結果から見える課題

第２次基本計画で定める認知度の目標値は「100%」であり、前回調査と比較し数値は上昇したものの、目標値には達していないことから、引き続き「男女共同参画社会」の意義について理解を深めてもらうため、各種媒体を通じた情報提供・啓発が求められる。

## （２）各分野における男女の平等について　［詳細 18～25 頁］

・「平等になっている」と回答した人の割合　（%）

| 分野 | 平等になっている | | | | 内閣府調査 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 区分 | H25 | H22 | 比較差 | H24 |
| 家庭の中で | 男性 | 36.0 | 34.4 | 1.6 | 53.8 |
| | 女性 | 23.6 | 22.8 | 0.8 | 41.0 |
| | 総計 | **29.0 ※1** | 27.7 | 1.3 | 47.0 |
| 職場の中で | 男性 | 25.8 | 25.2 | 0.6 | 32.0 |
| | 女性 | 23.4 | 18.4 | 5.0 | 25.3 |
| | 総計 | **24.3 ※1** | 21.2 | 3.1 | 28.5 |
| 地域の中で | 男性 | 26.9 | 25.2 | 1.7 | 57.0 |
| | 女性 | 17.3 | 15.1 | 2.2 | 47.7 |
| | 総計 | **21.3 ※1** | 19.4 | 1.9 | 52.1 |
| しきたりや慣習で | 男性 | 17.2 | 16.3 | 0.9 | 26.3 |
| | 女性 | 8.2 | 8.5 | -0.3 | 17.1 |
| | 総計 | **12.1 ※1** | 11.8 | 0.3 | 21.4 |
| 法律や制度の上で | 男性 | 38.0 | 41.0 | -3.0 | 54.2 |
| | 女性 | 23.6 | 25.2 | -1.6 | 37.5 |
| | 総計 | 29.7 | 31.9 | -2.2 | 45.4 |
| 政治の場で | 男性 | 25.2 | 30.2 | -5.0 | 24.2 |
| | 女性 | 12.8 | 12.5 | 0.3 | 13.5 |
| | 総計 | 18.1 | 20.2 | -2.1 | 18.6 |
| 教育の場で | 男性 | 58.4 | 54.4 | 4.0 | 68.5 |
| | 女性 | 42.9 | 45.2 | -2.3 | 65.7 |
| | 総計 | 49.5 | 48.7 | 0.8 | 67.0 |
| 社会全体として | 男性 | 21.6 | 23.5 | -1.9 | 30.0 |
| | 女性 | 11.4 | 12.2 | -0.8 | 19.8 |
| | 総計 | 15.7 | 17.0 | -1.3 | 24.6 |

結果から見える課題

※１　第２次基本計画で定める目標値は「50%」であり、前回調査と比較し数値は上昇したものの、目標値には達していない。

各分野において、男性の方が「男女平等」と認識している人が多いことから、男女共同参画の理解に向けた男性に対する積極的な啓発が求められる。

### （３）固定的性別役割分担意識「男は仕事、女は家庭」という考え方について　［詳細 26 頁］

「そう思う」6.6%、「そう思わない」36.1%となった。

男女別にみると、男性は「どちらかと言えばそう思う」36.0%が最も多く、女性は「そう思わない」37.9%が最も多くなった。

年代別にみると、「そう思う」で 70 代男性が 21.9%と最も高く、「そう思わない」で 20 代男性が 52.5%と最も多くなった。この結果から、「男女共同参画の認知度」が高くても「固定的性別役割分担意識を持っている」という結果になった。

前回調査との比較

「そう思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた比率は、前回数値と比較し 2.6 ポイントの増となった。

「男は仕事、女は家庭」という考え方を持たない割合

| 現況値（H26.3） | 前回調査値（H23.1） | 前回調査値（H18.7） |
|---|---|---|
| 58.1% | 55.5% | 37.5% |

結果から見える課題

20 代・30 代では、男性の家事参加に抵抗を感じない人の割合が多いが、60 代以降では固定的性別役割分担意識（男は外で働き、女は家庭を守るべきである）の考えが根強く残っている。

第２次基本計画で定める目標値は「90%」であり、前回調査と比較し数値は上昇したものの、目標値には達していないことから、引き続き家事・育児・介護などの家庭責任は男女が共に担うという意識啓発が求められる。

### （４）子どもを産み育てやすくするために必要なこと　［詳細 35 頁・40 頁］

最も回答が多かったのは「児童手当などの福祉サービスの充実」20.6%、次いで「保育サービスの充実」20.1%となった。

男女の意識の差（ポイント）でみると、「父親や家族の理解と協力」で女性が 6.3 ポイント高くなった。

前回調査との比較

前回、最も回答が多かった「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」が 3.5 ポイント減少し、「児童手当などの福祉サービスの充実」が 4.4 ポイント増加、「保育サービスの充実」が 3.0 ポイント増加した。

結果から見える課題

第２次行動計画に基づき「安心して子育てできる環境づくりの推進」を重点目標に事業展開しているが、近年、核家族化・夫婦共働き世帯は増加傾向にあり、男女ともに働く家族形態が一般的になりつつあることから、子育てを支援する施設・サービスの充実及び父親（男性）の家事・育児への更なる参加について理解と協力に向けた啓発が求められる。

### （５）男性の育児休業・介護休業の取得について　［詳細 37～39 頁］

#### ① 男性の育児休業の取得

「積極的に取った方がよい」29.1%、「どちらかと言えば取った方がよい」42.4%となった。

前回調査との比較

「どちらかと言えば取った方がよい」と「積極的に取った方がよい」を合わせた比率が、男性は 3.2 ポイント増となったが、女性は 1.3 ポイント減となった。

#### ② 男性の介護休業の取得

「積極的に取った方がよい」31.6%、「どちらかと言えば取った方がよい」43.1%となった。

前回調査との比較

「どちらかと言えば取った方がよい」と「積極的に取った方がよい」を合わせた比率が、男性は 1.1 ポイント増、女性は 2.5 ポイント増となった。

・　男性が育児休業や介護休業を取得できない（取得しない）理由として最も多かったのは「仕事に支障があるから」26.4%、次いで「収入が減るから」24.7%となり、前回調査と比較すると「上司の理解が得られないから」が減少した。

結果から見える課題

核家族化・夫婦共働き世帯が増加傾向にあることから、男性の育児・介護休業制度の休暇取得に関する企業向けの啓発と、男性の立場・視点から理解を深めるための啓発が求められる。

## ３　地域活動について（問 24～問 25）　［詳細 41 頁］

・　自治会活動などに女性の参画が少ない理由は「女性は家事・育児・介護で忙しいから」32.2%が最も多く、次いで「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行があるから」22.4%となった。

・　地域の男女共同参画を進めるためには「男女共同参画が進んでいる地域の情報提供」32.6%が最も多く、次いで「地域に対する普及・啓発等の働きかけの推進」32.3%となった。

結果から見える課題

地域では、少子高齢化や人間関係の希薄化が進行し様々な問題が生じていることから、地域活動に男女が共に参画することの重要性についての啓発とともに、女性の視点を生かした地域づくりの推進が求められていることから、男女共同参画が進んでいる地域の情報提供や地域に対する普及・啓発等が求められる。

## 4　ドメスティック・バイオレンス（DV）　［詳細 42～43 頁］

・　国及び県、市、警察の相談窓口を「知っている」38.1%、「知らない」15.5%となった。

前回調査との比較

相談窓口の認知度「知っている」が 2.5 ポイント減少した。※女性が 6.0 ポイント減少

・　ＤＶ被害を受けた時の相談先は「親・きょうだいに相談する」32.9%で、次いで「警察に連絡・相談する」17.8%となった。

前回調査との比較

女性の「親・きょうだいに相談する」が 6.4 ポイント増加し、「行政の窓口や弁護士、医師などの専門家に相談する」が 4.6 ポイント減少した。

・　ＤＶ対策で最も回答が多かったのは「被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす」14.6%で、次いで「ＤＶは人権侵害であり、犯罪となる行為であることの周知啓発の徹底」14.5%となった。

前回調査との比較

前回、最も回答が多かった「ＤＶは人権侵害であり、犯罪となる行為であることの周知啓発の徹底」が 3 ポイント減少し、「子どものことについて相談したり、一時的に預かったりしてくれる体制等の整備」が 4.5 ポイント増加した。

結果から見える課題

第２次行動計画に基づき「男女間のあらゆる暴力の根絶」を重点目標に事業展開しているが、近年、市内におけるＤＶ相談件数は増加しており、今回の調査結果では、相談窓口の認知度が減少したことから、より効果的な啓発及びトラブルを抱えた夫婦間・恋人間の子どもに対する支援が求められる。

## 5　児童虐待について（問 26～問 31）　［詳細 44 頁］

・　児童虐待の原因として「育児ノイローゼやストレス」29.6%がもっとも多くなった。

・　児童虐待を防ぐ対策で最も回答が多かったのは「子育てを支援する施設・サービスの充実」19.1%、次いで「親や子どもが孤立しないような取組を行う」15.8%となった。

前回調査との比較

「子育てを支援する施設・サービス」が 9 ポイント増加した。

結果から見える課題

20 代・30 代の男性を除くすべての世代で、３歳児神話（子どもが３歳になるまでは母親が子育てをする）の考えが根強く残って入ることから、男女の別や就労の有無に関わらず、安心して子育てができるよう支援する施設・サービスの充実が求められる。

また、児童虐待の早期発見・対応とともに、親や子どもが孤立しないよう、地域やコミュニティを単位とした子育て支援が求められる。

## 6　高齢社会・介護について（問 32～問 35）　［詳細 45～47 頁］

・　自身の老後を考えたとき、心配事や不安が「ある」と答えた人は 84.9%（男性 81.4%、女性 87.8%）となった。

・　心配事や不安で最も多かった回答は男女共に「自分の病気や健康のこと」（男性 25.1%、女性 25.7%）で、次いで「生活費のこと」（男性 22.0%、女性 23.9%）となった。

前回調査との比較

前回調査でも「自分の病気や健康のこと」が最も多く、次いで「生活費のこと」であった。

・　老後の生活は「家族と一緒に暮らしたい」33.8%が最も多く、次いで「１人暮らしとなっても、必要に応じ介護サービスを受けながら自宅で暮らしたい」21.5%となった。

前回調査との比較

「家族と一緒に暮らしたい」が増加（男性 5.5 ポイント増、女性 2.5 ポイント増）し、「同居でなくてもよいが、身内と顔をあわせられる距離で暮らしたい」が減少（男性 1.5 ポイント減、女性 2.6 ポイント減）した。

・　介護が必要な状態となったとき、身の回りの世話はどの様な形を希望するかについては「介護保険制度などのサービスを利用する」43.5%が最も多くなった。

男女の意識の差(ポイント)でみると、「配偶者が世話をする」の項目で男性が 11.9 ポイント高くなった。

前回調査との比較

「介護保険制度などのサービスを利用する」が増加（男性 4.0 ポイント増、女性 2.4 ポイント増）し、「家族全員で世話をする」が減少（男性 7.1 ポイント減、女性 1.7 ポイント減）した。

結果から見える課題

老後は「家族と一緒に暮らしたい」と考える人が多くなっているが、固定的性別役割分担意識や慣行から、現実には女性の負担が多くなっているため、男性の介護知識や介護技術の普及及び介護を支える様々なサービスや施設などの普及が求められる。

また、高齢者が地域において経済的・社会的に自立した生活を送ることが出来るよう、介護予防の取り組みや、高齢男女の生活自立支援が求められる。

## 7　仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について（問 36～問 39）［詳細 48～50 頁］

（１）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の認知度について

「内容まで知っている」6.4%、「知らなかった」60.4%となった。

年代別にみると「知らなかった」で 20 代男性が 71.4%と最も多くなり、「内容まで知っている」で 70 代男性が 12.5%と最も多くなった。これは、「男女共同参画の認知度」の項目でも、同様の結果となった。

前回調査との比較

「内容まで知っている」と「言葉を見聞きしたことがある程度」を合わせた比率は、前回数値と比較し男性は 0.9 ポイント、女性は 4.5 ポイント増加した。

「内容まで知っている」と「言葉を見聞きしたことがある程度」を合わせた割合

| 現況値（H26.3） | 前回調査値（H23.1） |
|---|---|
| 36.6% | 33.3% |

・　仕事と家庭を両立していくために必要なことは「家族の間で家事などの分担について十分話し合う」27.0%が最も多くなり、男女別にみると男性で「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」28.8%が最も多くなり、女性で「家族の間で家事などの分担について十分話し合う」28.9%が最も多くなった。

前回調査との比較

前回調査でも「家族の間で家事などの分担について十分話し合う」が最も多かった。

結果から見える課題

第２次基本計画で定める認知度の目標値は「50%」であり、前回調査と比較し数値は上昇したものの、目標値には達していないことから、引き続き仕事と生活の調和に関する意識啓発が求められる。

核家族化・夫婦共働き世帯は増加傾向にあるが、男性の 76.2%が仕事優先と回答しており、長時間労働の抑制や男性の子育て・介護への参加に関する啓発が求められる。

また、全国的に子育てや介護を理由に退職する人が増えており、保育サービス・介護サービスの充実が求められる。

## 8　男女共同参画社会の実現に向けて、市がすべきことについて　［詳細 51 頁］

「子育てを支援する施設・サービスの充実」17.9%が最も多くなり、次いで「介護施設や介護サービスの充実」16.9%、次いで「学校や社会教育の場で学ぶ機会を提供」13.3%となった。

前回調査との比較

男女別の調査結果と違いは見受けられなかった

結果から見える課題

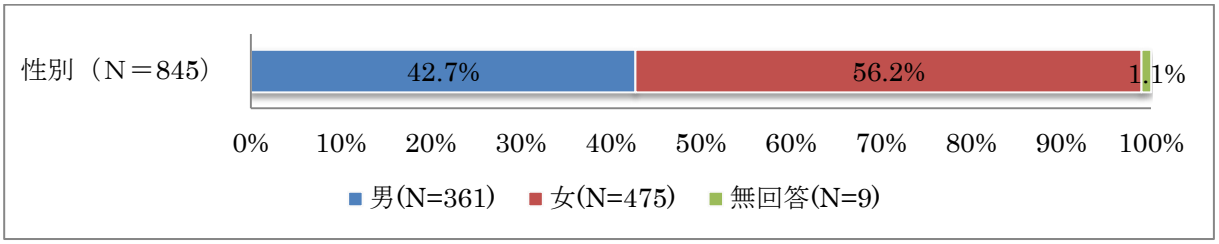
少子高齢化・夫婦共働きが進展するなかで、仕事と子育て・介護の両立はますます重要な課題となっており、子育てや老親の介護と仕事の両立で問題を抱える人が増えていることから、子育てを支援する施設・サービスの充実、介護を支援する施設やサービスの充実が求められる。

# 第３章　調査結果

## １．回答者の属性

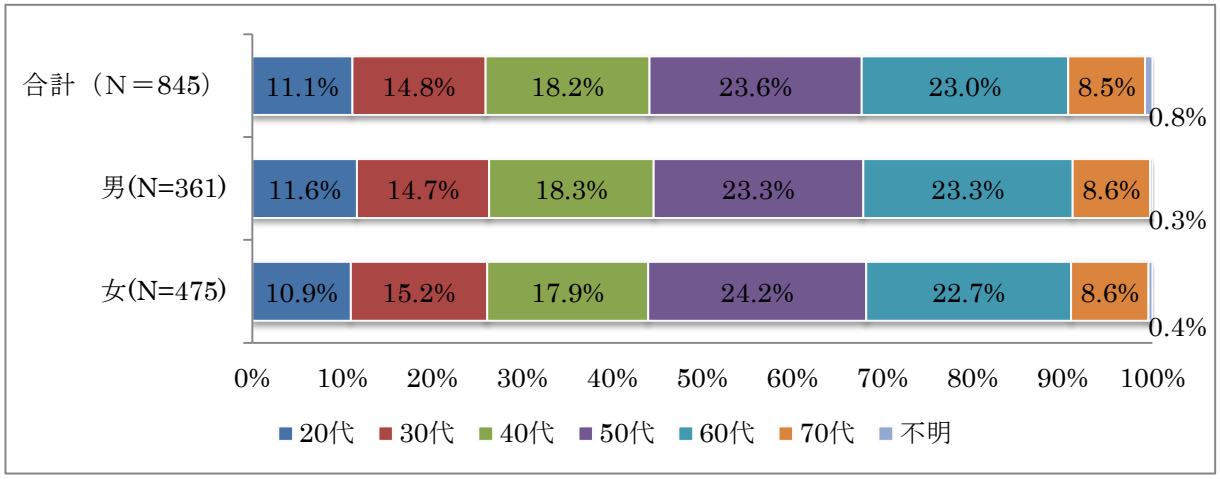
問１　あなたの性別はどちらですか。

男女の割合は、男性 42.7%、女性 56.2%となった。



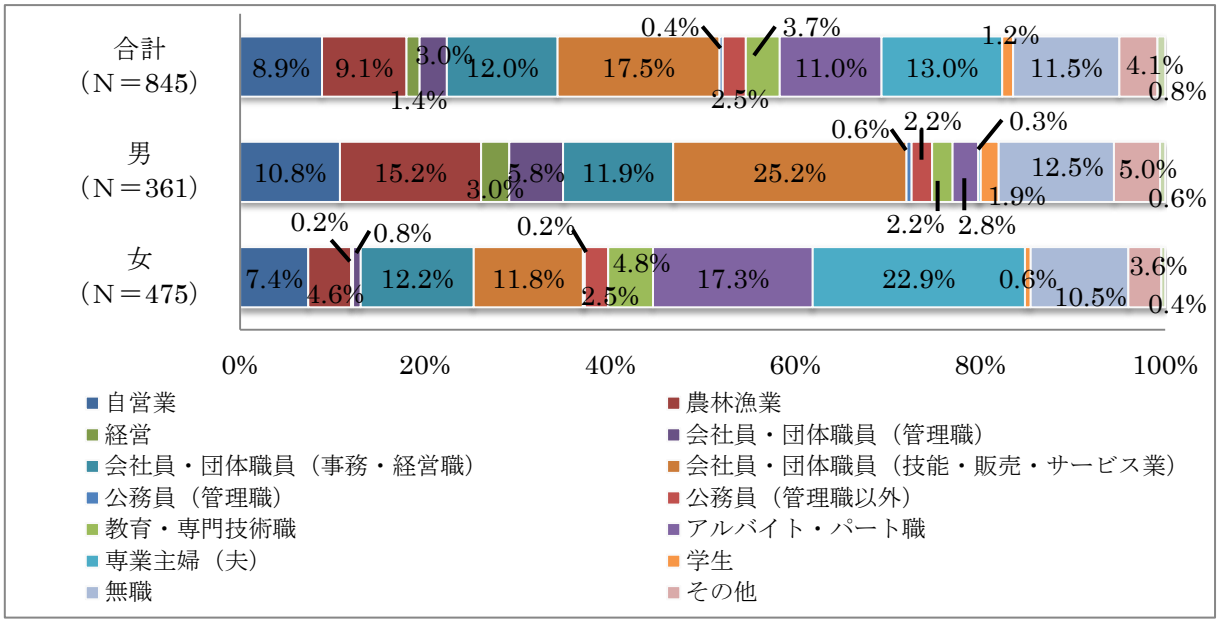

問２　あなたの年齢はいくつですか。

年齢の割合は、50 代 23.6%が最も多く、次いで 60 代 23.0%となった。



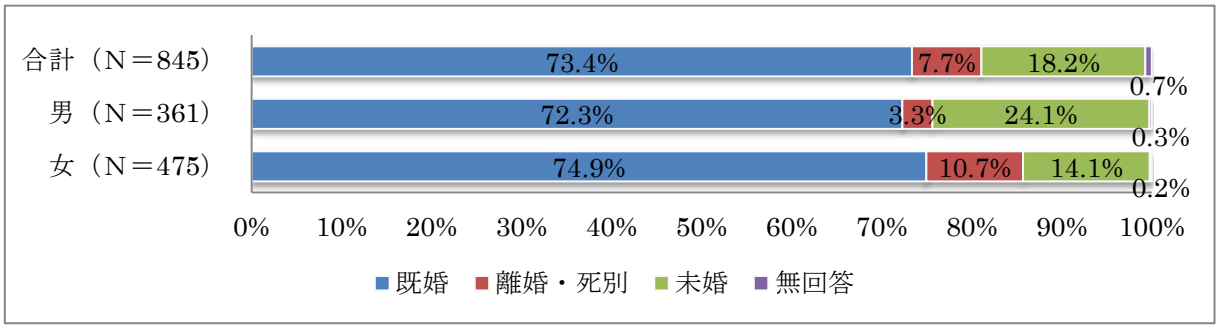

問３　あなたの職業は次のうちどれにあたりますか。※２つ以上該当する場合は、主な方に○印

職業は男女別にみると、男性が「会社員・団体職員（技能・販売・サービス業）」（25.2%）、次いで「農林漁業」（15.2%）で、女性が「専業主婦」（22.9%）、次いで「アルバイト・パート職」（17.3%）となった。

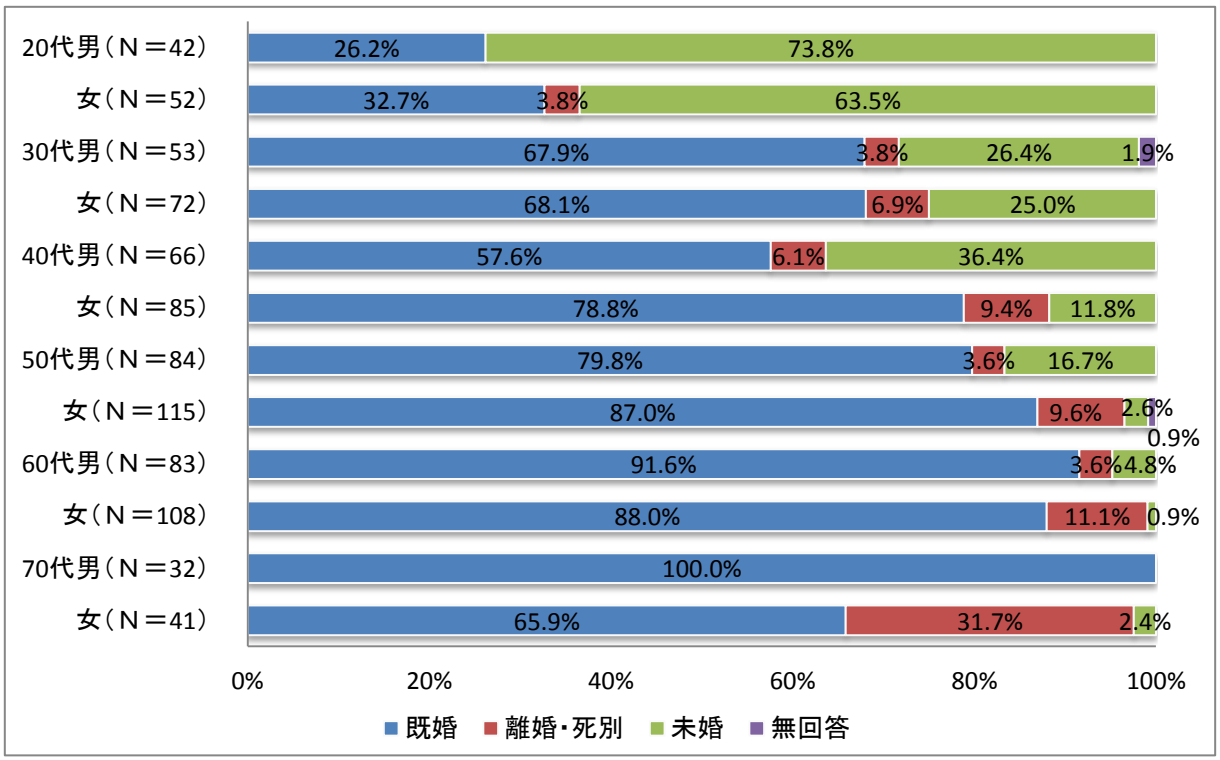


問４　あなたは結婚していますか。

結婚の状況は、73.4%が既婚となっている。男女別の「未婚」の項目では、女性 14.1%に対し、男性 24.1%と男性が 10 ポイント高くなっており、「離別・死別」の項目では、男性 3.3%に対し女性が 10.7%と女性が 7.4 ポイント高くなった。

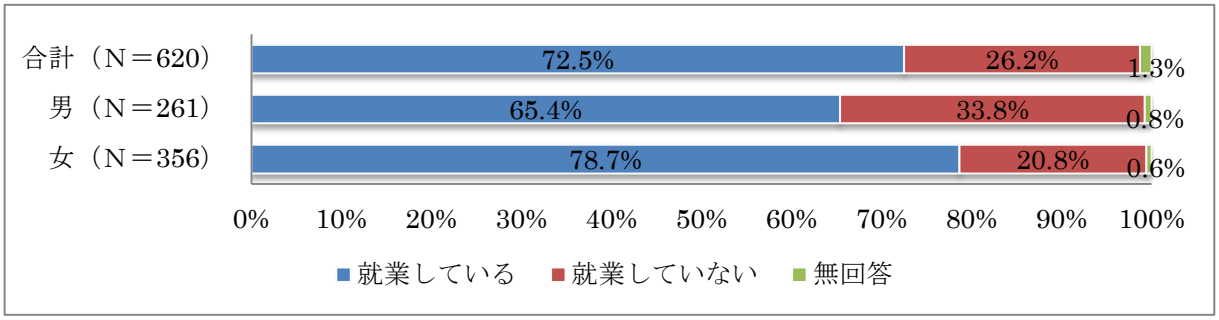



年代別に見ると、40 代男性の未婚率が 36.4%となり、70 代女性の離別・死別が 31.7%となった。

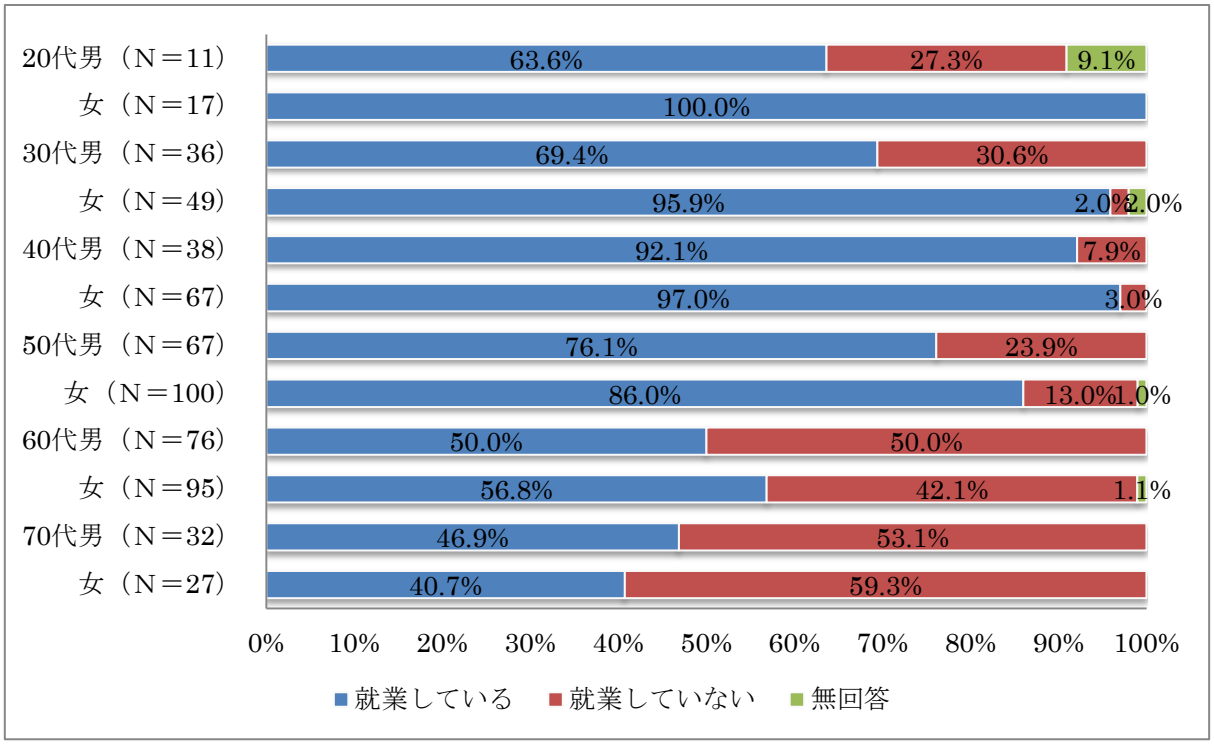


問５　問４で「１．結婚している」と回答した方にうかがいます。
配偶者は就業していますか。（パート・アルバイト、自営業従事を含みます。

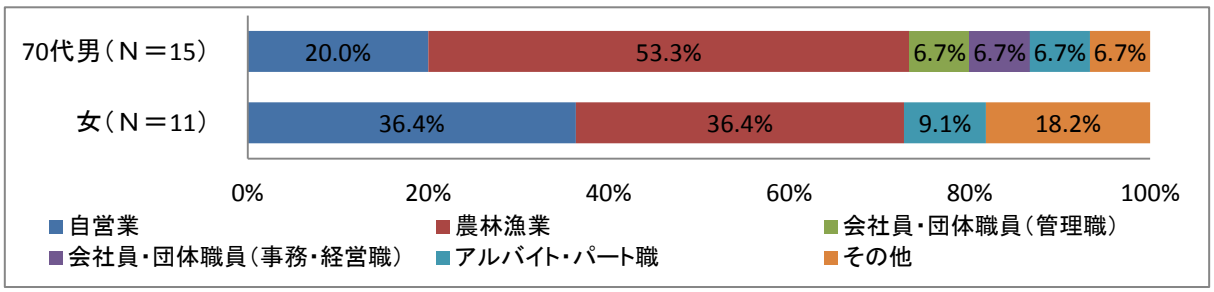
「就業している」72.5%となった。




年代別に見た割合は下記のとおり。



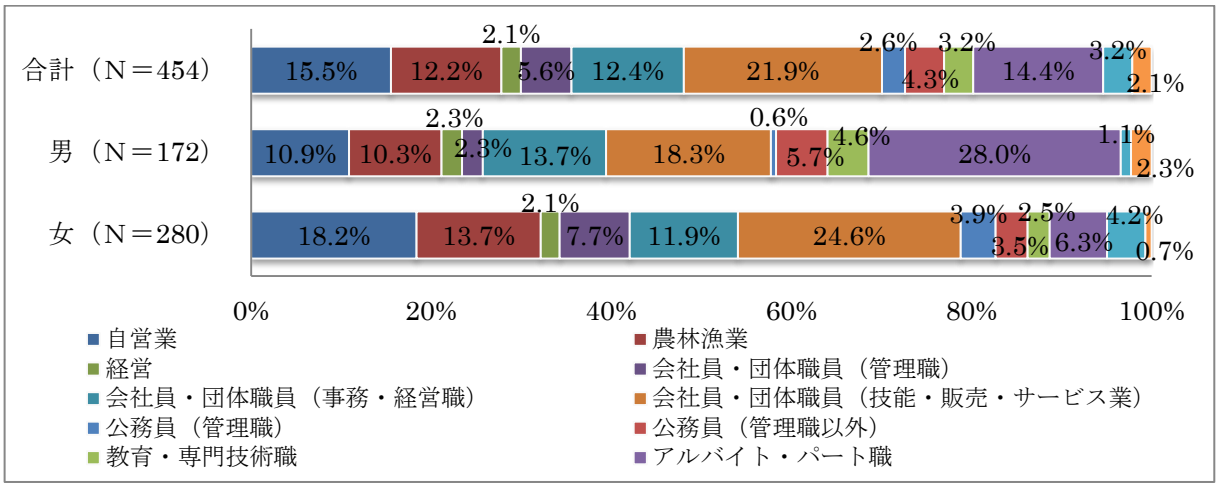

70 代でみると「自営業」と「農林漁業」が多くなっている。



問６　問５で「１．している」と回答した方にうかがいます。

配偶者の職業は次のうち、どれにあたりますか。※２つ以上該当する場合は、主な方に○印。

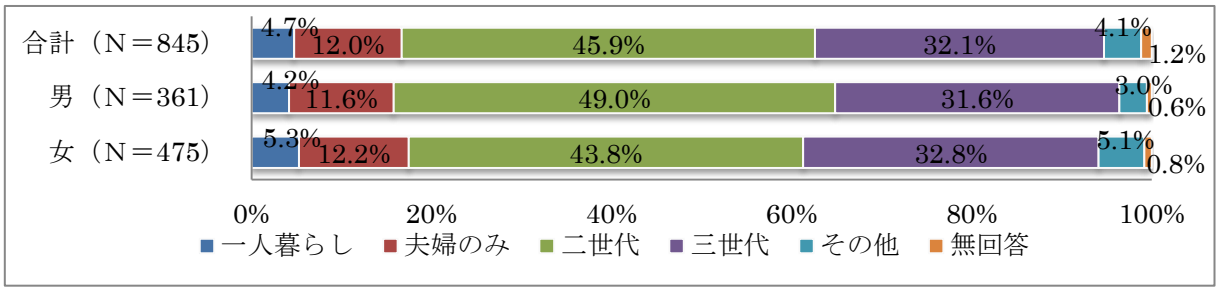
配偶者の職業で回答が多かったのは、夫の職業が「会社員・団体職員（技能・販売・サービス業)」24.6%で、妻の職業が「アルバイト・パート職」28.0%となった。



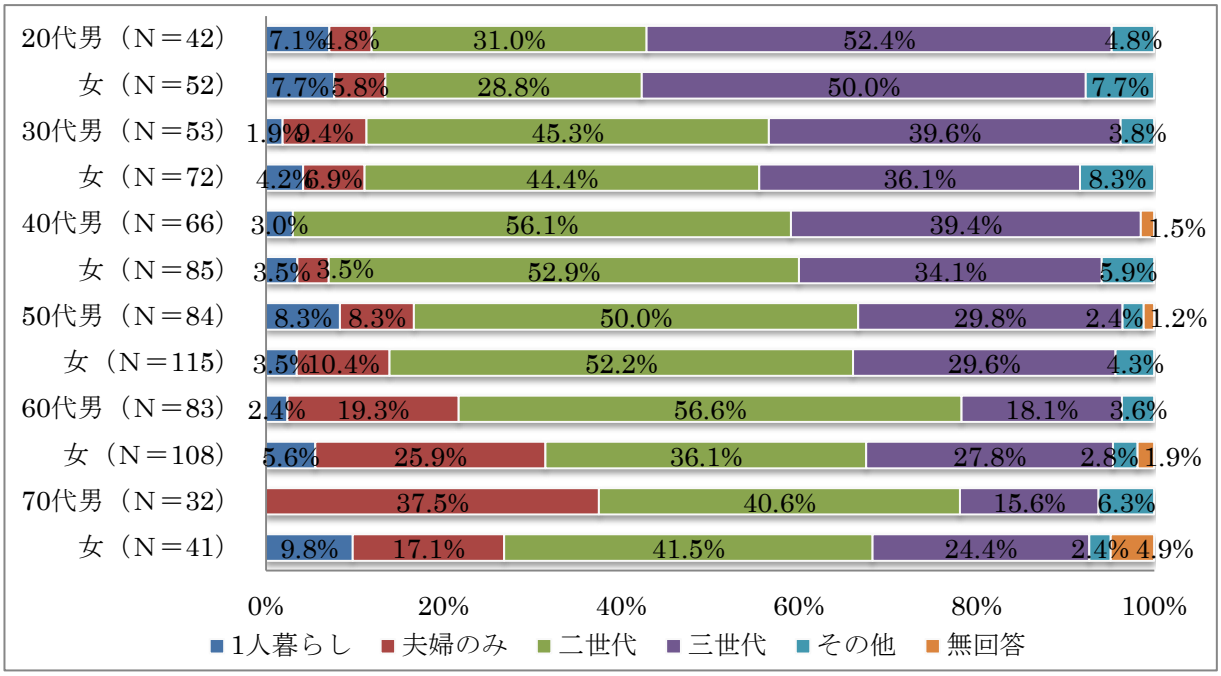

問７　あなたの世帯は次のどれにあてはまりますか。（本人を含む）

世帯構成は、「２世代（親と子)」45.9%が最も多く、次いで「３世代（親と子と孫)」32.1%となった。

※国民生活基礎調査（平成 22 年）（厚生労働省）結果では、「夫婦と未婚の子のみの世帯」が 30.7%と最も多く、本市が 15.2 ポイント高くなり、「３世代世帯」については 7.9%で、本市が 24.2 ポイント高くなった。「単独世帯」25.5%では、本市が 20.8 ポイント低くなった。



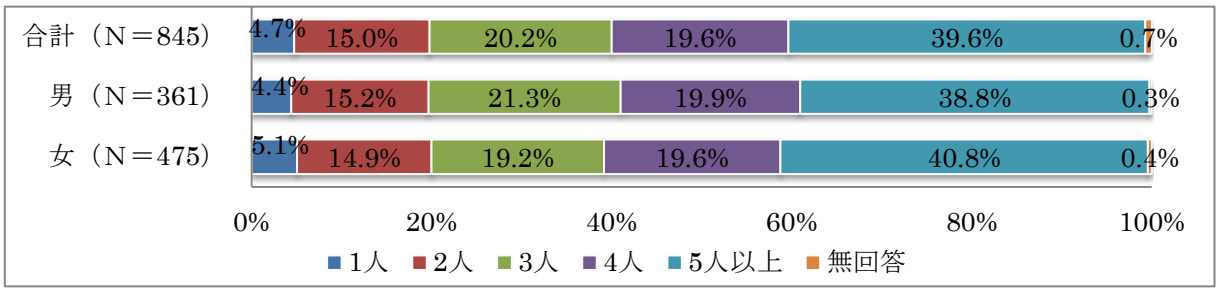

年代別に見ると、20 代を除き二世代（親と子）の世帯が多くなっている。



問８　あなたの世帯は何人ですか。（本人を含む）

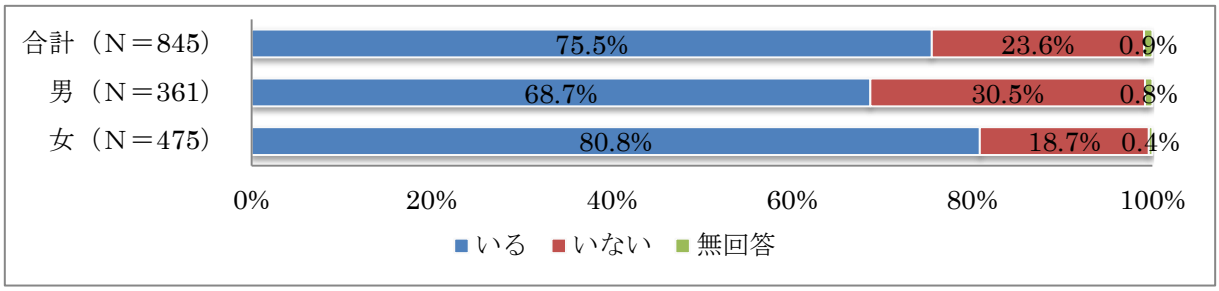
世帯員数は、５人以上が 39.6%と最も多く、次いで３人 20.2%となった。

※国民生活基礎調査（平成 22 年）（厚生労働省）結果では、全国平均世帯人員は 2.59 人となっている。



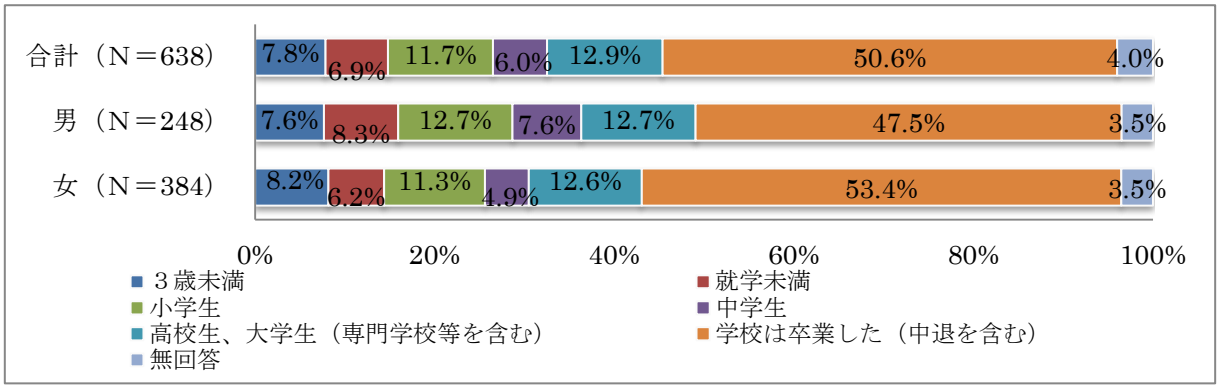

問９　あなたはお子さんがいますか。

男女別でみると、「いる」と回答した男性 68.7%に対し女性 80.8%と、女性が 12.1 ポイント高くなった。




問 10　問９で「１．いる」と回答した方にうかがいます。
お子さんは次のどれにあてはまりますか。（同居・別居を含む）【複数回答】

「学校は卒業した（中退を含む）」が最も多く 50.6%となった。

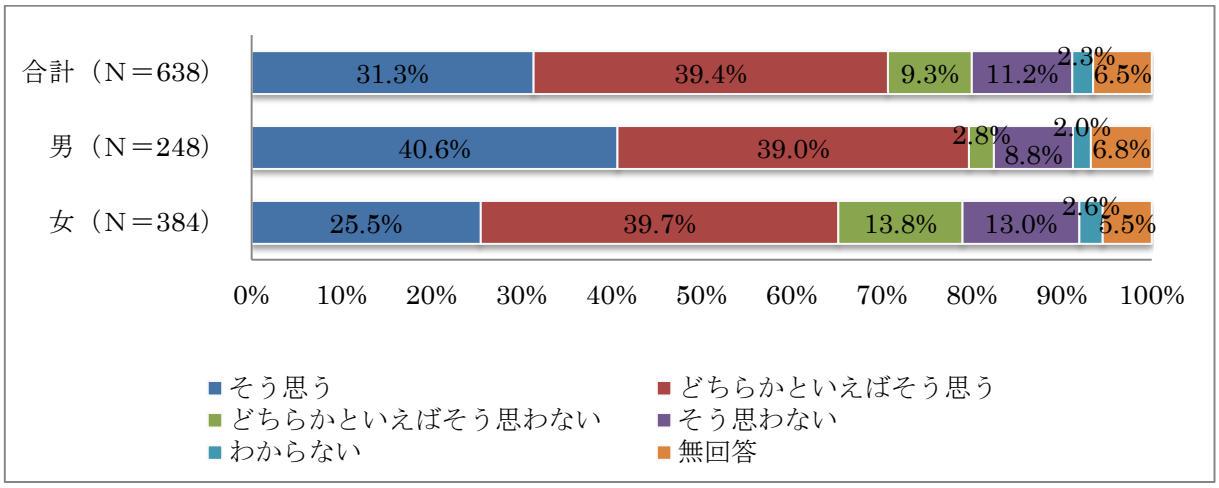


問 11　問９で「１．いる」と回答した方にうかがいます。
あなたは、子育てに関する①～③について、どのように思いますか。

**①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい**

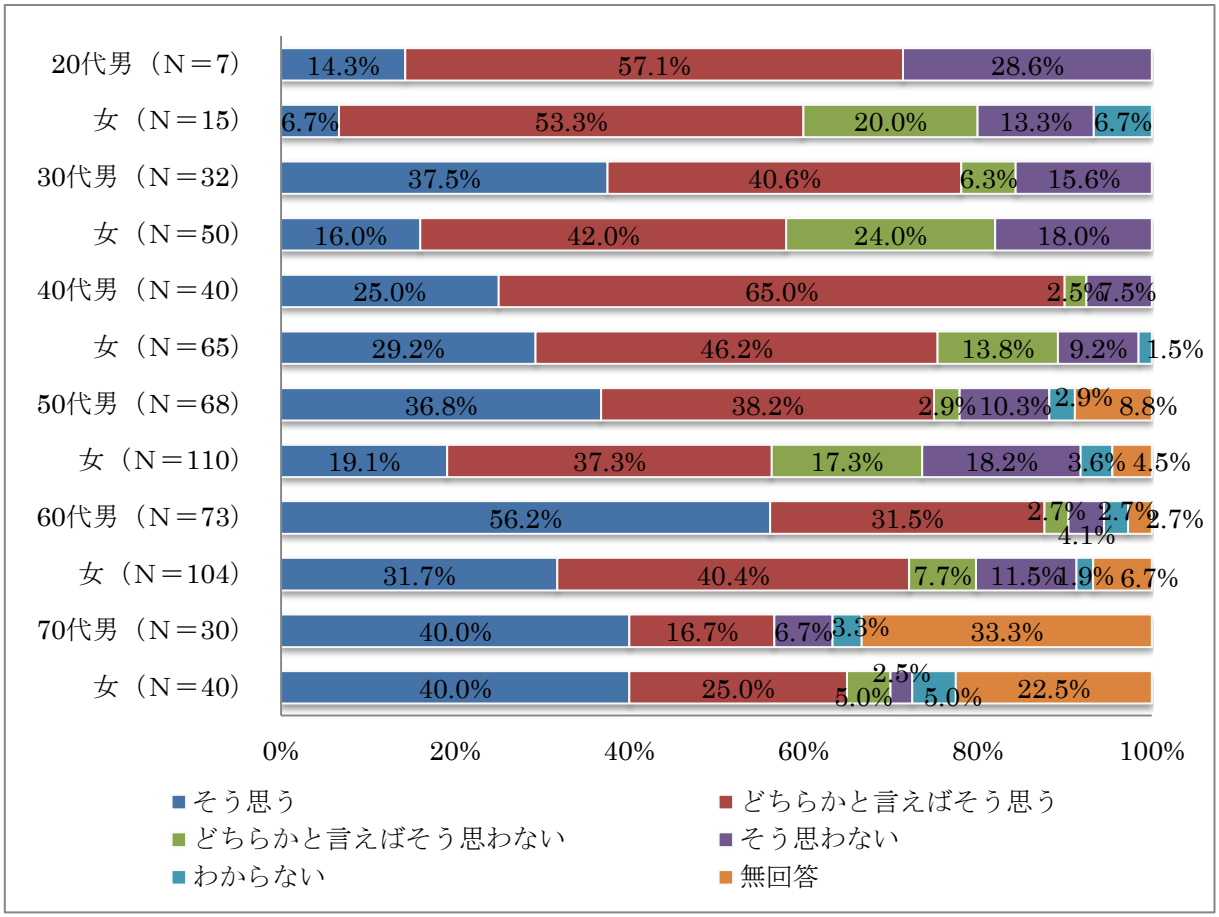
全体でみると「どちらかといえばそう思う」39.4%が最も多くなった。

男女の意識の差(ポイント)でみると、「そう思う」の項目で男性が 15.1 ポイント高くなり、「どちらかといえばそう思わない」の項目で女性が 11.0 ポイント高くなった。



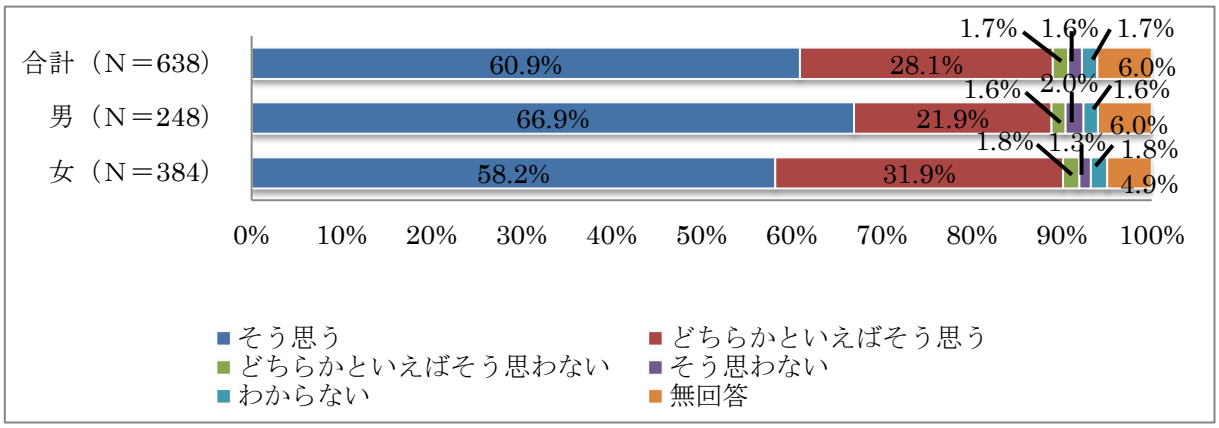

年代別にみると 20 代男性の「そう思わない」の項目が、全体的な比率と比較して 17.4 ポイント高くなった。

また、60 代男性の「そう思う」の項目が、全体的な比率と比較して 24.9 ポイント高くなった。



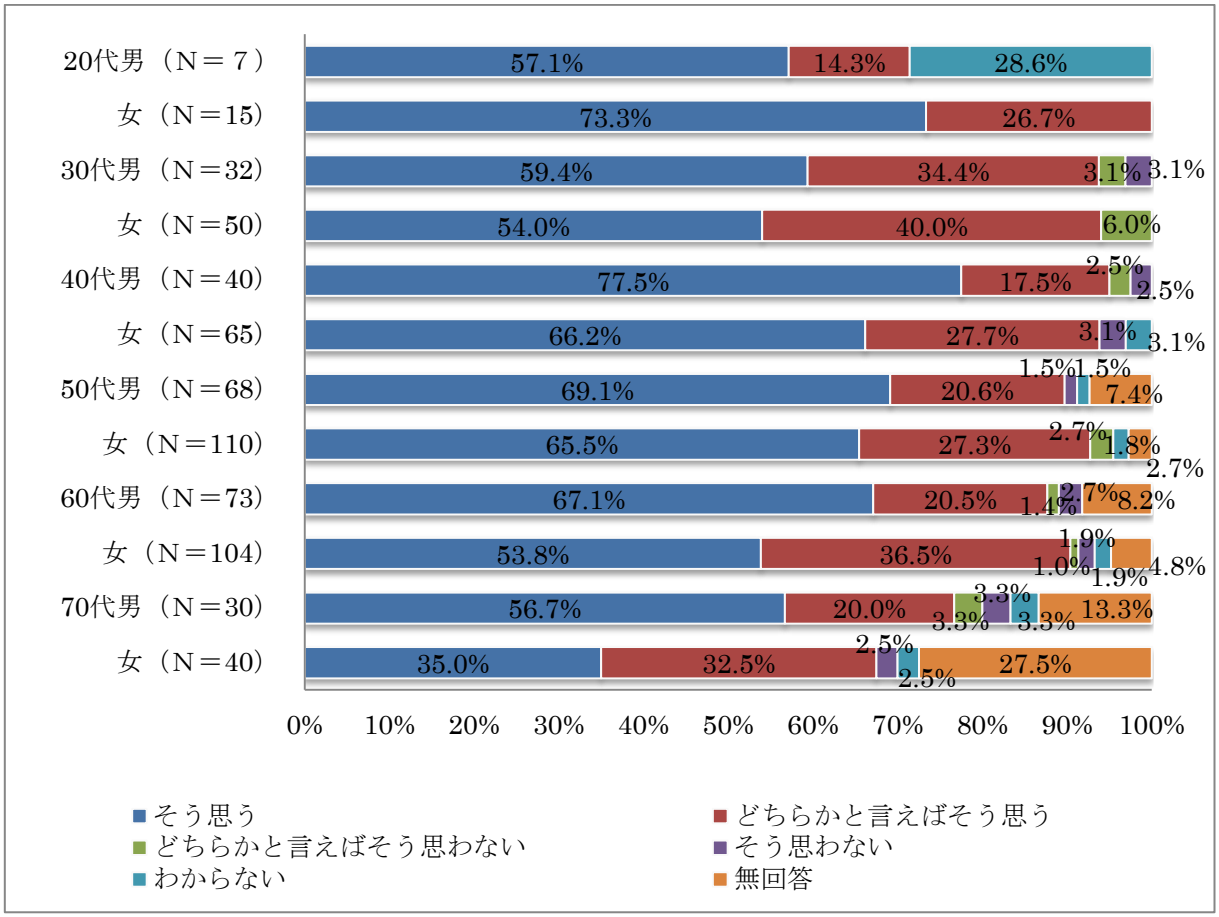
### ②男女に関わらず、個性や能力、希望に応じて育てる方がよい

「そう思う」60.9%が最も多くなった。



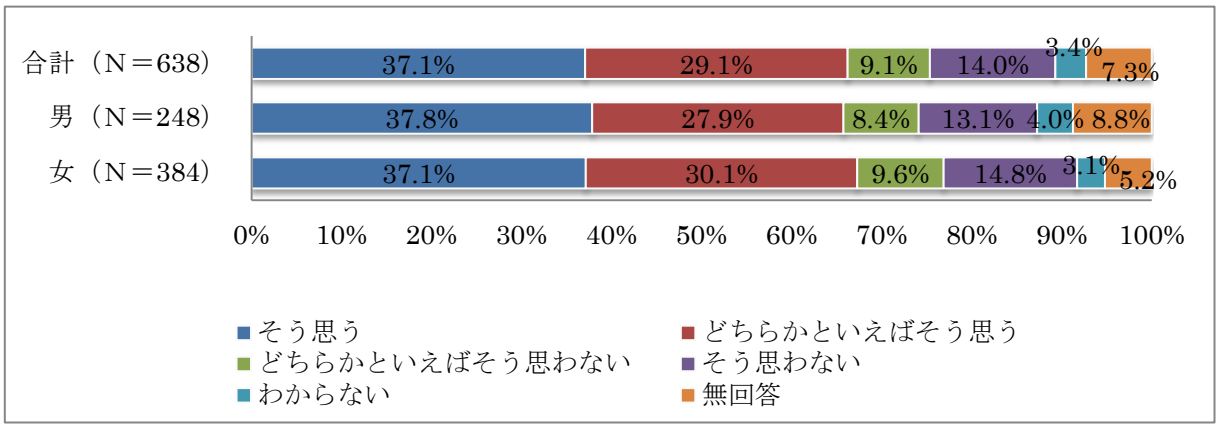

年代別にみると、70 代女性の「そう思わない」の項目が、全体的な比率と比較して 25.9 ポイント低くなった。

また、20 代男性の「わからない」28.6%の項目が他年代に比べ高くなった。

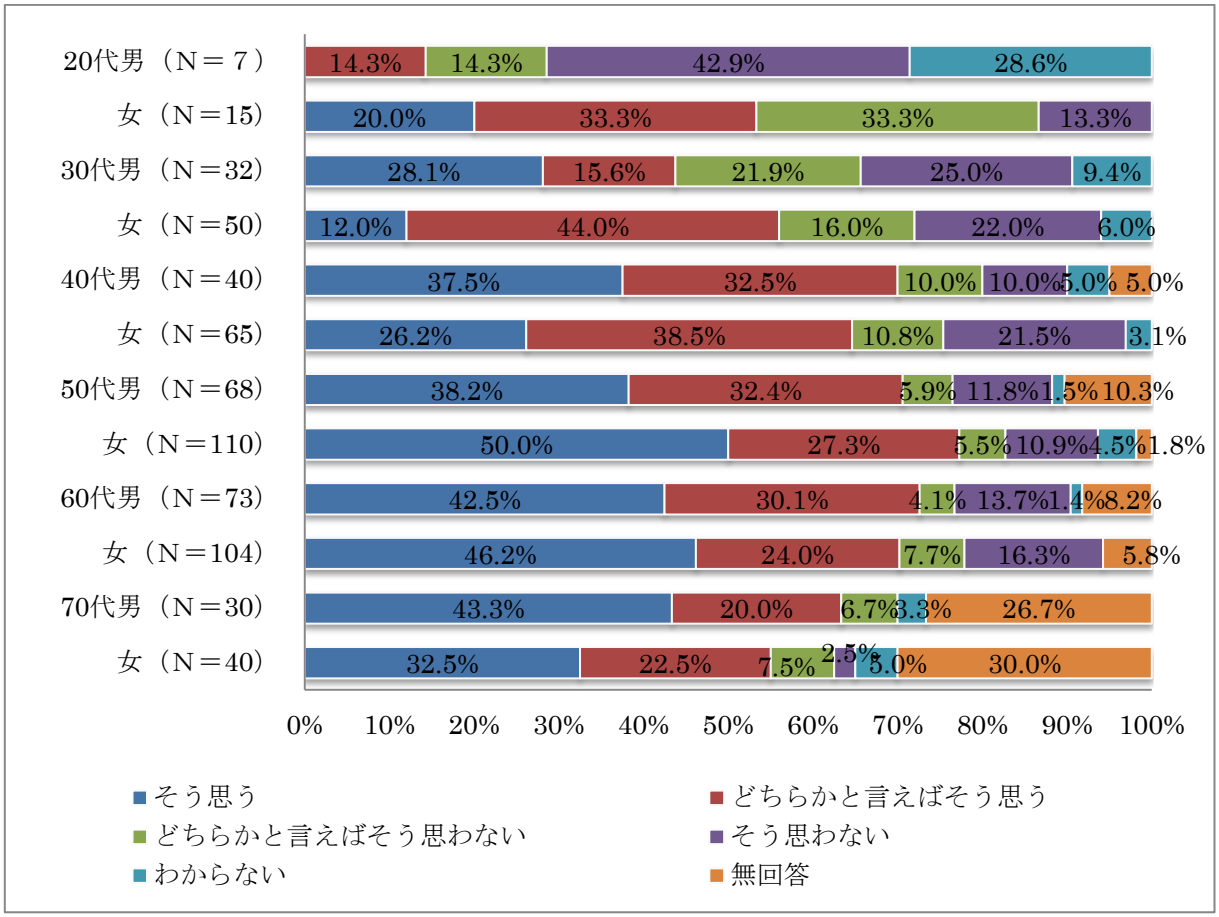


### ③子どもが３歳ぐらいまでは、 家庭で母親が育てる方がよい

男女共に「そう思う」の項目が最も多くなった。




年代別にみると、20 代男性では「そう思う」が 0%となり、「そう思わない」42.9%の項目が、全体的な比率と比較して 28.9 ポイント高くなった。また、20 代女性の「どちらかと言えばそう思わない」33.3%の項目が、全体的な比率と比較して 24.2 ポイント高くなった。

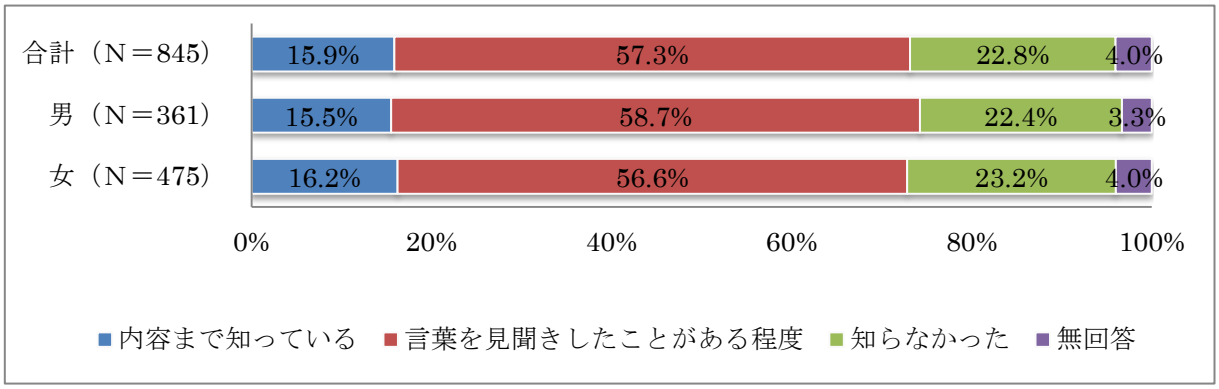


## ２．男女平等意識について

問 12　あなたは「男女共同参画社会」について知っていますか。

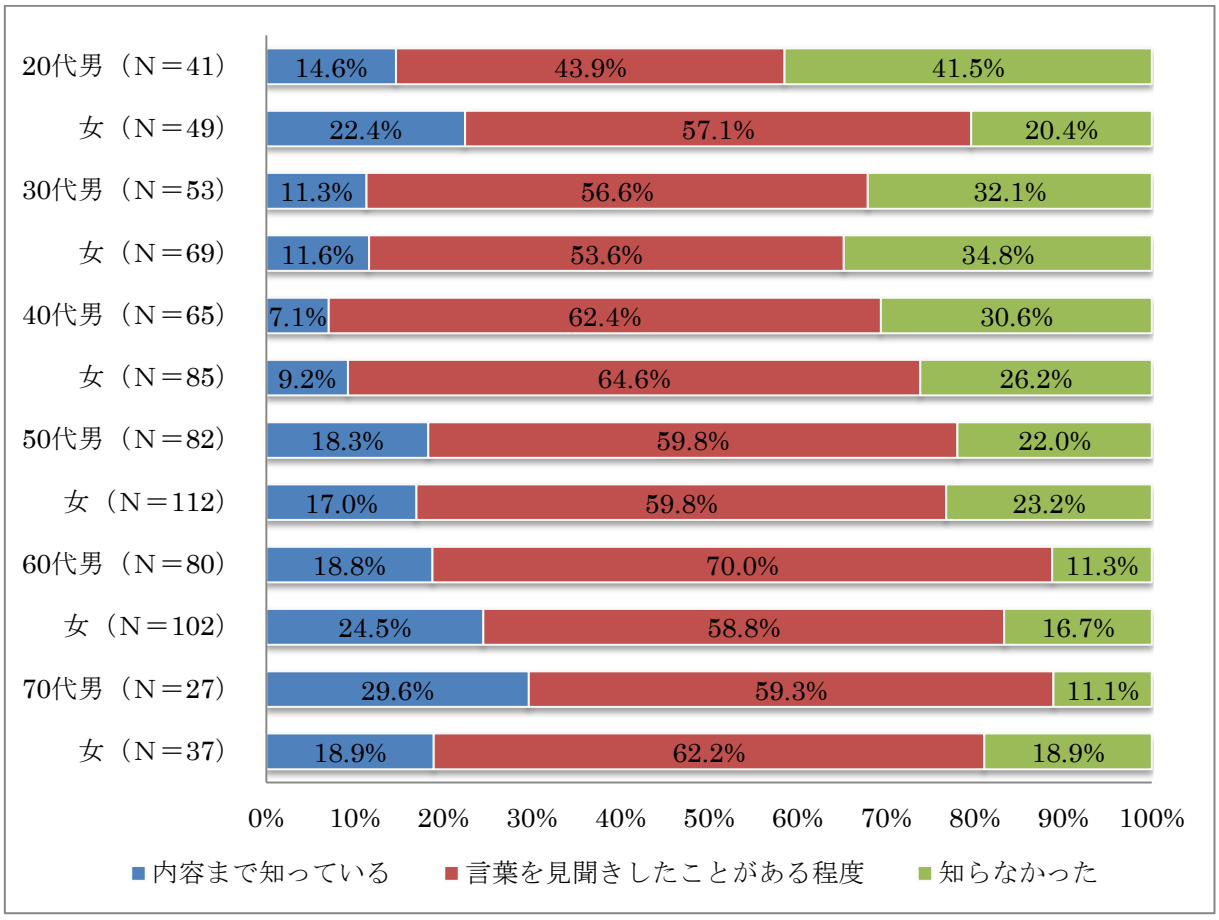
男女とも「言葉を見聞きしたことがある程度」が最も多くなった。

前回調査と比較すると、「内容まで知っている」で男性 6.2 ポイント減、女性 0.9 ポイント減となり、「言葉を見聞きしたことがある程度」が男性 5.4 ポイント増、女性 1.1 ポイント増となった。




年代別にみると、20 代男性の「知らなかった」と回答した割合が 41.5%と最も高くなり、次いで 30 代女性 34.8%、30 代男性 32.1%となった。

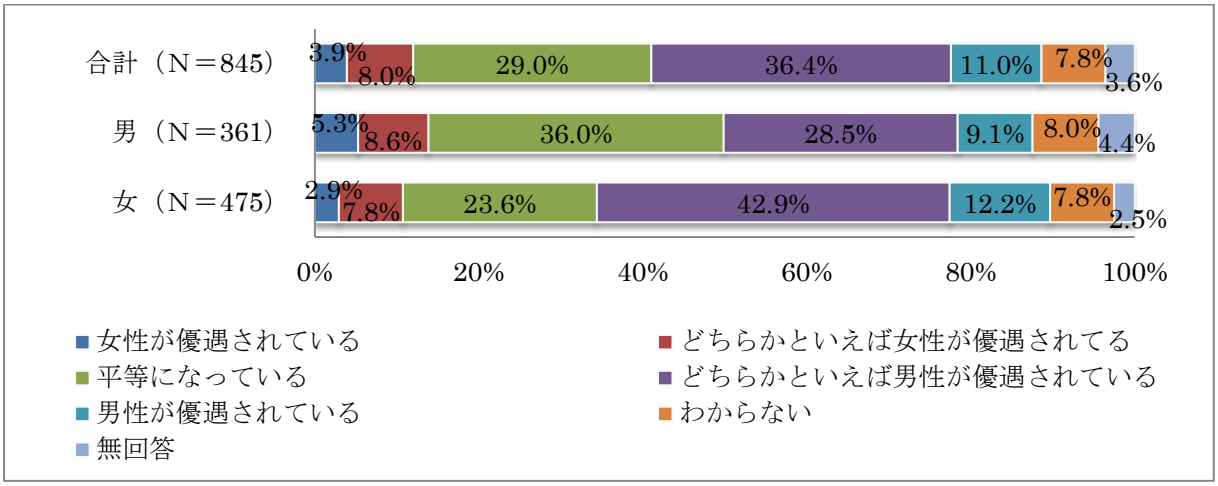
「内容まで知っている」と回答した割合が最も高かったのは 70 代男性で 29.6%、次いで 60 代女性 24.5%、20 代女性の 22.4%となった。



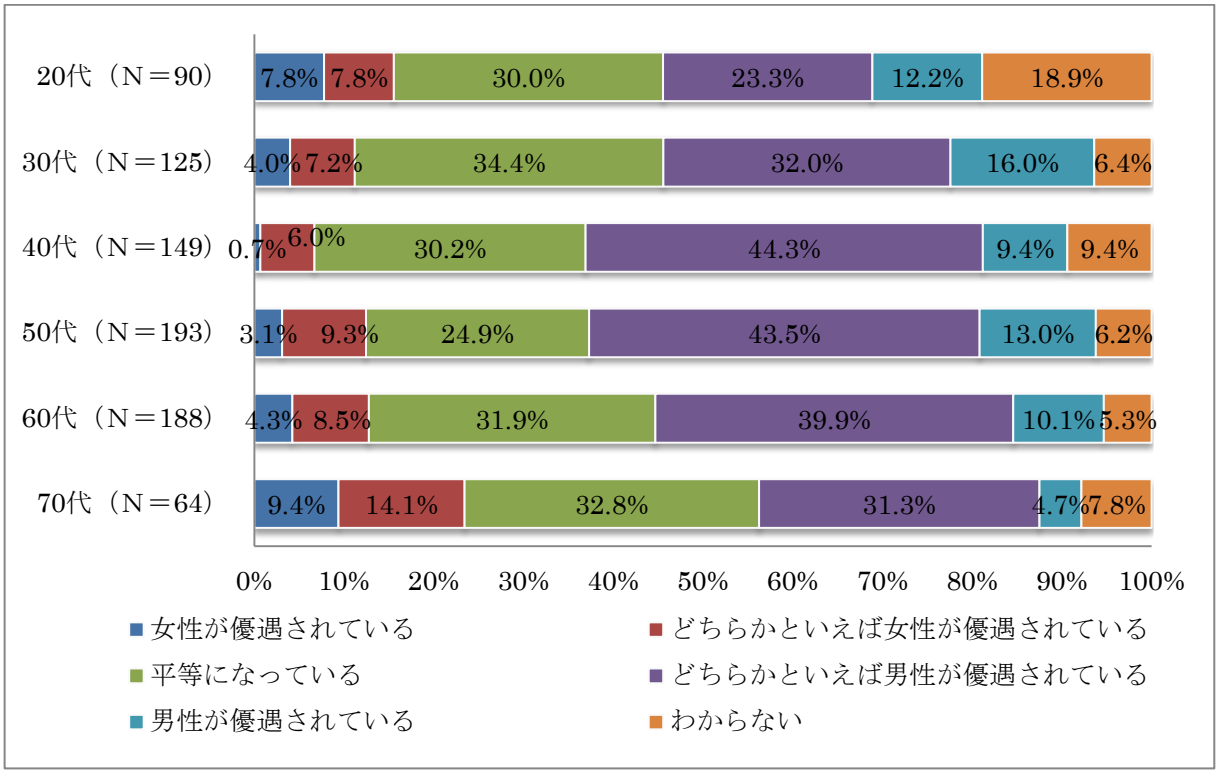
問 13　あなたは、次のような面で男女の地位は平等になっていると思いますか。

**①家庭の中で**

男女の意識の差（ポイント）でみると「平等になっている」の項目で男性が 12.4 ポイント高くなり、「どちらかといえば男性が優遇されている」の項目で女性が 14.4 ポイント高くなった。



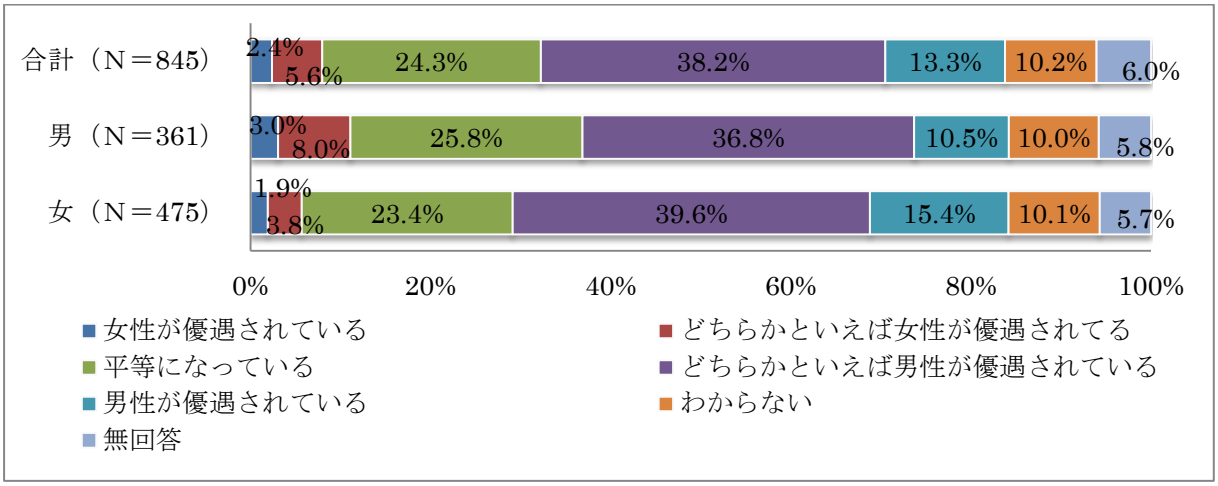

年代の意識の差（ポイント）で 30 代と 70 代を比較すると「男性が優遇されている」の項目で、30 代が 11.3 ポイント高くなった。



### ②職場の中で

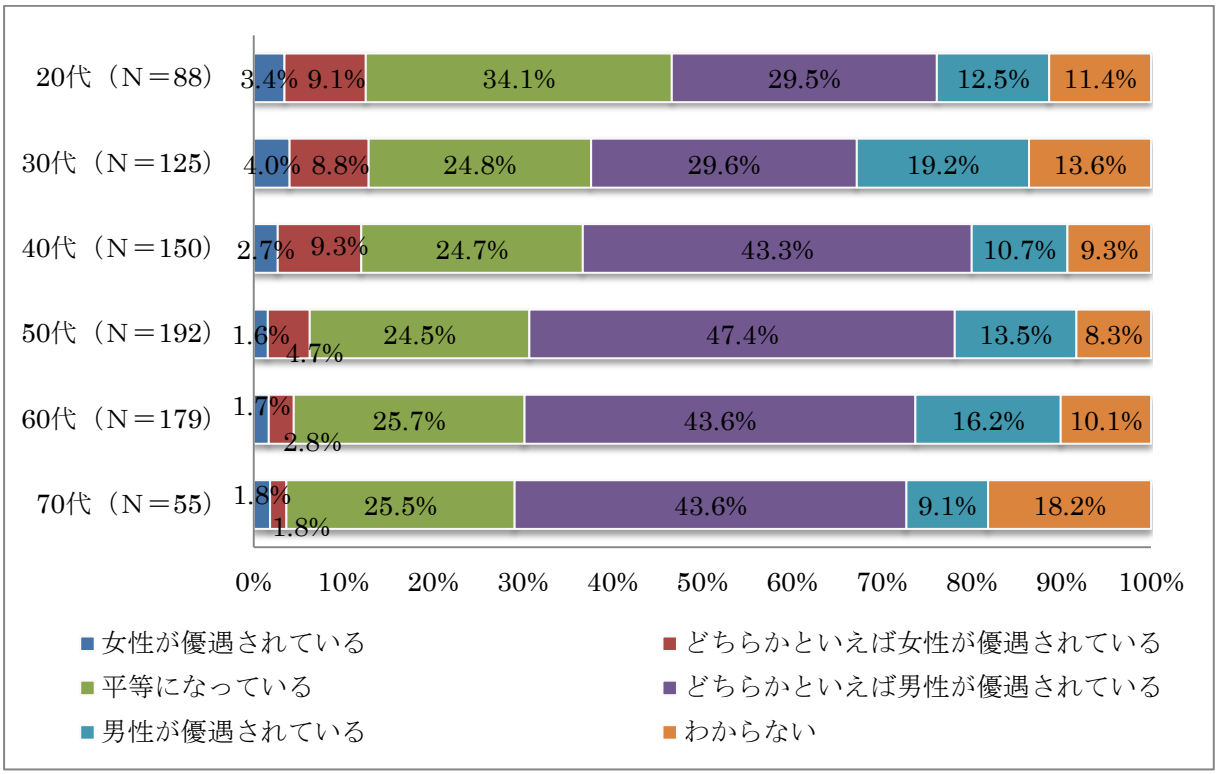
男女共に「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も多くなった。

男女の意識の差（ポイント）でみると「どちらかといえば女性が優遇されている」の項目で男性が 4.2 ポイント高くなり、「男性が優遇されている」の項目で女性が 4.9 ポイント高くなった。



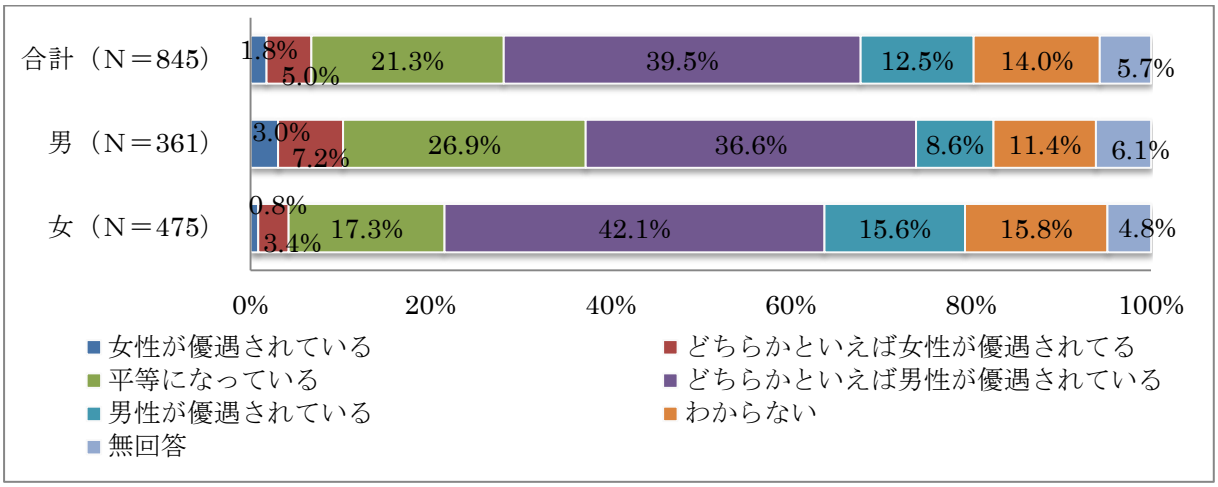

年代別にみると、20 代では「平等になっている」が 34.1%と最も高くなった。

年代の意識の差（ポイント）で 20 代と 50 代を比較すると「どちらかといえば男性が優遇されている」の項目で、50 代が 17.9 ポイント高くなった。



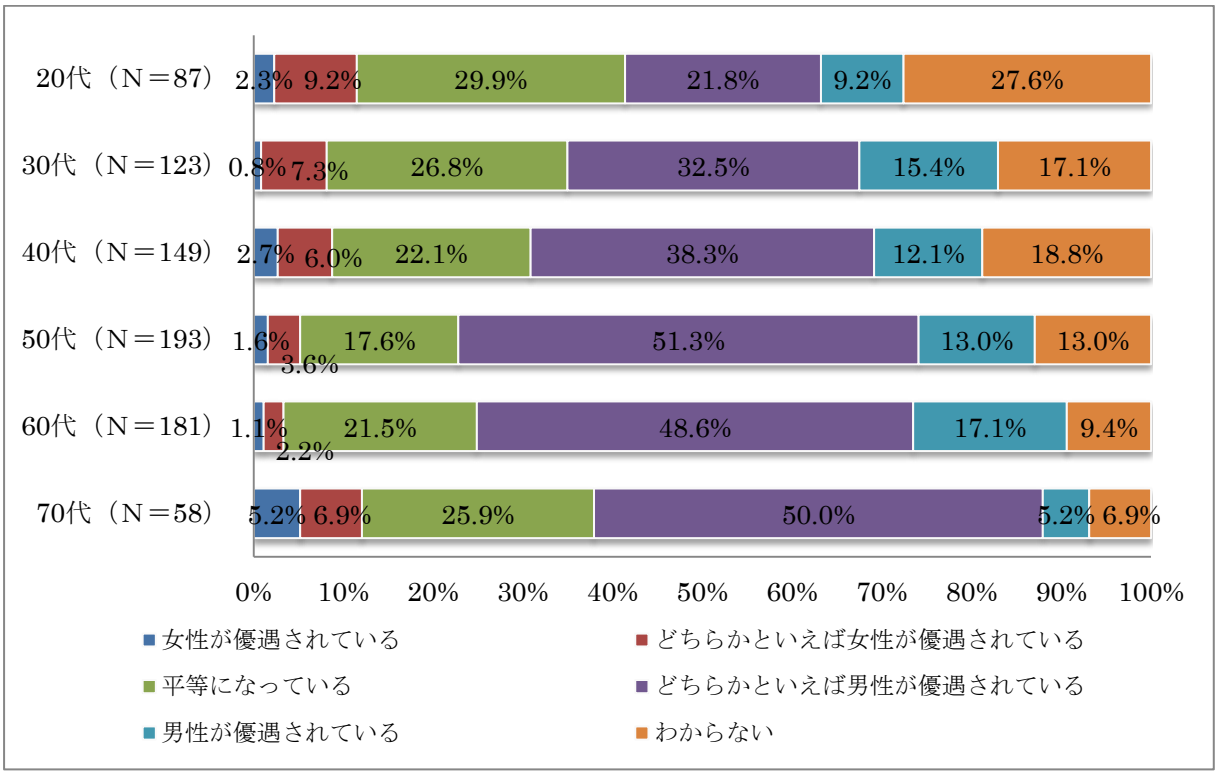
### ③地域の中で

男女の意識の差（ポイント）でみると「平等になっている」の項目で男性が 9.6 ポイント高くなっており、「男性が優遇されている」の項目で女性が 7.0 ポイント高くなった。



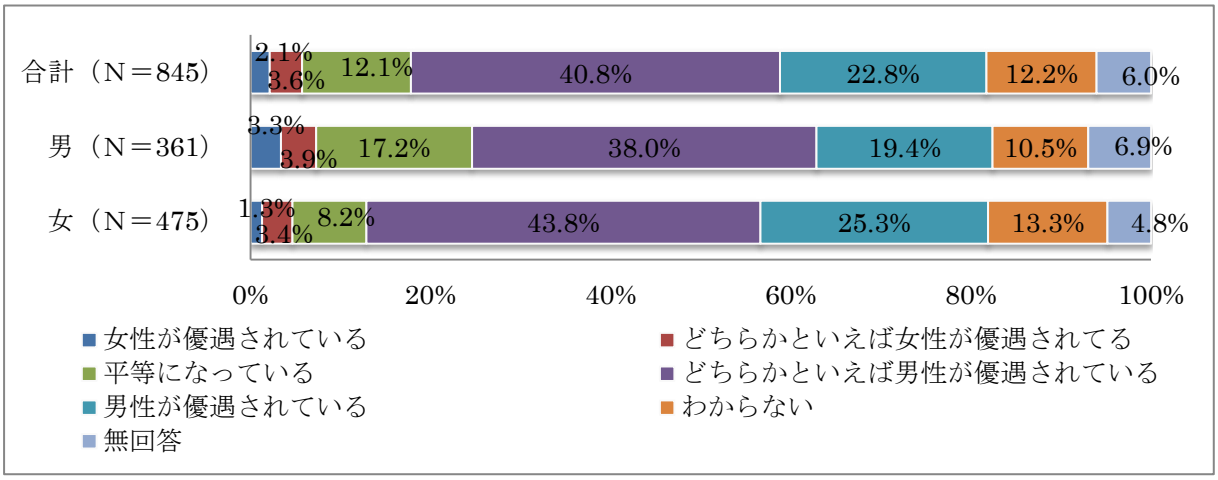

年代の意識の差（ポイント）で 30 代と 70 代を比較すると「どちらかといえば男性が優遇されている」の項目で、70 代が 17.5 ポイント高くなった。

20 代は「わからない」の項目が 27.6%と他の年代に比べ高い割合となった。



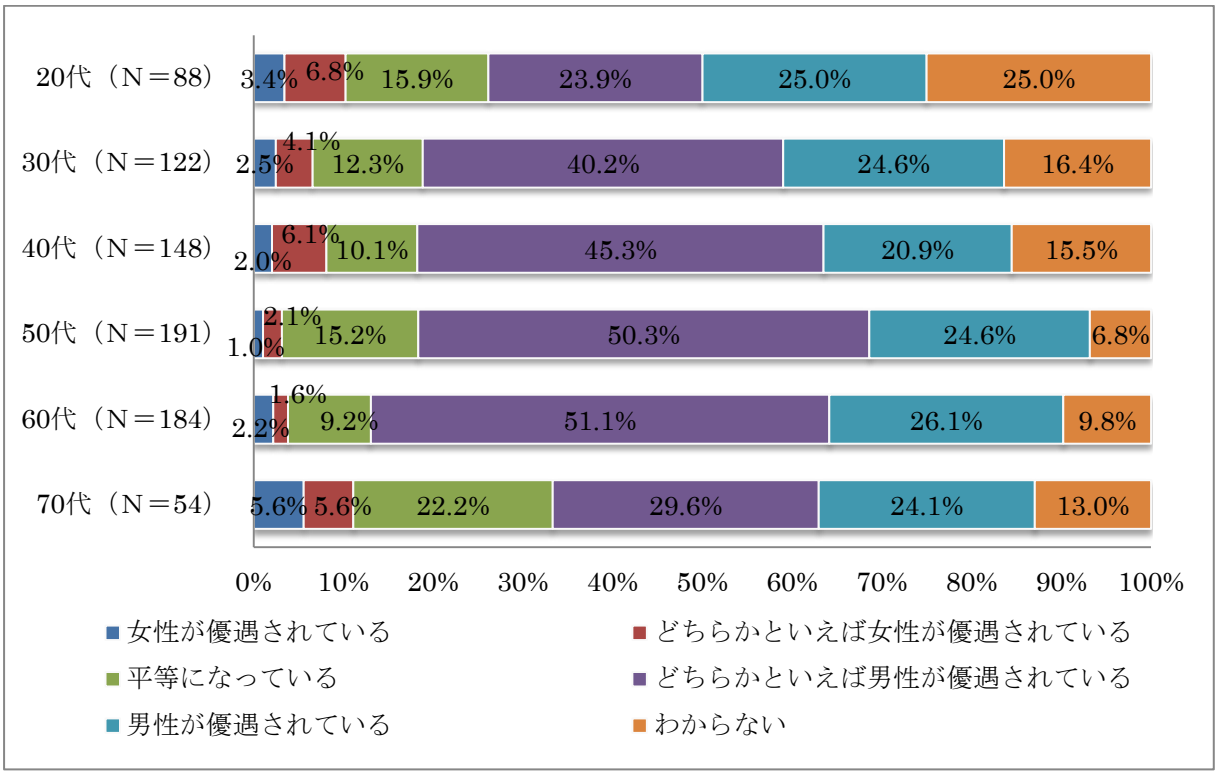
### ④しきたりや慣習で

男女の意識の差（ポイント）でみると「平等になっている」の項目で男性が 9.0 ポイント高くなっており「男性が優遇されている」の項目で女性が 5.9 ポイント高くなった。




年代の意識の差（ポイント）で 20 代と 60 代を比較すると「どちらかといえば男性が優遇されている」の項目で、60 代が 27.2 ポイント高くなった。

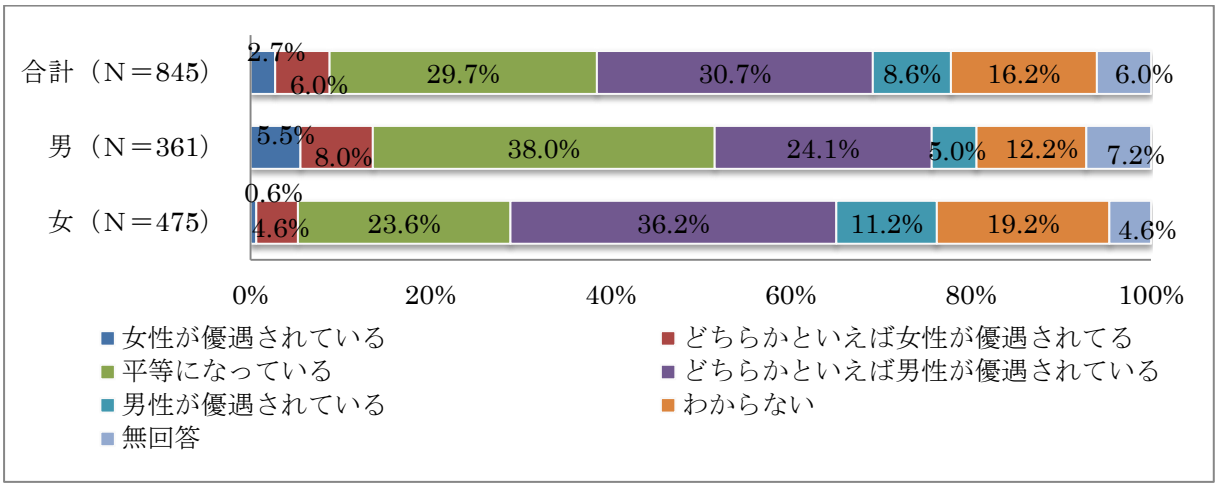
70 代は「平等になっている」の項目が 22.2%と他の年代に比べ高い割合となった。



### ⑤法律や制度の上で

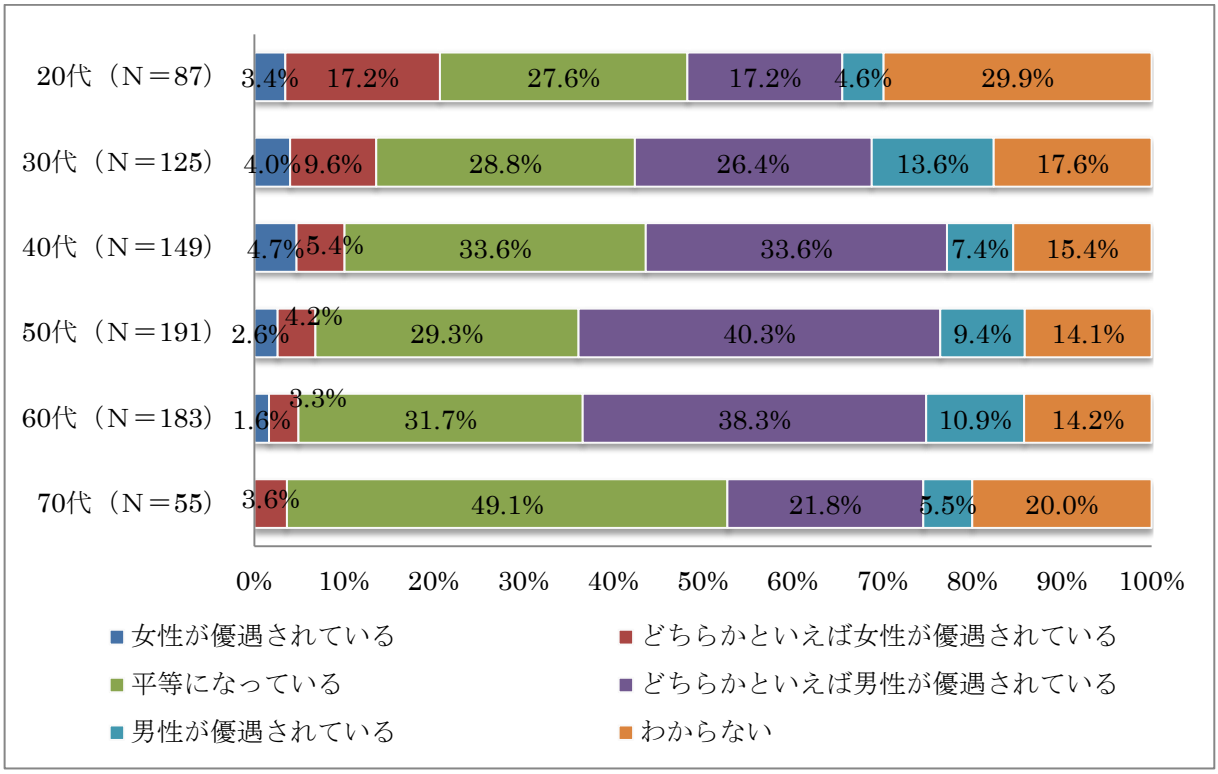
男女の意識の差（ポイント）でみると「平等になっている」の項目で男性が 14.4 ポイント高くなり、「どちらかといえば男性が優遇されている」の項目で女性が 12.1 ポイント高くなった。

前回調査と比較すると「どちらかといえば男性が優遇されている」の項目で男性が 5.8 ポイント、女性が 9.4 ポイント増加した。




年代の意識の差（ポイント）で 20 代と 50 代を比較すると「どちらかといえば男性が優遇されている」の項目で、50 代が 23.1 ポイント高くなった。

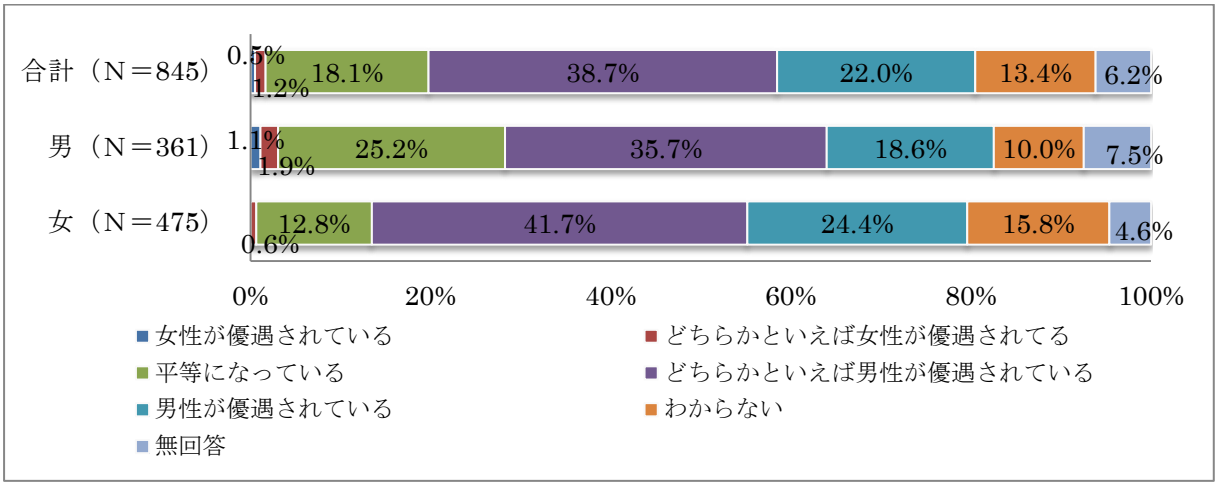
70 代は「平等になっている」の項目が 49.1%と他の年代に比べ高い割合となった。



### ⑥政治の場で

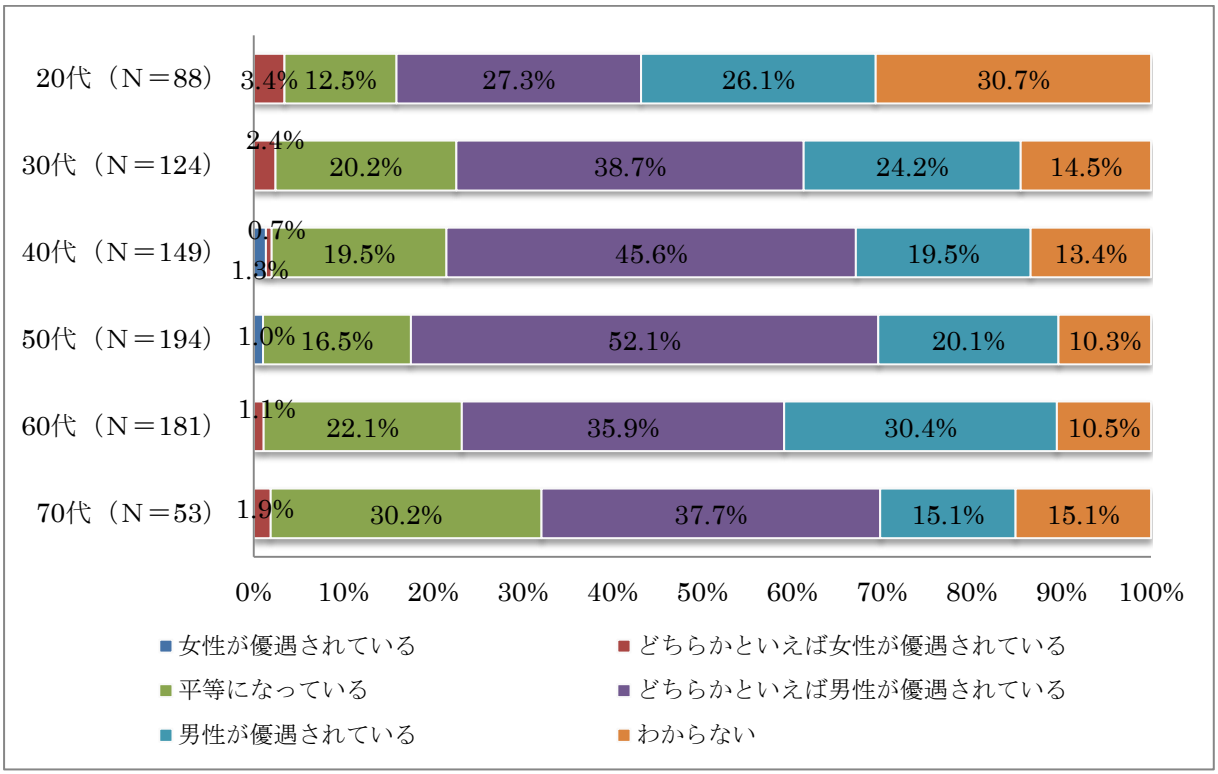
男女の意識の差（ポイント）でみると「平等になっている」の項目で男性が 12.4 ポイント高くなり、「男性が優遇されている」の項目で女性が 5.8 ポイント高くなった。

前回調査と比較すると「どちらかといえば男性が優遇されている」の項目で、男性が 7.2 ポイント、女性が 6.7 ポイント増加した。




年代の意識の差（ポイント）で 60 代と 70 代を比較すると「男性が優遇されている」の項目で、60 代が 15.3 ポイント高くなった。

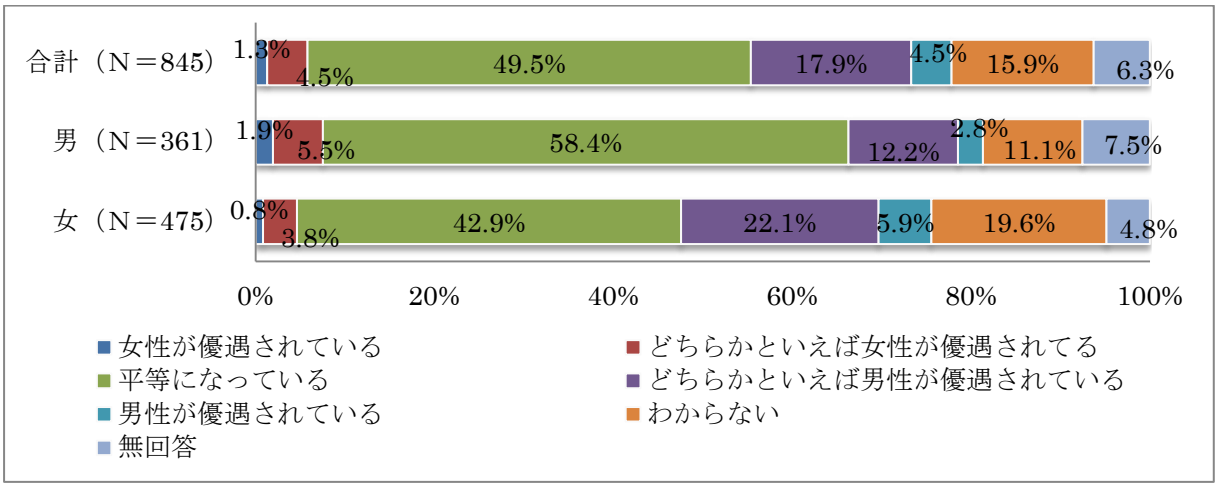
20 代では「わからない」の項目が 30.7%と他の年代に比べ高い割合となった。



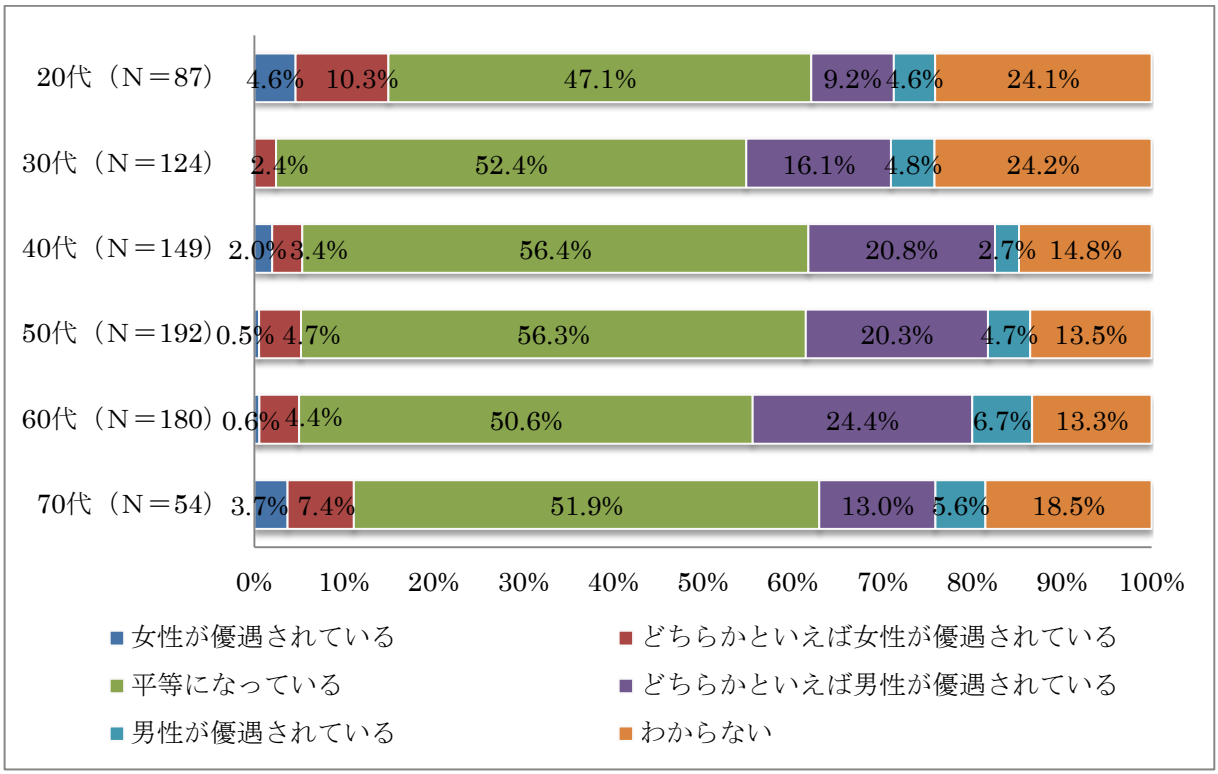
### ⑦教育の場で

男女の意識の差（ポイント）でみると「平等になっている」の項目で男性が 15.5 ポイント高くなり、「どちらかといえば男性が優遇されている」の項目で女性が 9.9 ポイント高くなった。

前回調査と比較すると女性では、「平等になっている」の項目が 2.3 ポイント減少し、「どちらかといえば男性が優遇されている」の項目が 6.1 ポイント増加した。



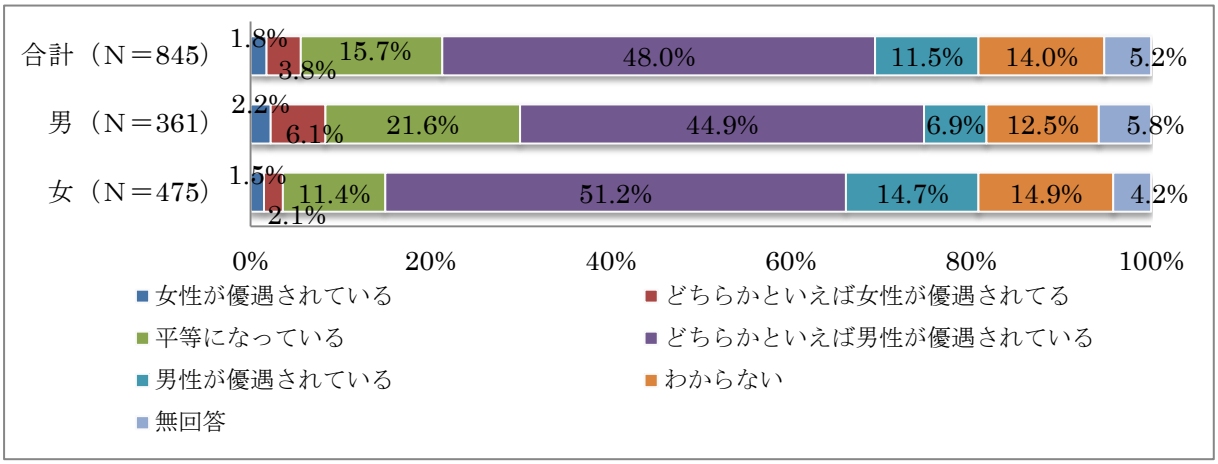

年代の意識の差（ポイント）で 20 代と 60 代を比較すると「どちらかといえば男性が優遇されている」の項目で、60 代が 15.2 ポイント高くなった。



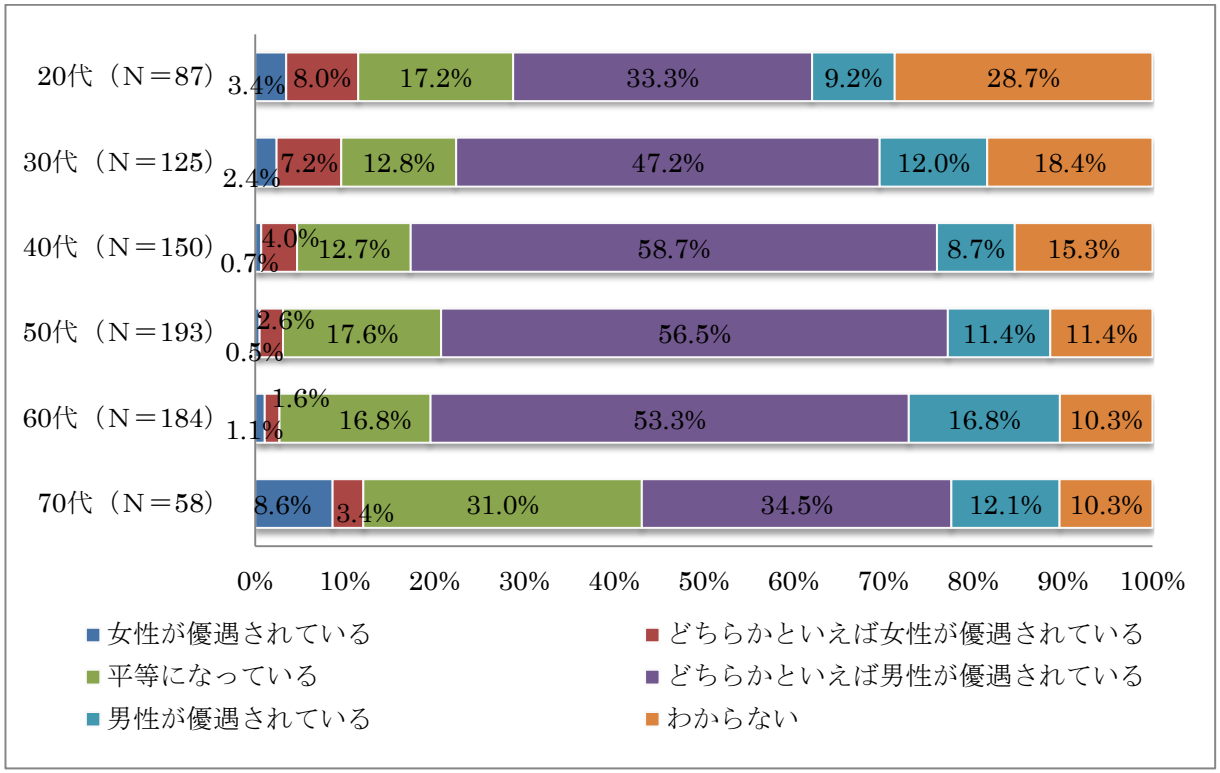
## ⑧社会全体として

男女の意識の差（ポイント）でみると「平等になっている」の項目で男性が 10.2 ポイント高くなり、「男性が優遇されている」の項目で女性が 7.8 ポイント高くなった。

前回調査と比較すると「どちらかといえば男性が優遇されている」の項目で、男性が 9.7 ポイント、女性が 7.7 ポイント増加した。



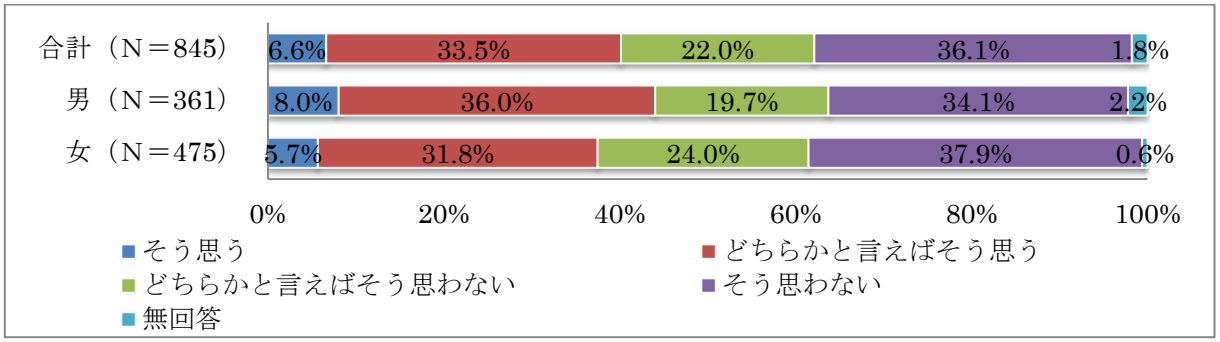

年代別にみると、70 代では「平等になっている」の項目が 31.0%、20 代では「わからない」の項目が 28.7%と他の年代に比べ高い割合となった。



問 14　「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

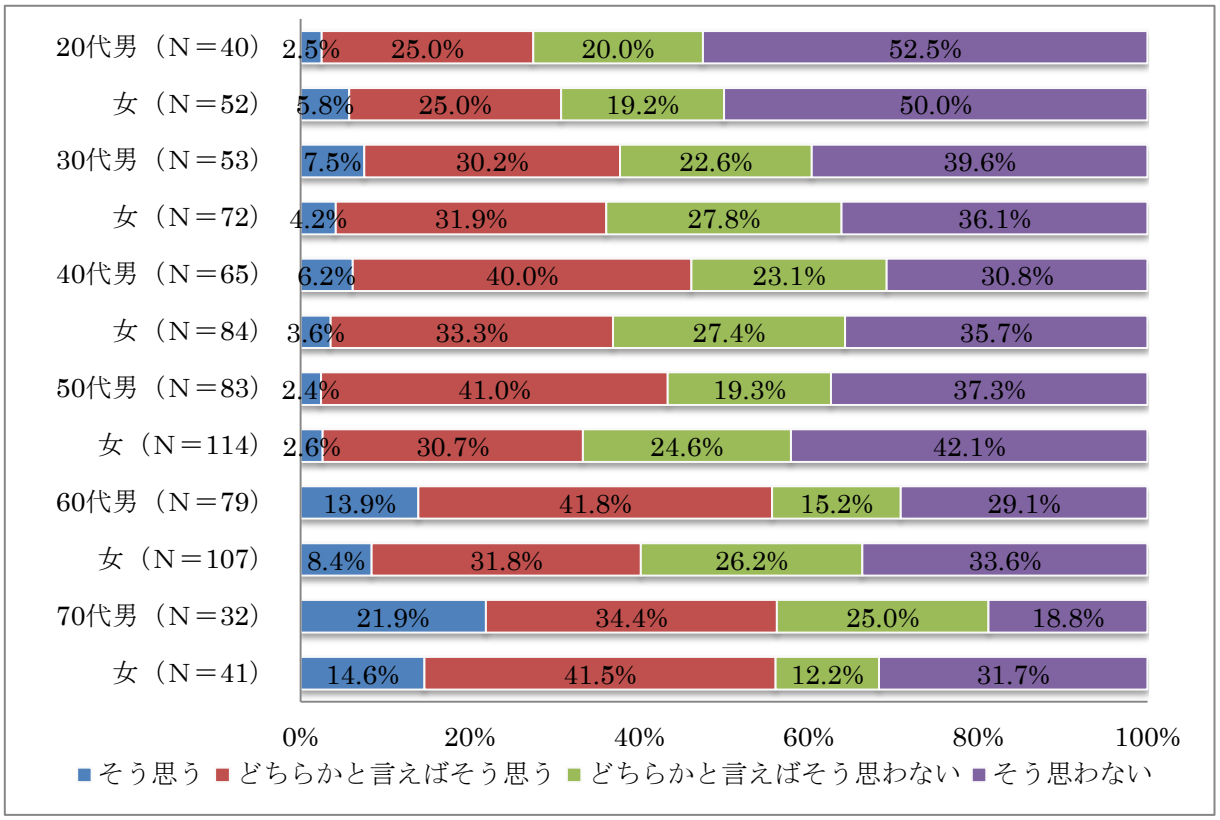
男女別にみると、男性は「どちらかと言えばそう思う」が 36.0%で最も高く、女性は「そう思わない」が 37.9%と最も高くなった。

前回調査と比較すると、女性が「どちらかと言えばそう思う」が 1.9 ポイント減少し、「どちらかと言えばそう思わない」が 4.5 ポイント増加した。




年代別にみると「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が最も高くなったのは男女共に 70 代で、男性 56.3%、女性 56.1%となった。

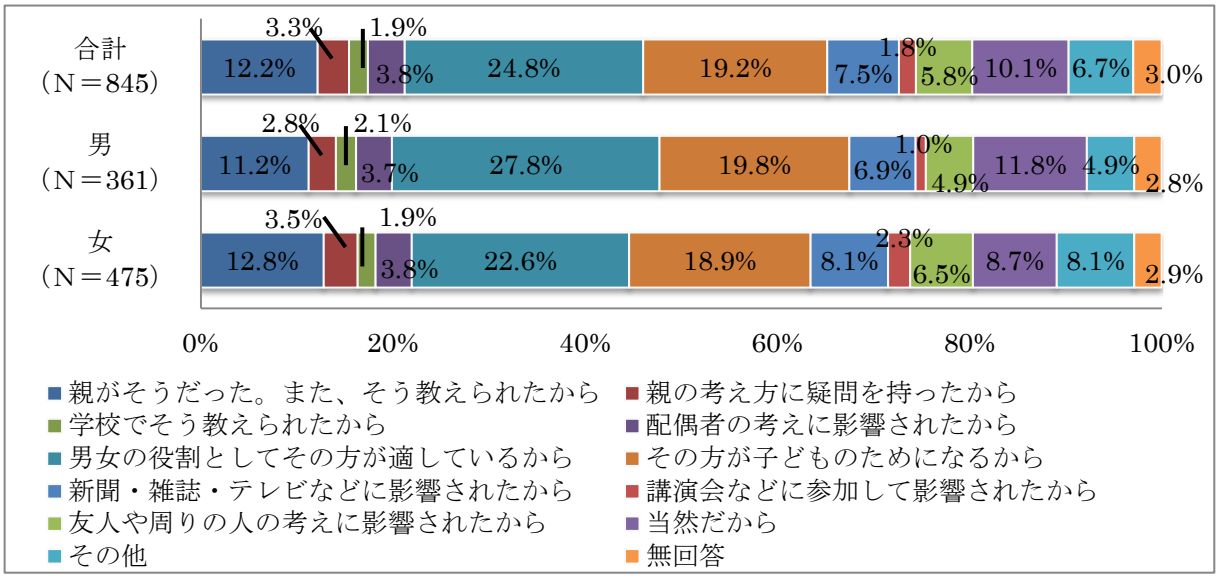
「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合が最も高くなったのは男女共に 20 代で男性 72.5%、女性 69.2%となった。



問 15　問 14 の回答のように考えるようになった理由【複数回答】

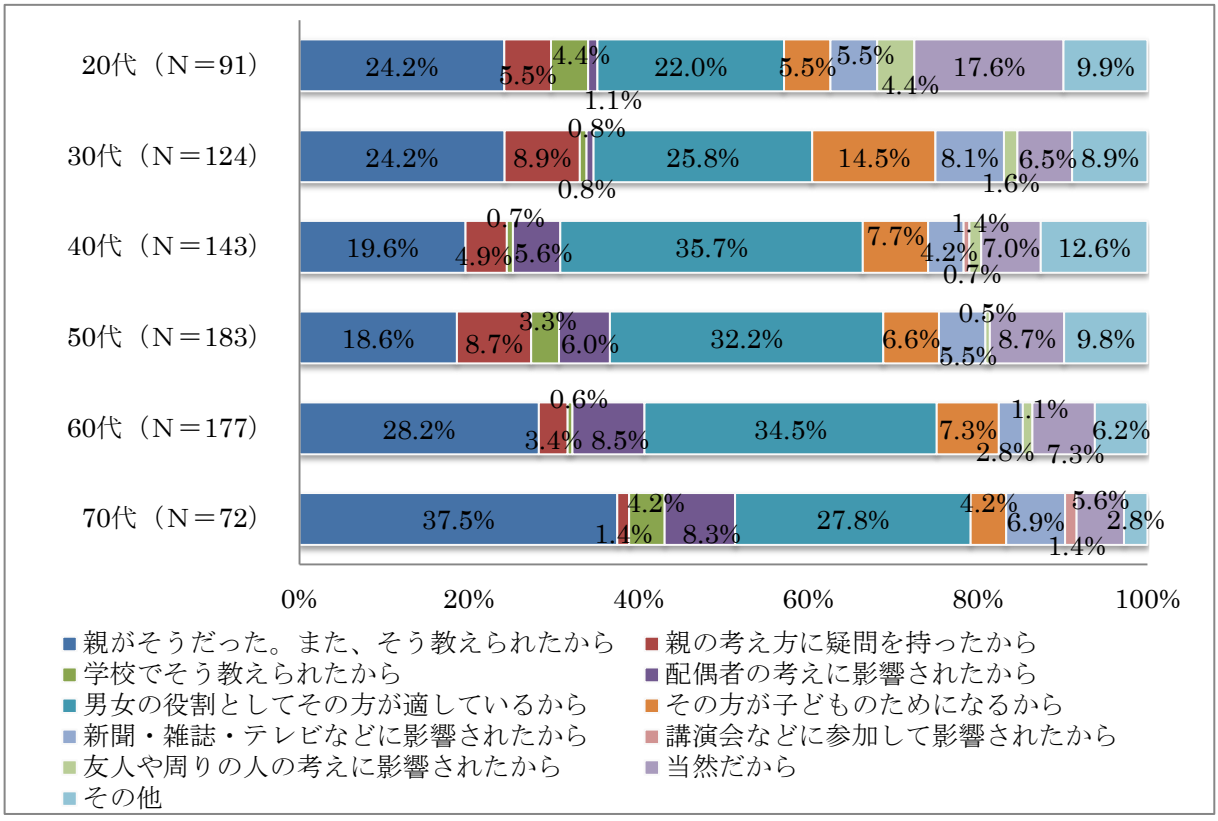
男女共に「男女の役割としてその方が適しているから」が最も多い回答となった。

前回調査と比較すると「当然だから」の項目で男性 1.8 ポイント、女性 4.2 ポイント減少し、「その方が子どものためになるから」の項目で男性 6.8 ポイント、女性 5.6 ポイント増加した。




年代別にみると、30 代～60 代では「男女の役割としてその方が適しているから」が最も高くなった。

20 代では「当然だから」の項目が 17.6%と他の年代に比べ高い割合となった。

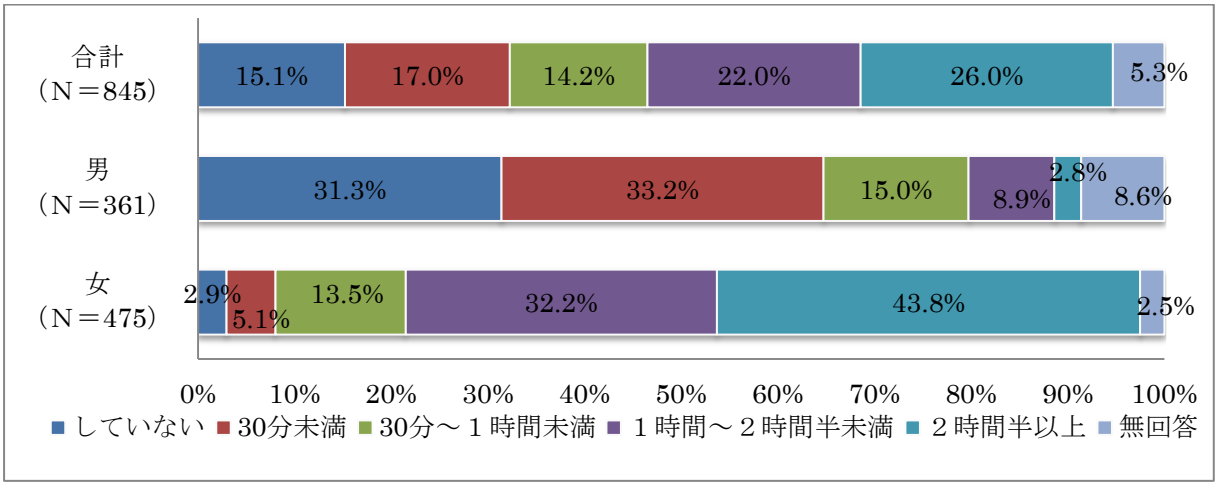


問 16　あなたの家事・育児・介護にかかわる時間は１日当たり、どのくらいですか。

**①家事にかかわる時間**

男女別にみると、男性が「30 分未満」が 33.2%と最も多く、女性は「２時間半以上」が 43.8%が最も多くなった。

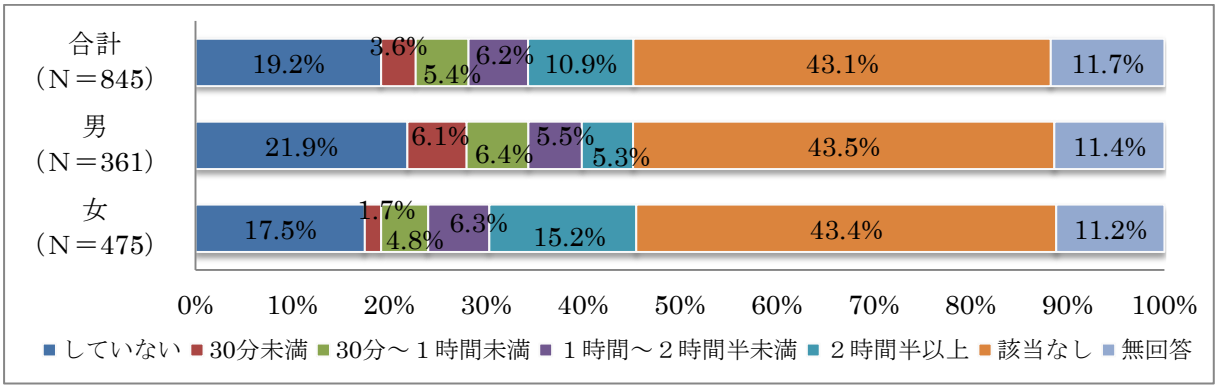
前回調査と比較すると、「30 分未満」の項目で男性が 5.5 ポイント増となった。




**②育児**

全体でみると「該当なし」の項目が 43.1%で最も高くなった。

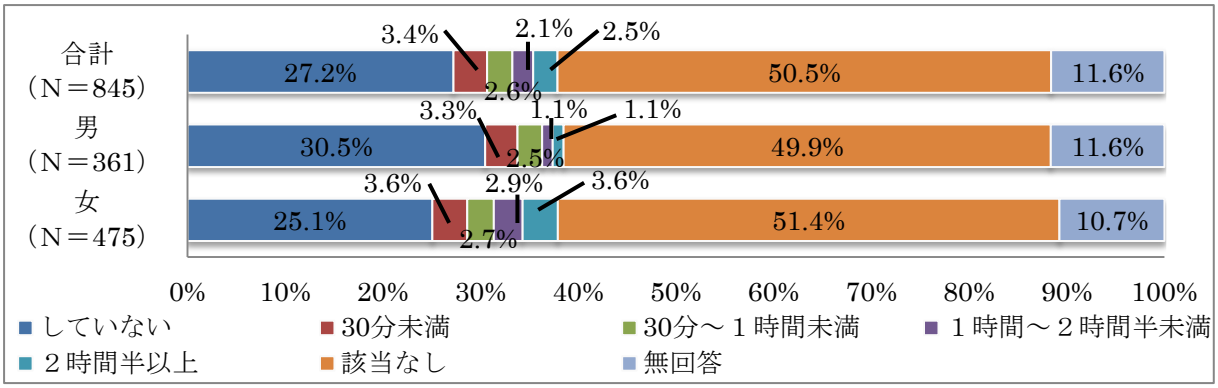
男女の意識の差（ポイント）でみると、「２時間半以上」の項目で女性が 9.9 ポイント高くなった。




**③介護**

全体でみると「該当なし」の項目が 50.5%で最も高くなった。

男女の意識の差（ポイント）でみると、「２時間半以上」の項目で女性が 2.5 ポイント高くなった。



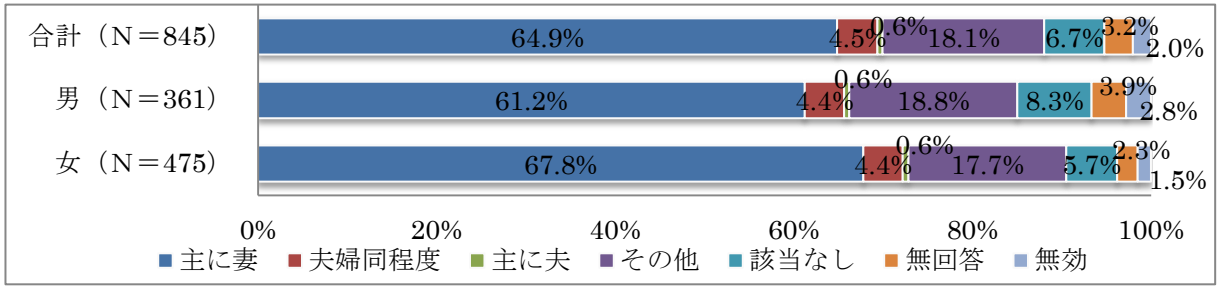
問 17　あなたの家庭では、次にあげる家事などを主にだれが担っていますか。

### ①食事の準備

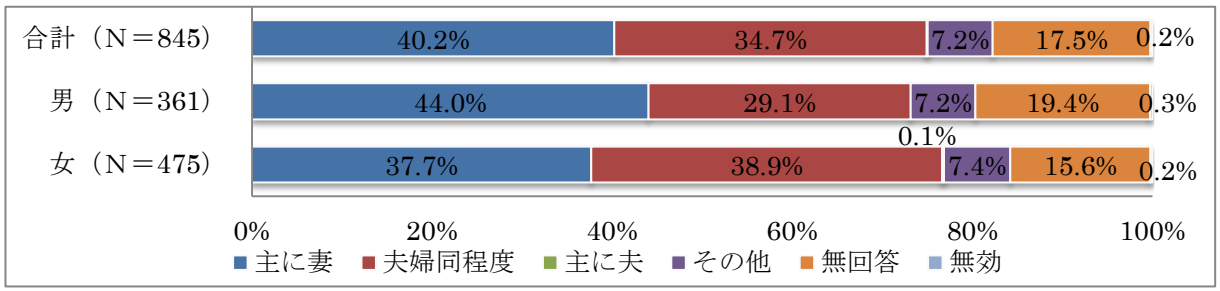
【現状】は、「主に妻」が最も多く、【理想】では、男性が「主に妻」、女性が「夫婦同程度」が最も多くなった。

前回調査と比較すると、【現状】【理想】とも「主に妻」の項目が増加（【現状】男性 10.6、女性 6.4 ポイント増、【理想】男性 2.7、女性 4.5 ポイント増）し、「その他」の項目が減少した。

・現状




・理想

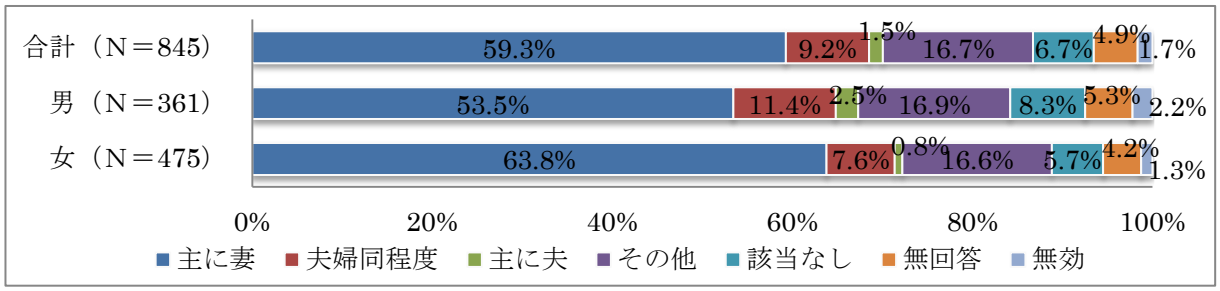



### ②食事の後片付け

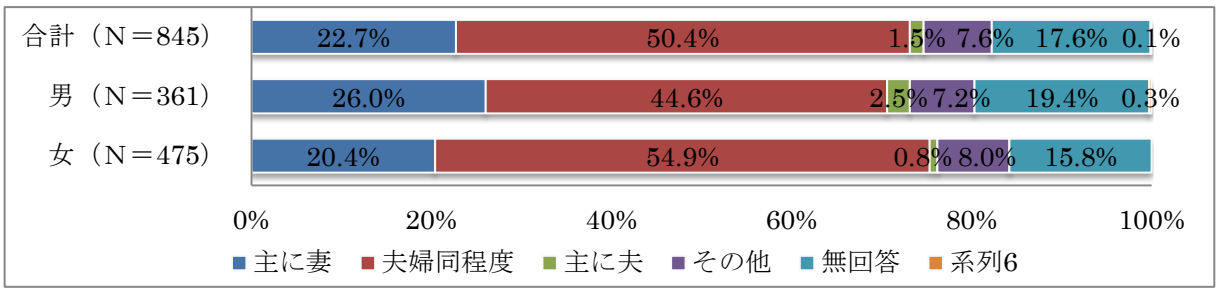
【現状】は「主に妻」が最も多く、【理想】では「夫婦同程度」が最も多くなった。

前回調査と比較すると、【現状】【理想】とも「主に妻」の項目が増加（【現状】男性 10.8、女性 4.8 ポイント増、【理想】男性 5.0、女性 4.4 ポイント増）し、【現状】は「その他」、【理想】は「夫婦同程度」の項目が減少した。

・現状




・理想



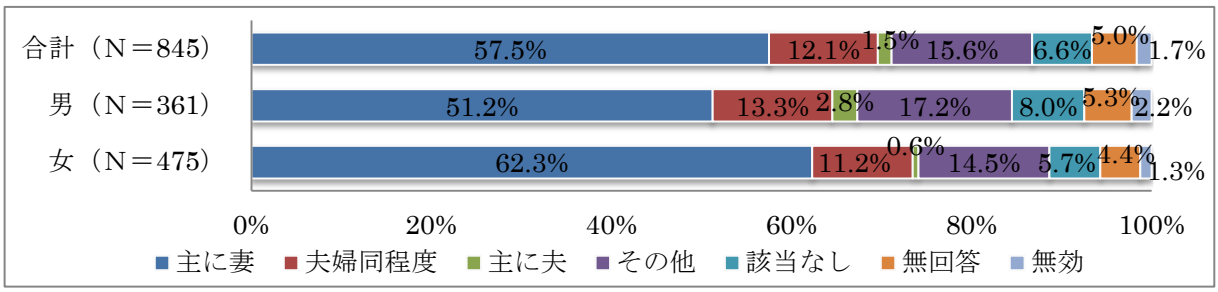
### ③掃除

【現状】は「主に妻」が最も多く、【理想】では「夫婦同程度」が最も多くなった。

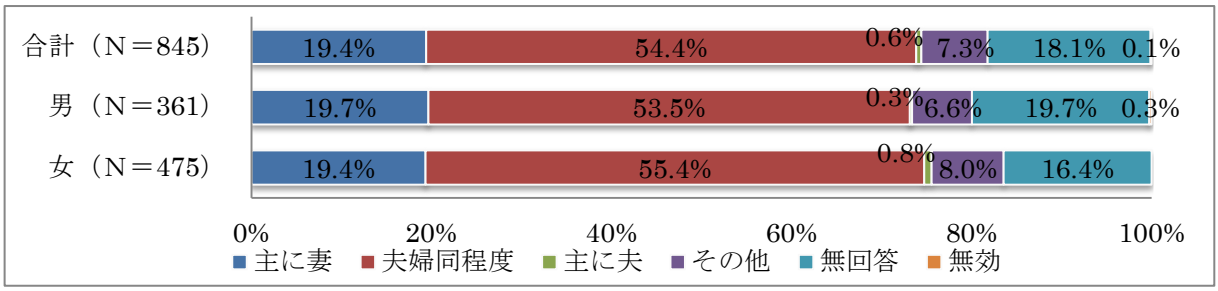
前回調査と比較すると【現状】の「主に妻」項目が増加（男性 8.1、女性 5.8 ポイント増）し、「その他」の項目が減少した。

【理想】では「夫婦同程度」の項目が増加（男性 3.9、女性 1.8 ポイント増）し、「主に妻」の項目が減少した。

・現状




・理想



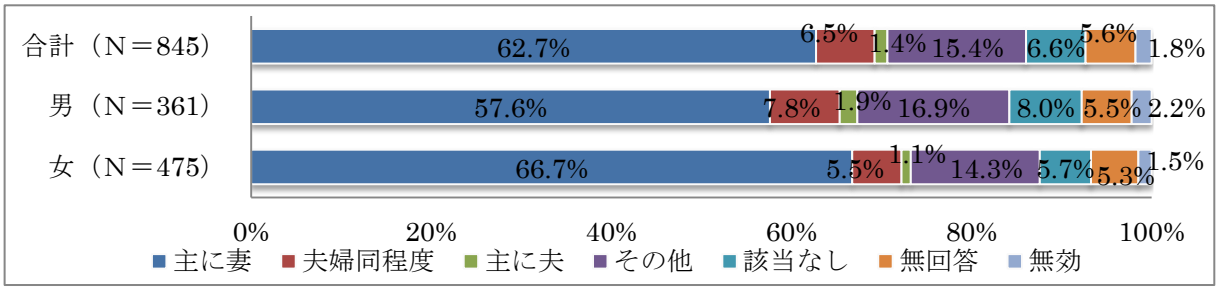

### ④洗濯

【現状】は「主に妻」が最も多く、【理想】では、男性が「夫婦同程度」、女性が「主に妻」が最も多くなった。

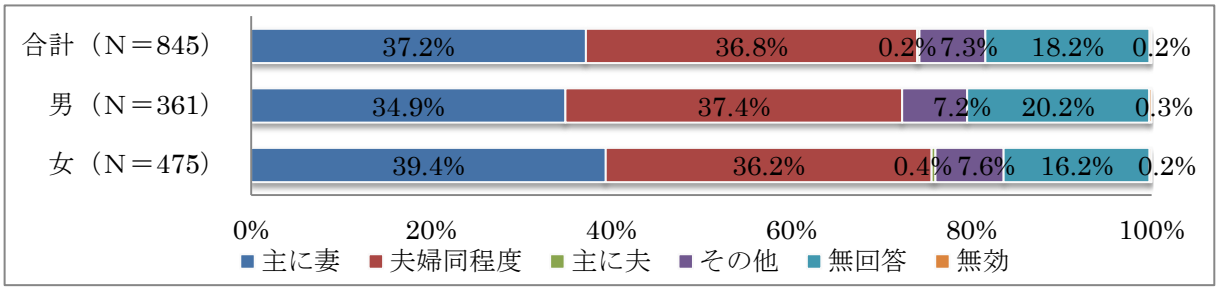
前回調査と比較すると【現状】の「主に妻」の項目が増加（男性 9.5、女性 6.9 ポイント増）し、「その他」の項目が減少した。

【理想】では「主に妻」の項目が増加（男性 4.7、女性 7.2 ポイント増）し、「夫婦同程度」の項目が減少した。

・現状




・理想



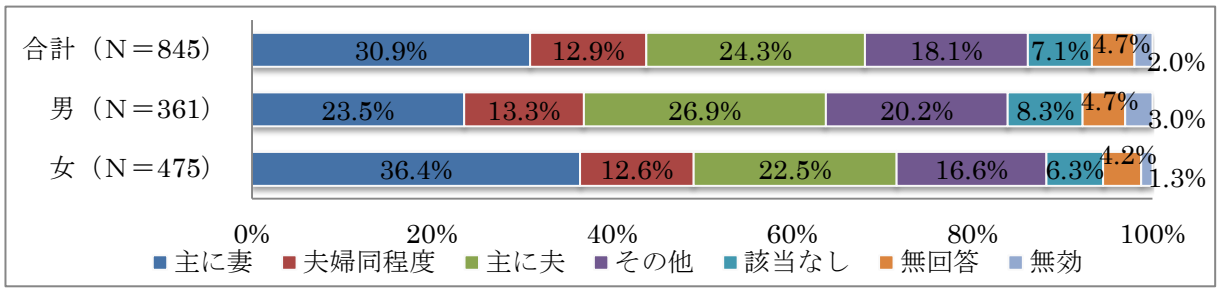
## ⑤ゴミ出し

【現状】は「主に妻」30.9%、次いで「主に夫」24.3%で、【理想】では、男女共に「夫婦同程度」が最も多くなった。

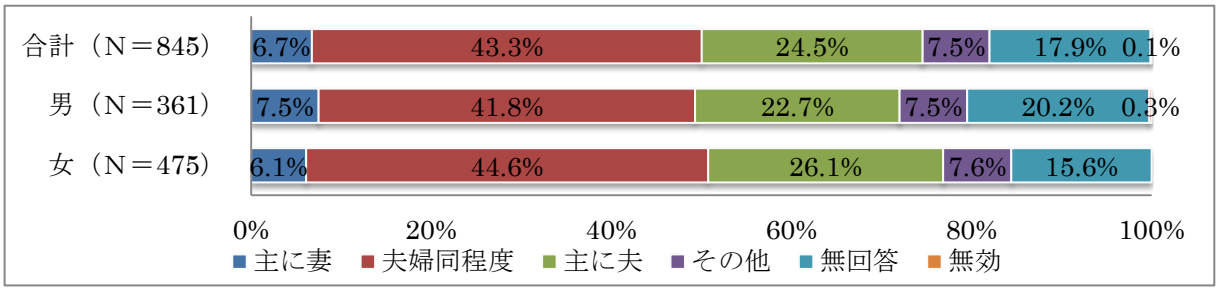
前回調査と比較すると【現状】では「主に妻」の項目が増加（男性 10.6、女性 7.5 ポイント増）し、「夫婦同程度」の項目が減少した。

【理想】では「その他」の項目が増加（男性 2.5、女性 1.2 ポイント増）し、「主に夫」の項目が減少した。

・現状




・理想



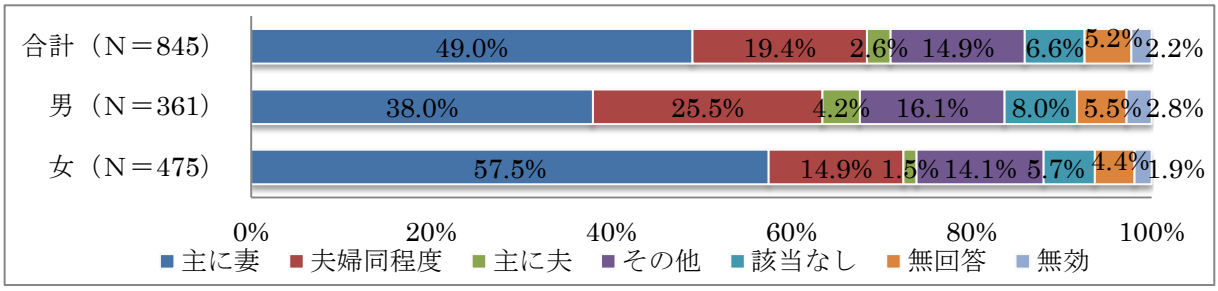

## ⑥日用品の買い物

【現状】は「主に妻」が最も多く、【理想】では、「夫婦同程度」が最も多くなっている。

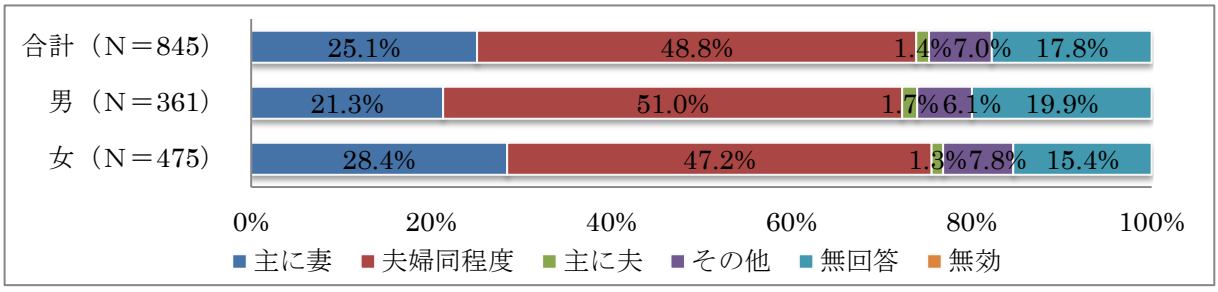
前回調査と比較すると【現状】の「主に妻」の項目が増加（男性 3.8、女性 5.8 ポイント増）し、「その他」の項目が減少した。

【理想】では「主に妻」の項目が増加（男性 4.0、女性 5.1 ポイント増）し、「夫婦同程度」の項目が減少した。

・現状




・理想

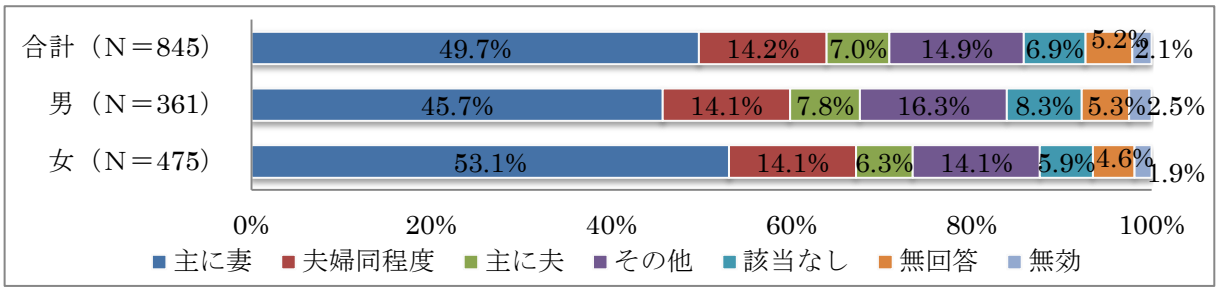


## ⑦家計の管理

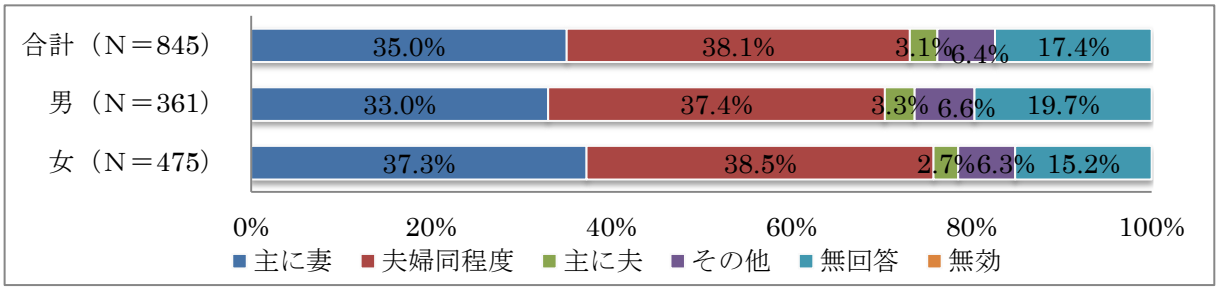
【現状】は「主に妻」が最も多く、【理想】では、「夫婦同程度」が最も多くなった。

前回調査と比較すると【現状】【理想】ともに「主に妻」の項目が増加（【現状】男性 7.8、女性 6.8 ポイント増、【理想】男性 2.6、女性 8.8 ポイント増）し、【現状】では「その他」が、【理想】では「夫婦同程度」の項目が減少した。

・現状




・理想



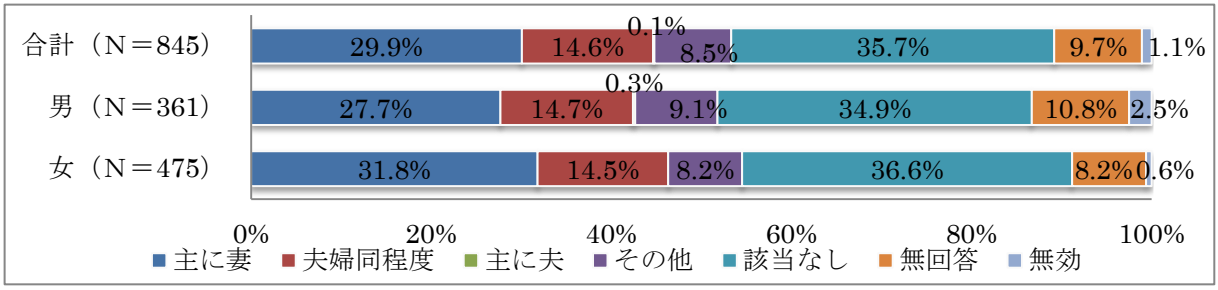

## ⑧育児

【現状】は「該当なし」35.7%、次いで「主に妻」29.9%で、【理想】では「夫婦同程度」が最も多くなった。

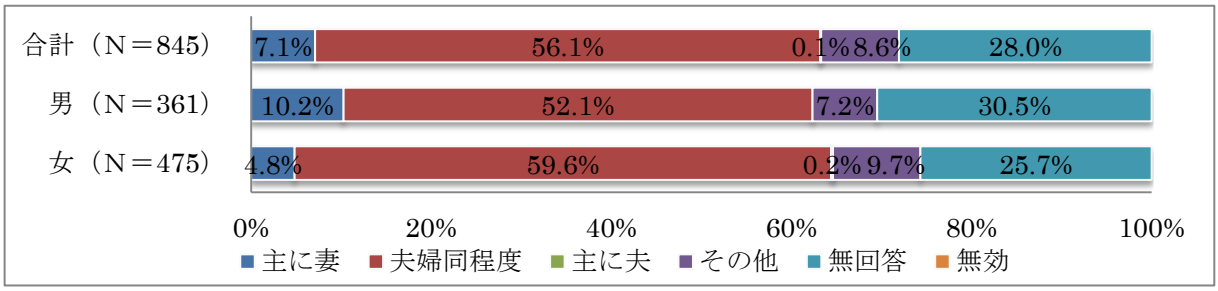
前回調査と比較すると【現状】の「主に妻」の項目が増加（男性 11.0、女性 14.1 ポイント増）し、「該当なし」の項目が減少した。

【理想】では「夫婦同程度」の項目が増加（男性 9.6、女性 10.9 ポイント増）し、「主に妻」の項目が減少した。

・現状




・理想



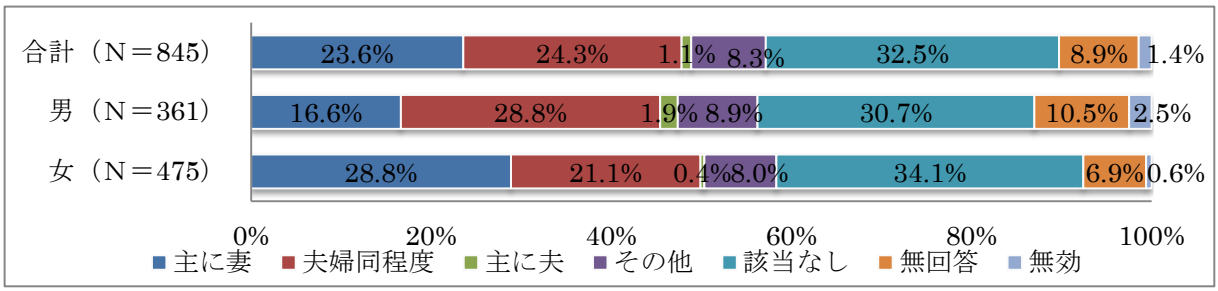
### ⑨子どもの勉強やしつけ

【現状】は「該当なし」32.5%、次いで「夫婦同程度」24.3%となったが、【理想】では、「夫婦同程度」が最も多くなった。

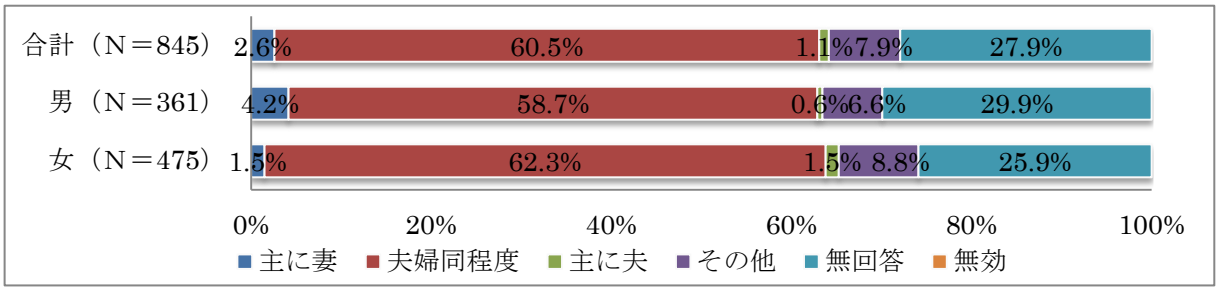
前回調査と比較すると【現状】の「夫婦同程度」の項目で男性が 8.6 ポイント増加、「主に妻」の項目で女性が 9.5 ポイント増加し、男女とも「該当なし」の項目が減少した。

【理想】では「夫婦同程度」の項目が増加（男性 4.9、女性 5.8 ポイント増）し、「主に妻」の項目が減少した。

・現状




・理想



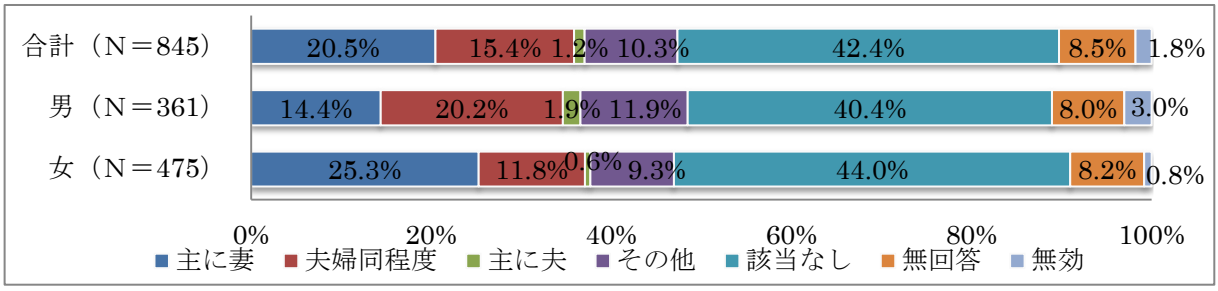

### ⑩病人や高齢者への介護

【現状】は「該当なし」42.4%、次いで「主に妻」20.5%で、【理想】では「夫婦同程度」が最も多くなった。

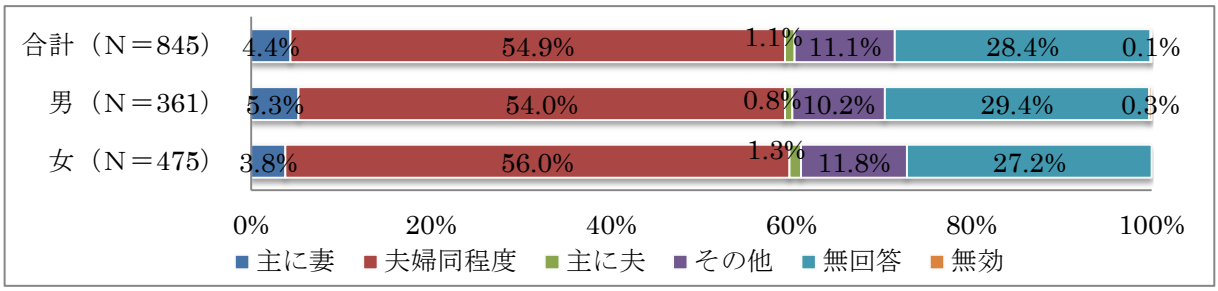
前回調査と比較すると【現状】の「夫婦同程度」の項目で男性が 4.6 ポイント増加、「主に妻」の項目で女性が 11.6 ポイント増加し、男女とも「その他」の項目が減少した。

【理想】では女性の「夫婦同程度」の項目が 4.9 ポイント増加し、「無回答」の項目が 5 ポイント減少した。男性は大きな差が見受けられなかった。

・現状




・理想



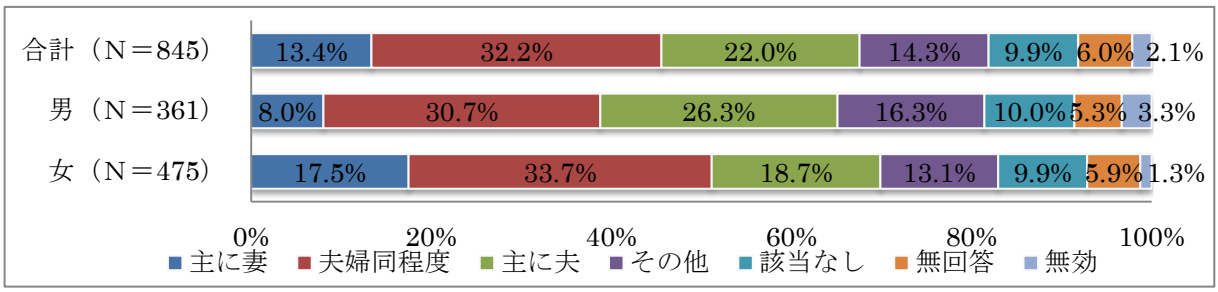
## ⑪地域行事への参加

【現状】【理想】ともに「夫婦同程度」が最も多くなった。

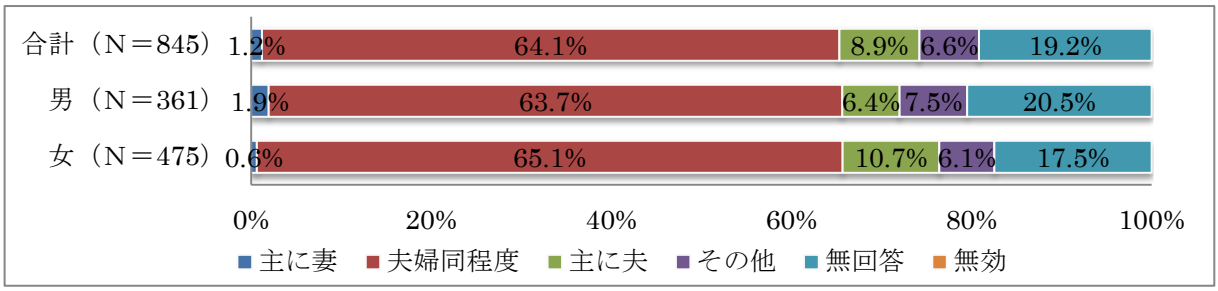
前回調査と比較すると【現状】の「主に夫」が増加（男性 2.5、女性 3.2 ポイント増）し、「その他」の項目が減少した。

【理想】では「その他」の項目で男性が 3.3 ポイント増加し、「主に夫」の項目で女性がが 3.6 ポイント増加した。

・現状




・理想



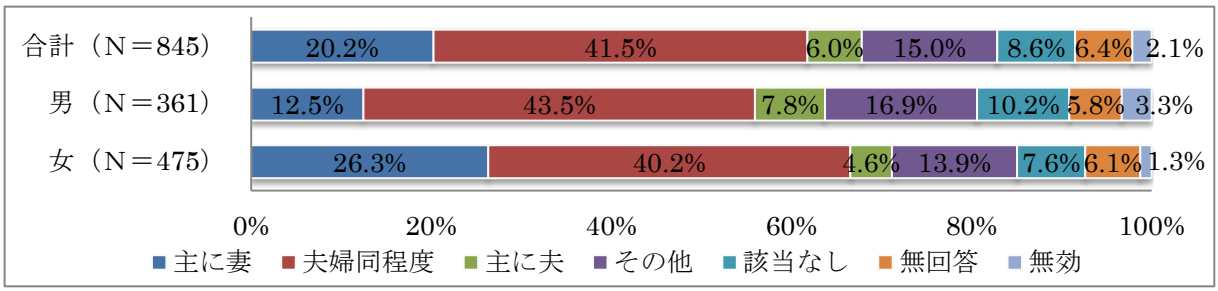

## ⑫近所づきあい

【現状】【理想】ともに「夫婦同程度」が最も多くなった。

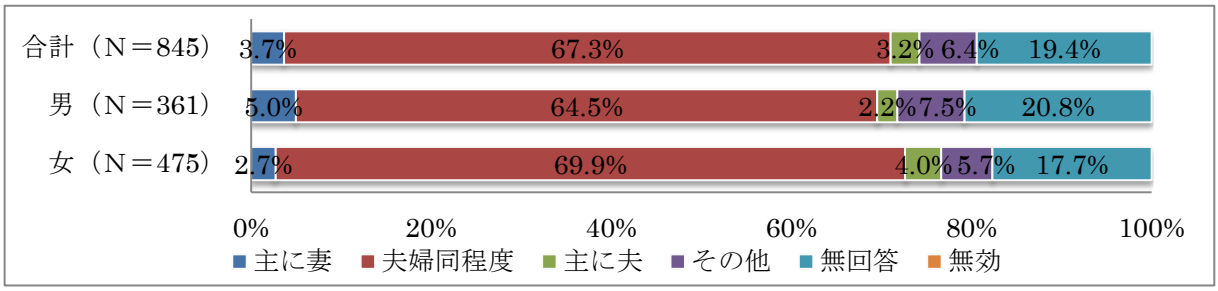
前回調査と比較すると【現状】の「夫婦同程度」の項目で男性が 3.7 ポイント増加、「主に妻」の項目で女性が 8.2 ポイント増加し、男女共に「その他」の項目が減少した。

【理想】では「主に妻」の項目で男性が 3.0 ポイント増加、「夫婦同程度」の項目で女性が 2.2 ポイント増加した。

・現状



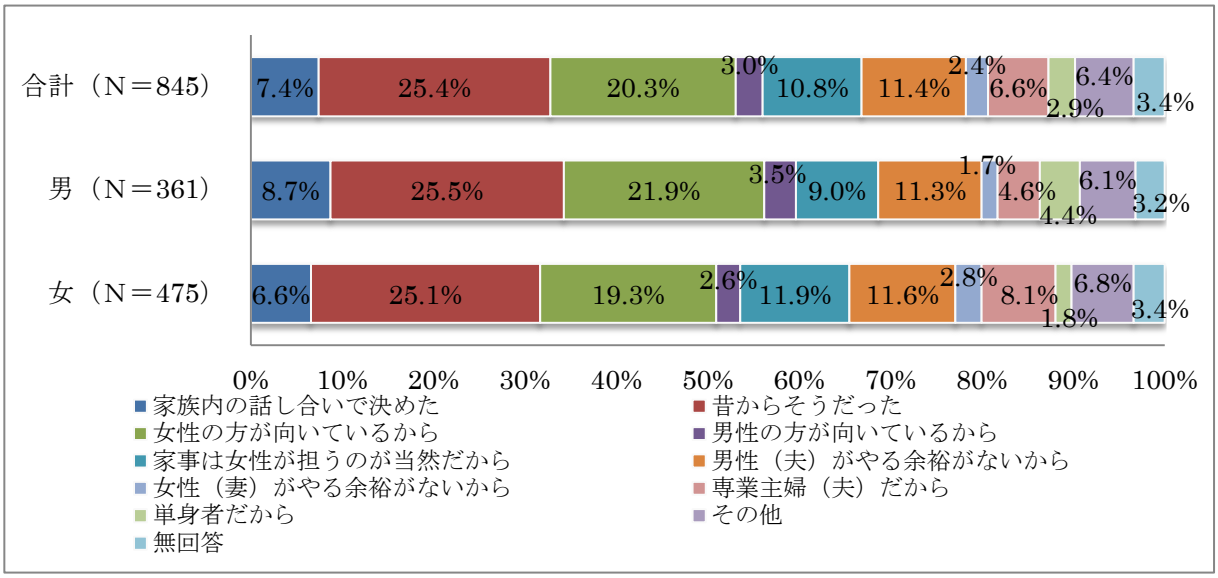

・理想



問 18　あなたの家庭で、問１７の現状のような家事分担になっている大きな理由と思われるものは何ですか。【複数回答】

男女共に「昔からそうだった」が最も多く、次いで「女性の方が向いているから」が多くなった。

男女の意識の差（ポイント）が大きかった項目は「家事は女性が担うのが当然だから」の項目で、男性が 2.9 ポイント高くなった。

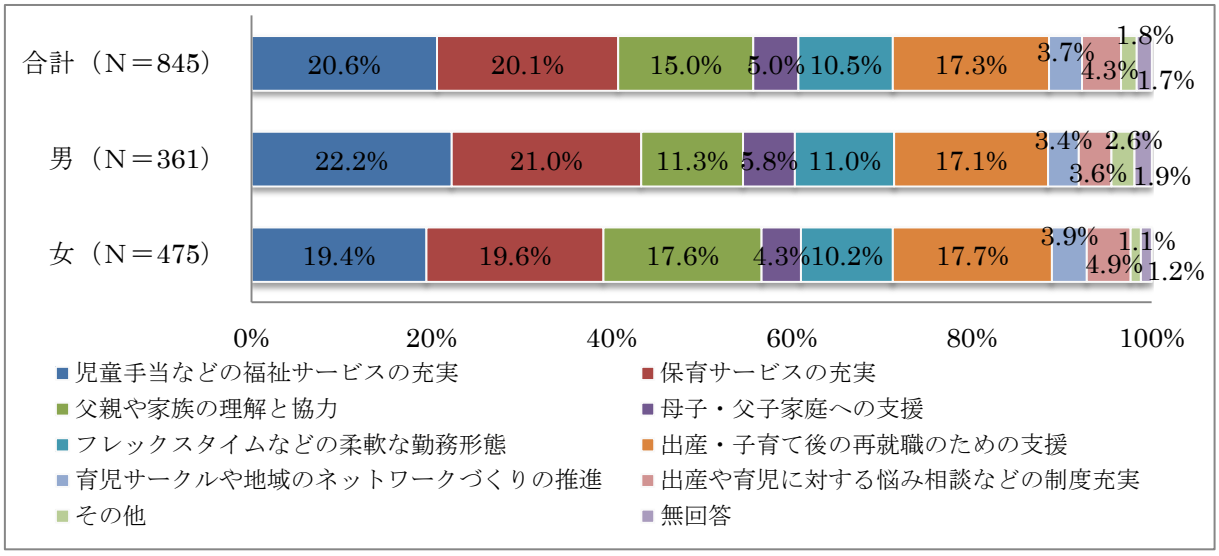



問 19　子どもを産み育てやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。【複数回答】

男女共に「児童手当などの福祉サービスの充実」が最も多く、次いで「保育サービスの充実」が多くなった。

男女の意識の差（ポイント）が大きかった項目は「父親や家族の理解と協力」で女性が 6.3 ポイント高くなった。

前回調査で最も回答が多かった「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」が 3.5 ポイント減となり、「児童手当などの福祉サービスの充実」が 4.4 ポイント増加、「保育サービスの充実」が 3.0 ポイント増加した。

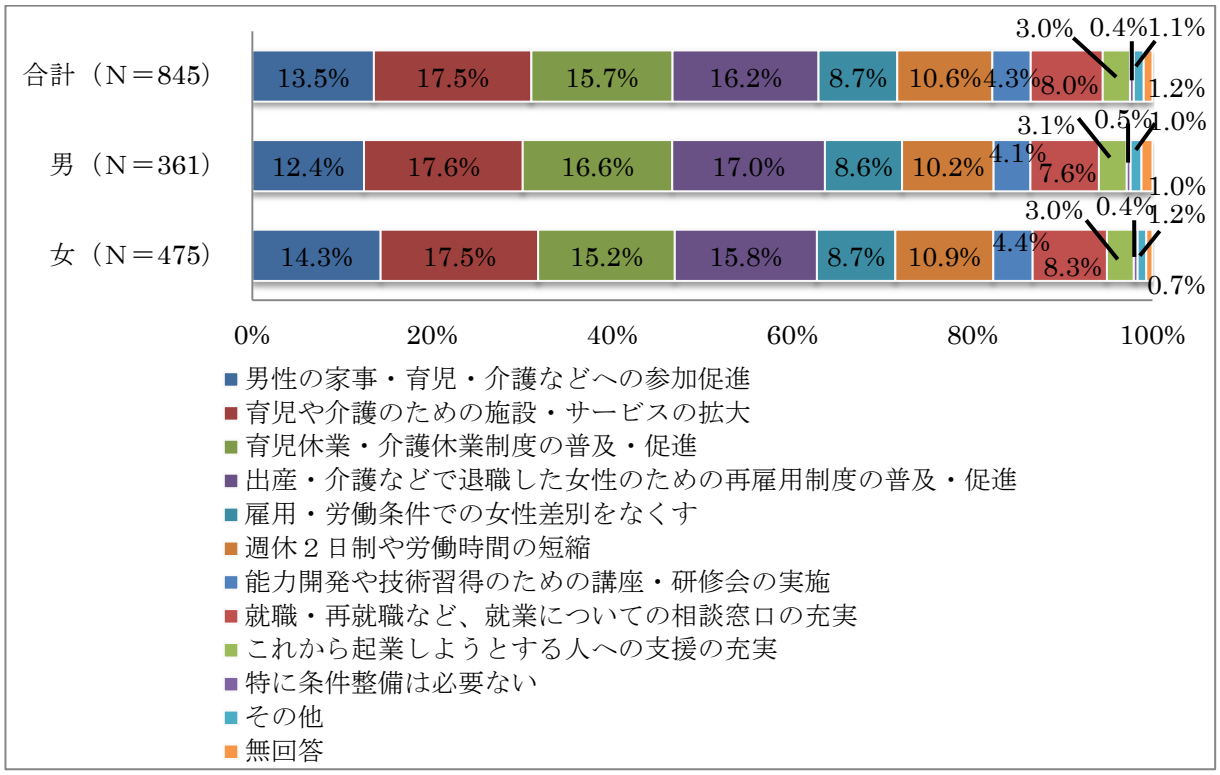


問 20　働きたい女性が、出産・子育て・介護などにより就業を中断することなく意欲を持って仕事を継続していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。
【複数回答】

男女共に「育児や介護のための施設・サービスの拡大」が最も多くなった。

男女の意識の差（ポイント）が大きかった項目は「男性の家事・育児・介護などへの参加促進」で女性が 1.9 ポイント高くなった。

前回調査と比較すると、男女共に「育児休業・介護休業制度を普及・促進する」と「育児や介護のための施設・サービスを拡充する」が増加し、「これから起業しようとする人への支援の充実」と「雇用・労働条件での女性差別をなくす」が減少した。

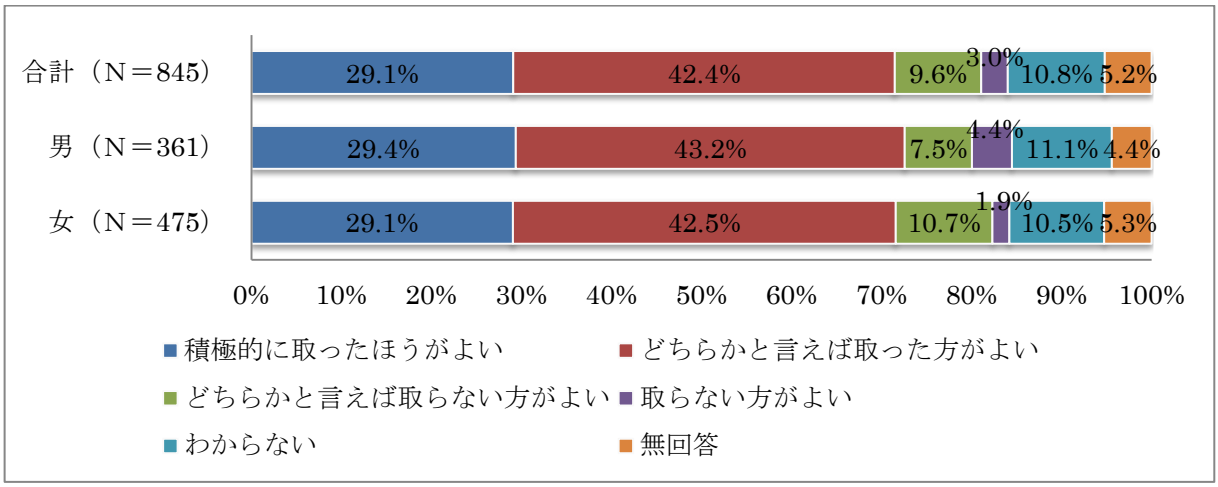


問 21　男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どのように思いますか。

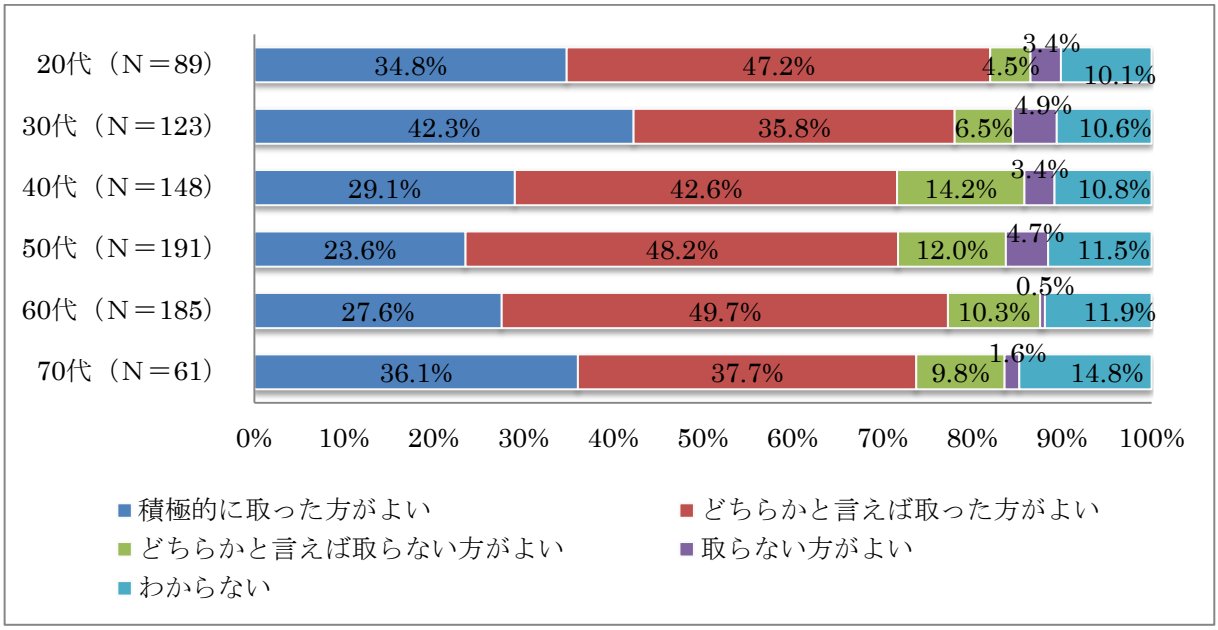
## ①育児休業

男女共に「どちらかと言えば取った方がよい」が最も多くなった。

前回調査と比較すると、男女共に「積極的に取った方がよい」が減少し、「どちらかと言えば取った方がよい」の項目で男性 5.7 ポイント、女性 5.3 ポイント増加し、「どちらかと言えば取らない方がよい」の項目で男性 1.2 ポイント、女性 4.1 ポイント増加した。



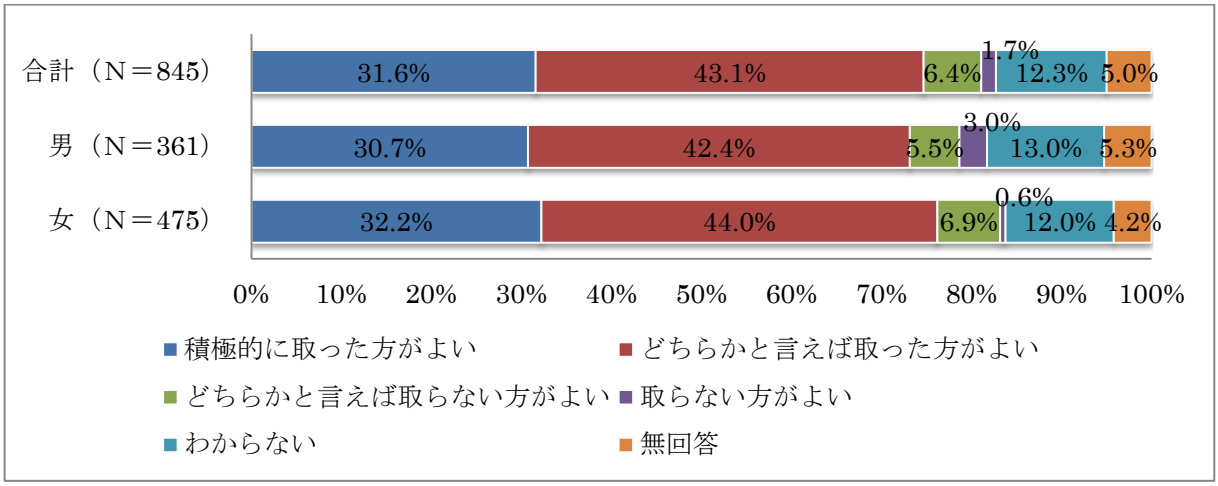

年代別にみると、「積極的に取った方がよい」と「どちらかと言えば取った方がよい」を合わせた割合が最も高かったのは 20 代で 82.0%となり、「取らない方がよい」と「どちらかと言えば取らない方がよい」を合わせた割合が最も高かったのは 40 代で 17.6%となった。



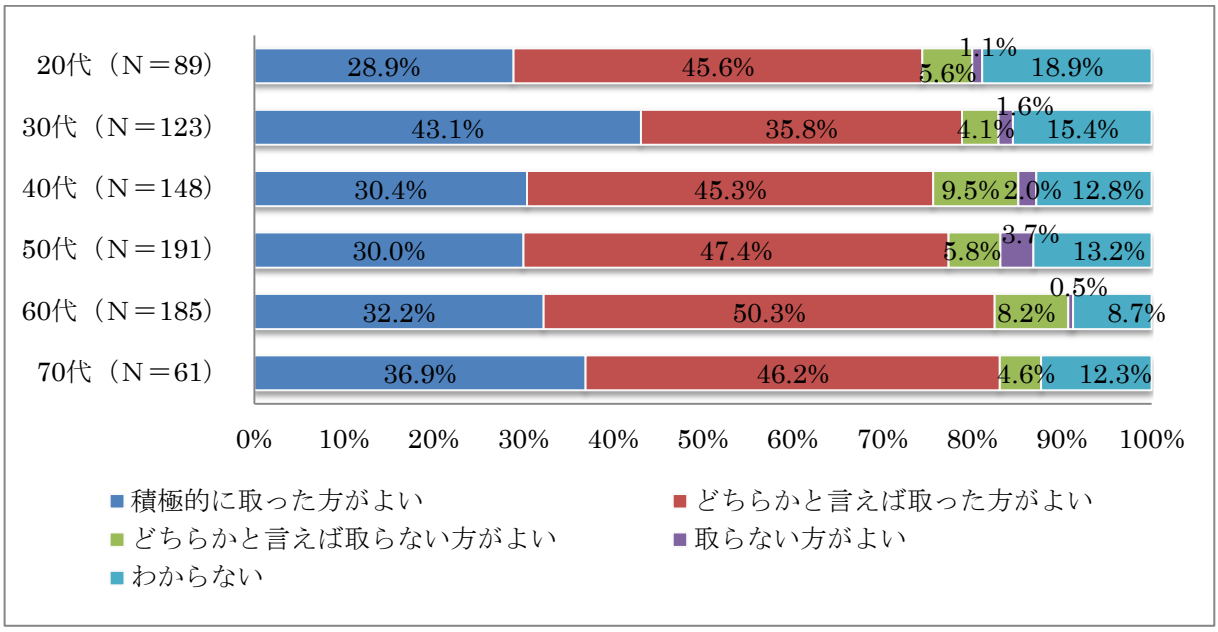
## ②介護休業

男女共に「どちらかと言えば取った方がよい」が最も多くなった。

前回調査と比較すると、男女共に「積極的に取った方がよい」が減少し、「どちらかと言えば取った方がよい」の項目で男性 3.9 ポイント、女性 9.4 ポイント増加し、「どちらかと言えば取らない方がよい」の項目で男性 1.3 ポイント、女性 2.2 ポイント増加した。




年代別にみると「積極的に取った方がよい」と「どちらかと言えば取った方がよい」を合わせた割合が最も高かったのは 60 代で 82.5%となり、「取らない方がよい」と「どちらかと言えば取らない方がよい」を合わせた割合が最も高かったのは 40 代で 11.5%となった。

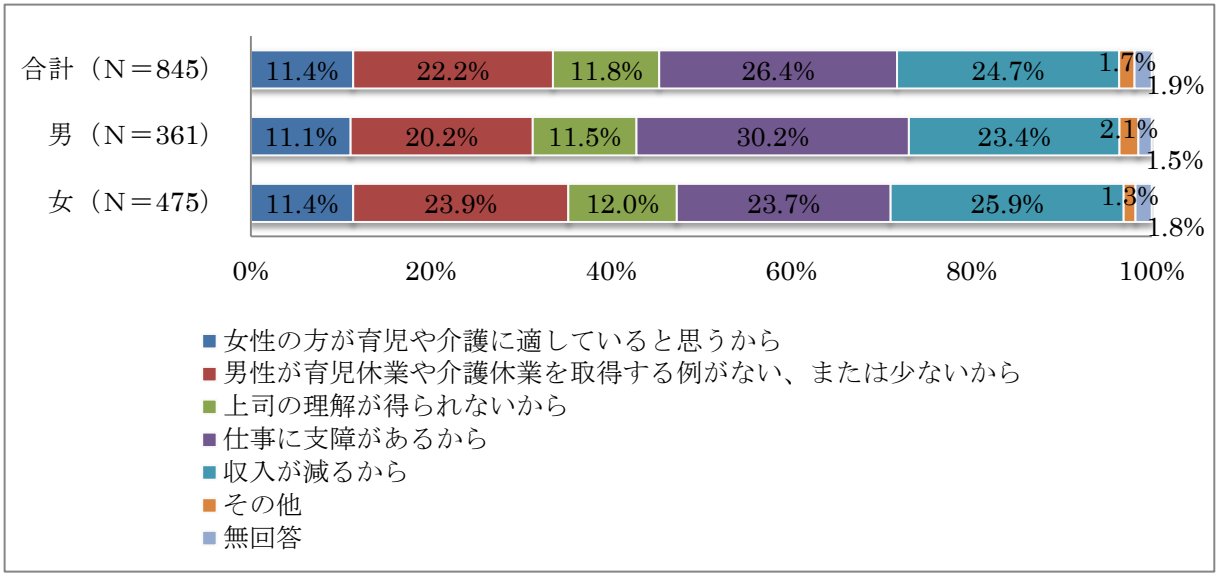


問 22　男性が育児休業や介護休業を取得できない、または取得しない理由はどのようなことだと考えますか。【複数回答】

男女別にみると、男性は「仕事に支障があるから」が 30.2%が最も多くなり、女性は「収入が減るから」が 25.9%で最も多くなった。

男女の意識の差（ポイント）が最も大きかったのは「仕事に支障があるから」で、男性が 6.5 ポイント高くなった。

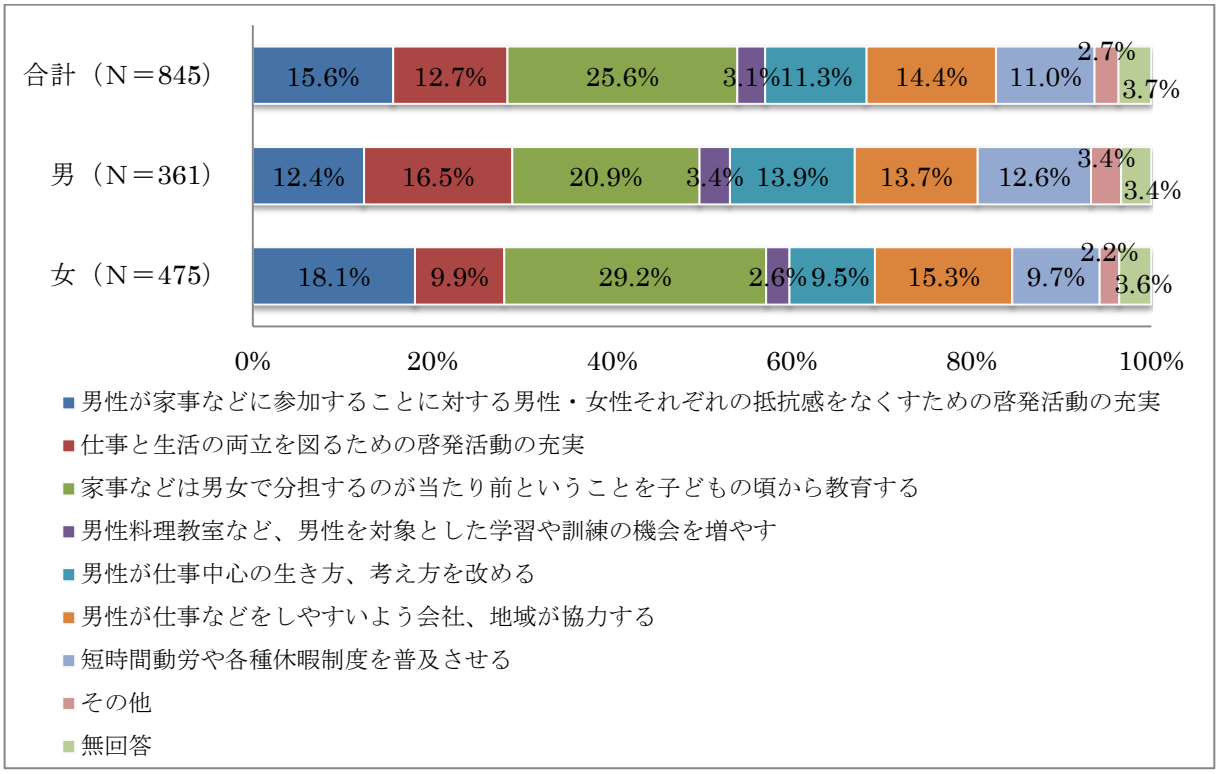
前回調査と比較すると、「男性が育児休業や介護休業を取得する例がない、または少ないから」の項目が増加（男性 7.7 ポイント、女性 6.6 ポイント増）した。



問 23　男性の家事・育児・介護等への関わりを進めていくためにはどのようなことが必要だと思いますか。

男女共に「家事などは男女で分担するのが当たり前ということを子どもの頃から教育する」の項目が最も多くなった。

前回調査と比較すると、男女共に「男性が家事などに参加することに対する男性・女性それぞれの抵抗感をなくすための啓発活動の充実」が増加（男性 5.3 ポイント増、女性 12.0 ポイント増）し、男性では「家事などは男女で分担するのが当たり前ということを子どもの頃から教育する」が 1.2 ポイント減少、女性では「男性が仕事中心の生き方、考え方を改めること」が 3.9 ポイント減少した。

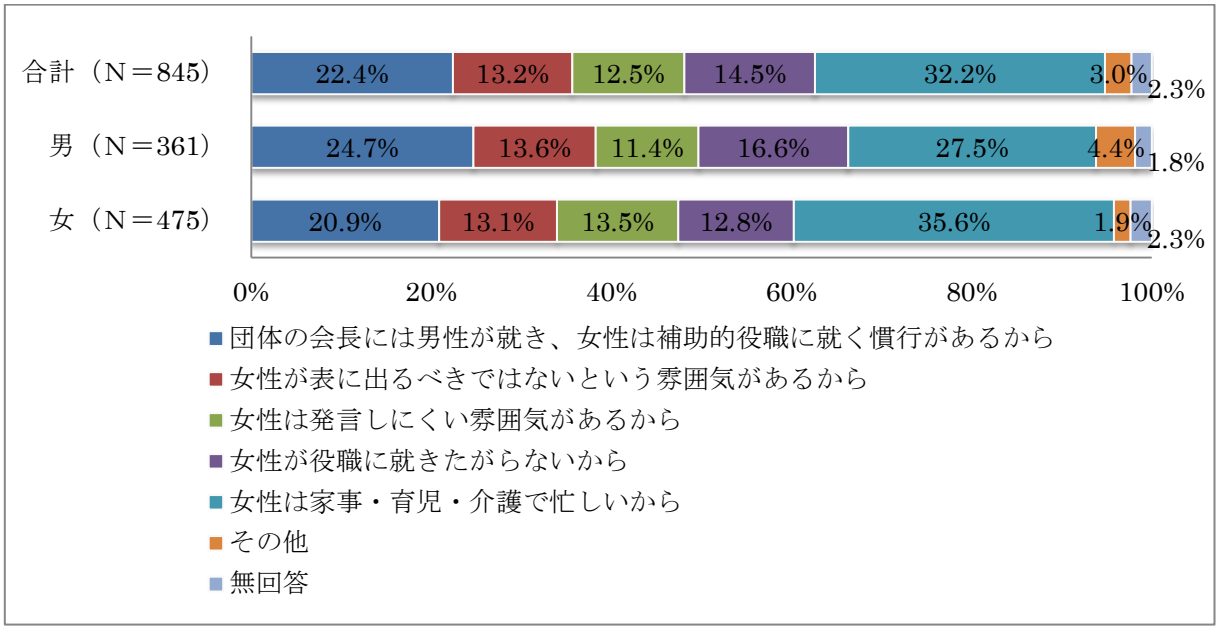


## ３．地域活動について

問 24　コミュニティや行政区などの地域活動の方針決定の場に、女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。【複数回答】

男女共に「女性は家事・育児・介護で忙しいから」の項目が最も多く、次いで「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行があるから」となった。

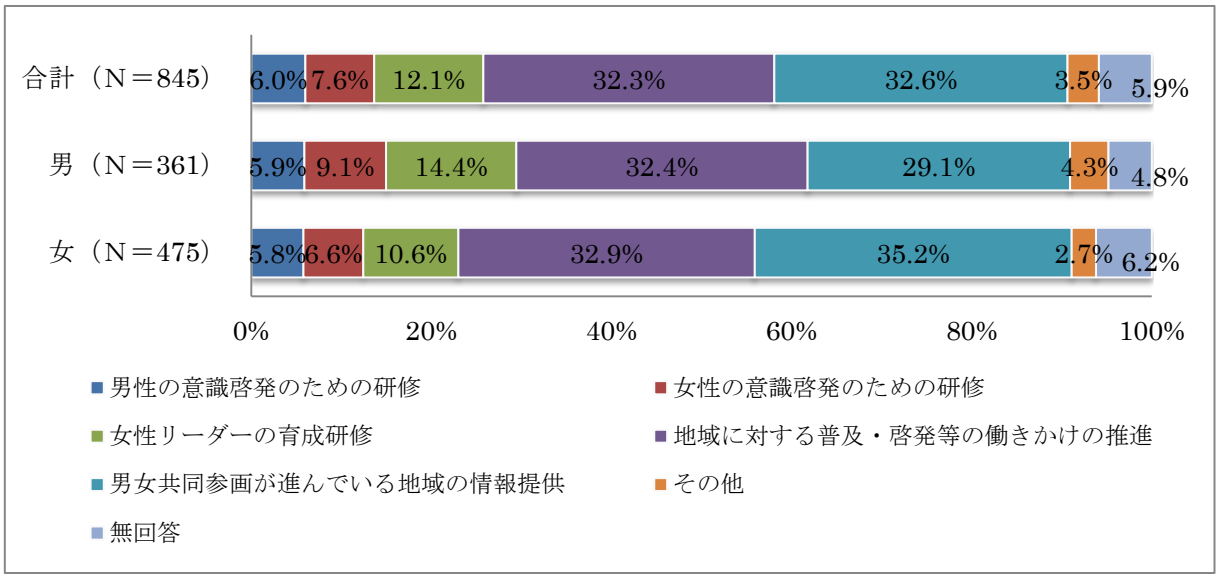
男女の意識の差（ポイント）でみると「女性が役職に就きたがらないから」の項目で男性が 3.8 ポイント高くなり、「女性は発言しにくい雰囲気があるから」で女性が 2.1 ポイント高くなった。




問 25　地域の男女共同参画を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

男女別にみると、男性では「地域に対する普及・啓発等の働きかけの推進」が最も多くなり、女性では「男女共同参画が進んでいる地域の情報提供」が最も多くなった。

男女の意識の差（ポイント）でみると、「女性リーダーの育成研修」の項目で男性が 3.8 ポイント高くなり、「男女共同参画が進んでいる地域の情報提供」の項目で女性が 6.1 ポイント高くなった。



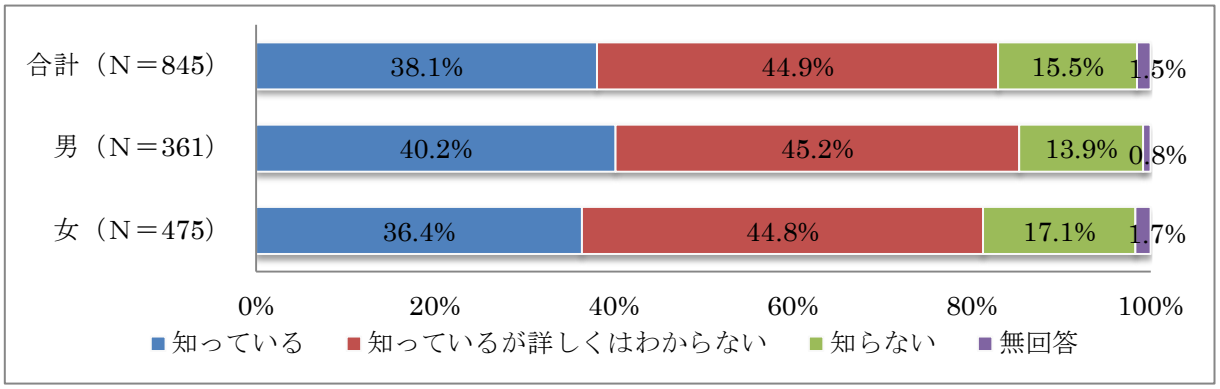
## ４．ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）について

問 26　ＤＶ相談は、国及び県、市、警察にそれぞれ窓口がありますが知っていますか。

男女共に「知っているが詳しくはわからない」が最も多くなった。

前回調査と比較すると、男性では「知っているが詳しくはわからない」が 7.5 ポイント増加し、「知らない」が 5.1 ポイント減少した。

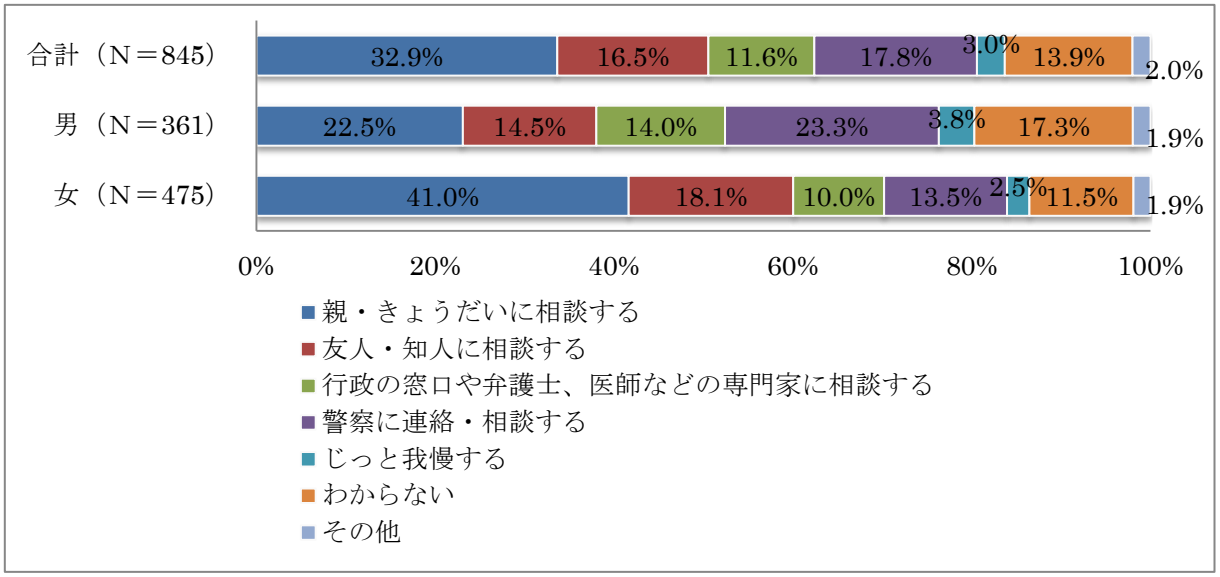
女性では「知らない」が 4.9 ポイント増加し、「知っている」が 6.0 ポイント減少した。




問 27　もし、あなたがＤＶ被害を受けたらまずどうしますか。

男女別にみると、男性では「警察に連絡・相談する」が最も多く、女性では「親・きょうだいに相談する」が最も多くなった。

前回調査と比較すると、男性は「警察に連絡・相談する」が 8.7 ポイント、女性は「親・きょうだいに相談する」が 6.4 ポイント増加し、男女共に「わからない」の項目が減少、女性では「行政の窓口や弁護士、医師などの専門家に相談する」の項目も 4.6 ポイント減少した。

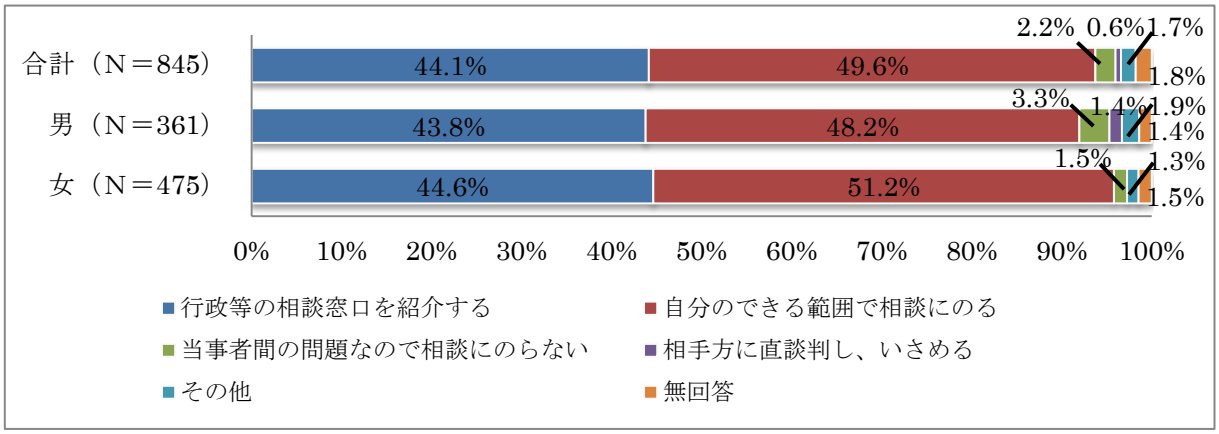


問 28　あなたのまわりの方からＤＶの相談をされたらどうしますか。

男女共に「自分のできる範囲で相談にのる」が最も多くなった。

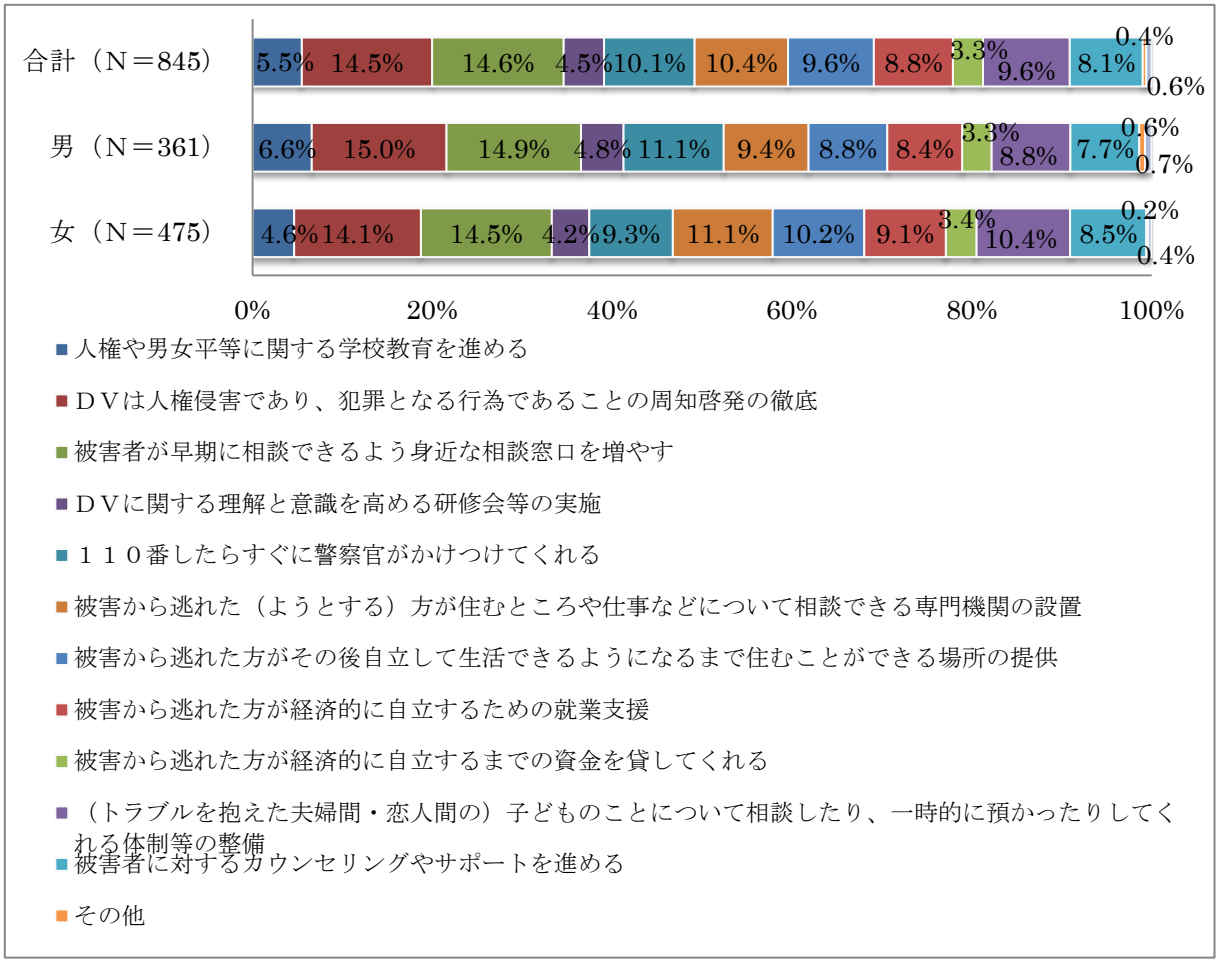
前回調査と比較すると、男性では「行政等の相談窓口を紹介する」の項目が 4.8 ポイント増加し、「自分のできる範囲で相談にのる」が 3.3 ポイント減少した。

女性では「自分のできる範囲で相談にのる」が 10.5 ポイント増加し、「行政等の相談窓口を紹介する」が 5.7 ポイント減少した。




問 29　ＤＶを防ぎ、被害を受けた方を支援していくためにどのようなことが必要だと思いますか。【複数回答】

男女別にみると、男性では「ＤＶは人権侵害であり、犯罪となる行為であることの周知啓発の徹底」が最も多くなり、女性では「被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす」が最も多くなった。

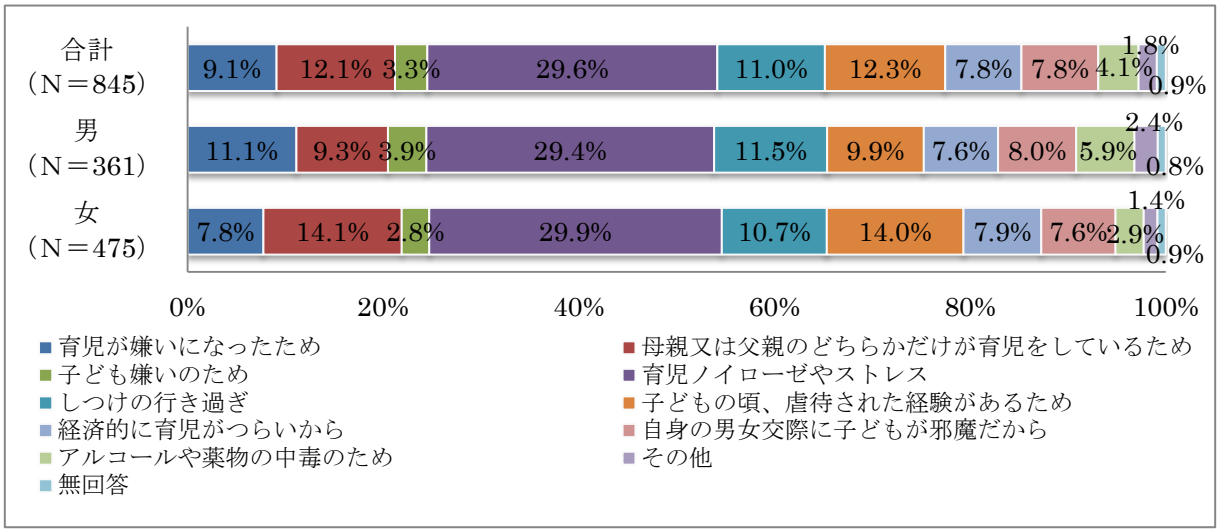


## ５．児童虐待について

問 30　児童虐待が起こる原因と思われるものについて【複数回答】

男女共に「育児ノイローゼやストレス」が最も多くなった。

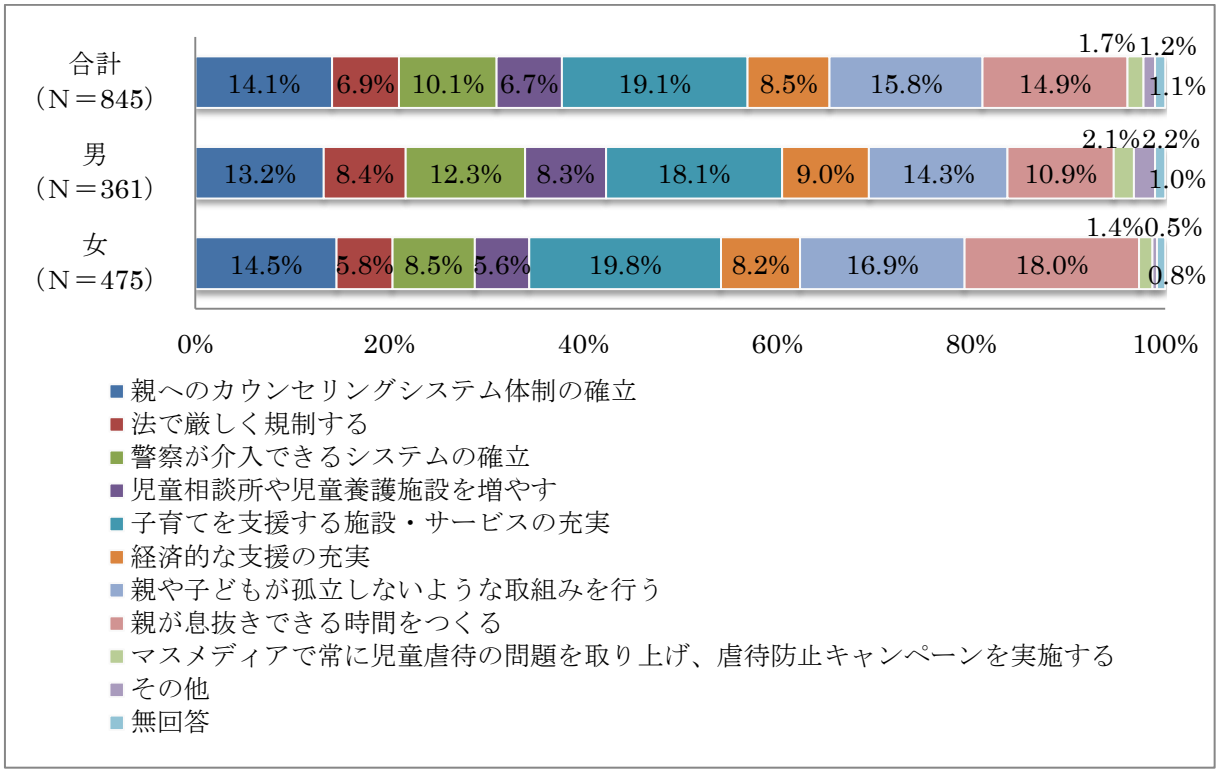
男女の意識の差（ポイント）が最も大きかったのは「母親又は父親のどちらかだけが育児をしているため」で女性が 4.8 ポイント高くなった。




問 31　児童虐待をなくすために、より必要と思われるもの【複数回答】

男女共に「子育てを支援する施設・サービスの充実」が最も多くなった。

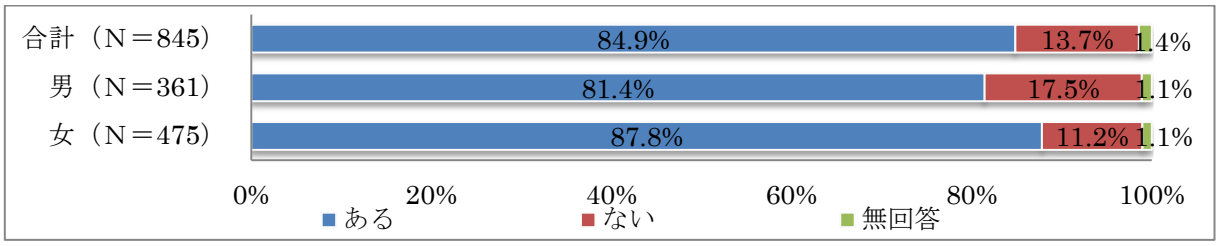
男女の意識の差（ポイント）が最も大きかったのは「親が息抜きできる時間をつくる」で、女性の方が 7.1 ポイント高くなった。



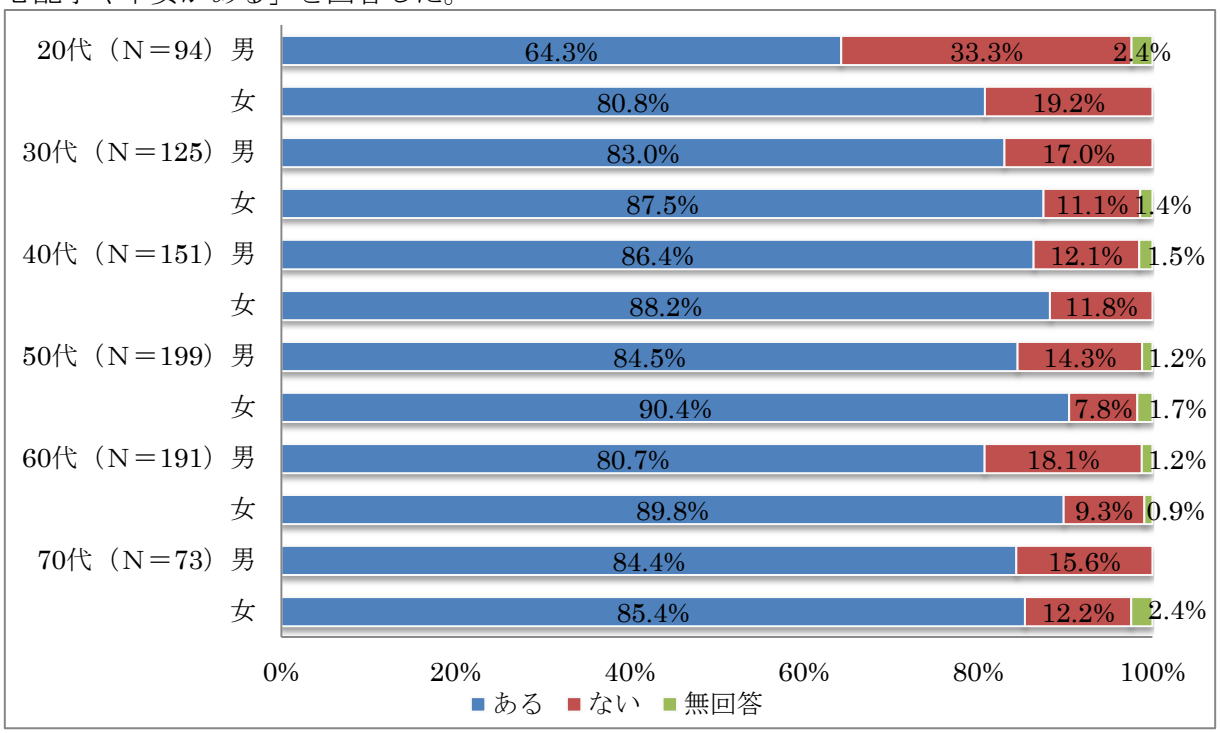
## ６．高齢社会・介護について

問 32　あなたはご自分の老後を考えたとき、何か心配事や不安がありますか。

全体の 84.9%が「ある」と回答した。



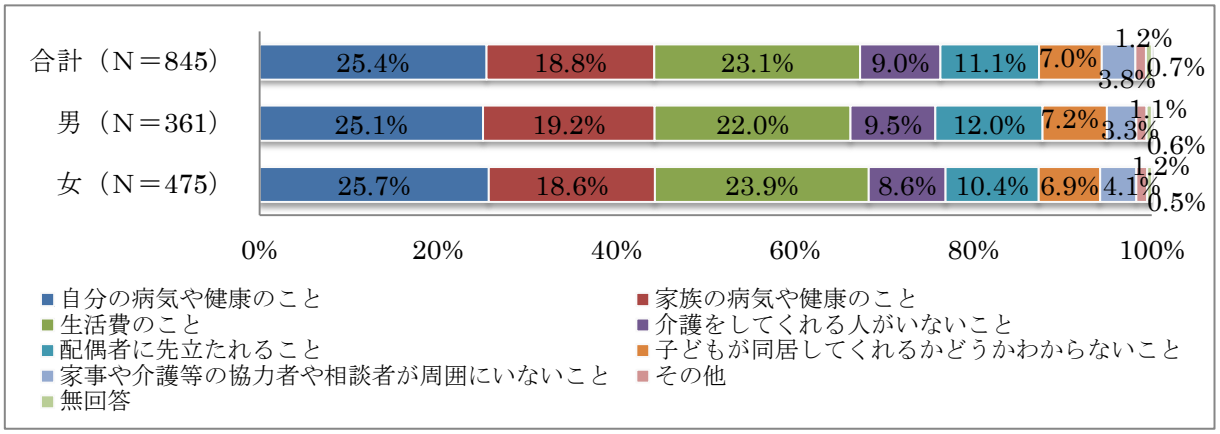

年代別にみると 20 代男性で 64.3%となったほかは、全ての年代で 80%を超える人が「何か心配事や不安がある」と回答した。




問 33　問 32 で「１．ある」と回答した方にうかがいます。あなたが心配・不安に感じていることは何ですか。【複数回答】

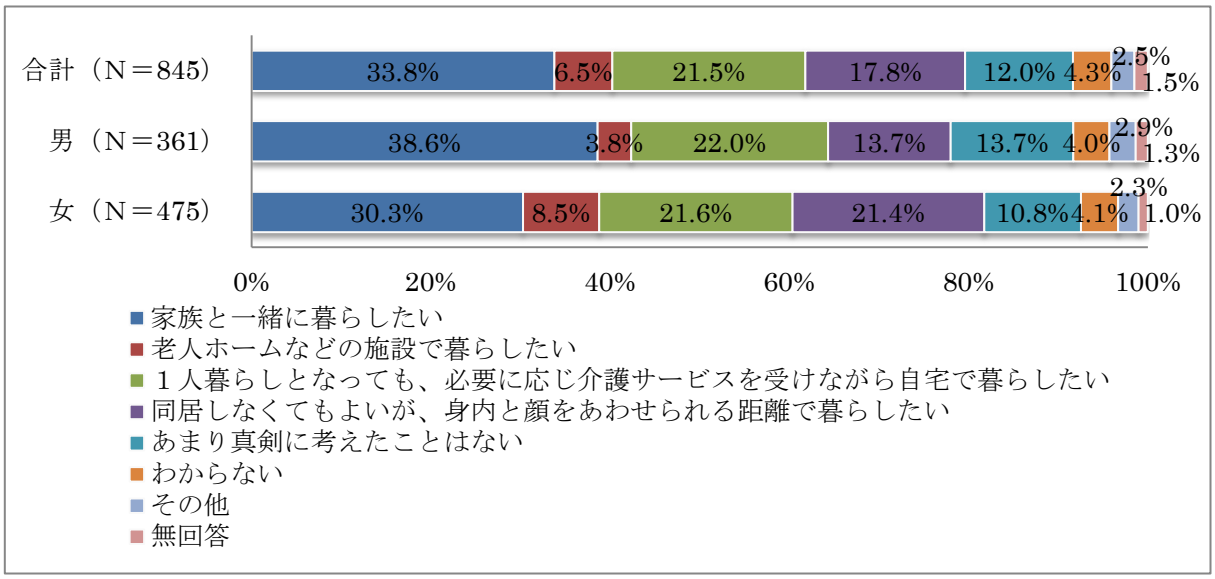
男女とも「自分の病気や健康のこと」が最も多く、次いで「生活費のこと」となった。

男女の差が最も高かったのは「生活費のこと」で、女性が 1.9 ポイント高くなっており、次いで「配偶者に先立たれること」で、男性が 1.6 ポイント高くなった。



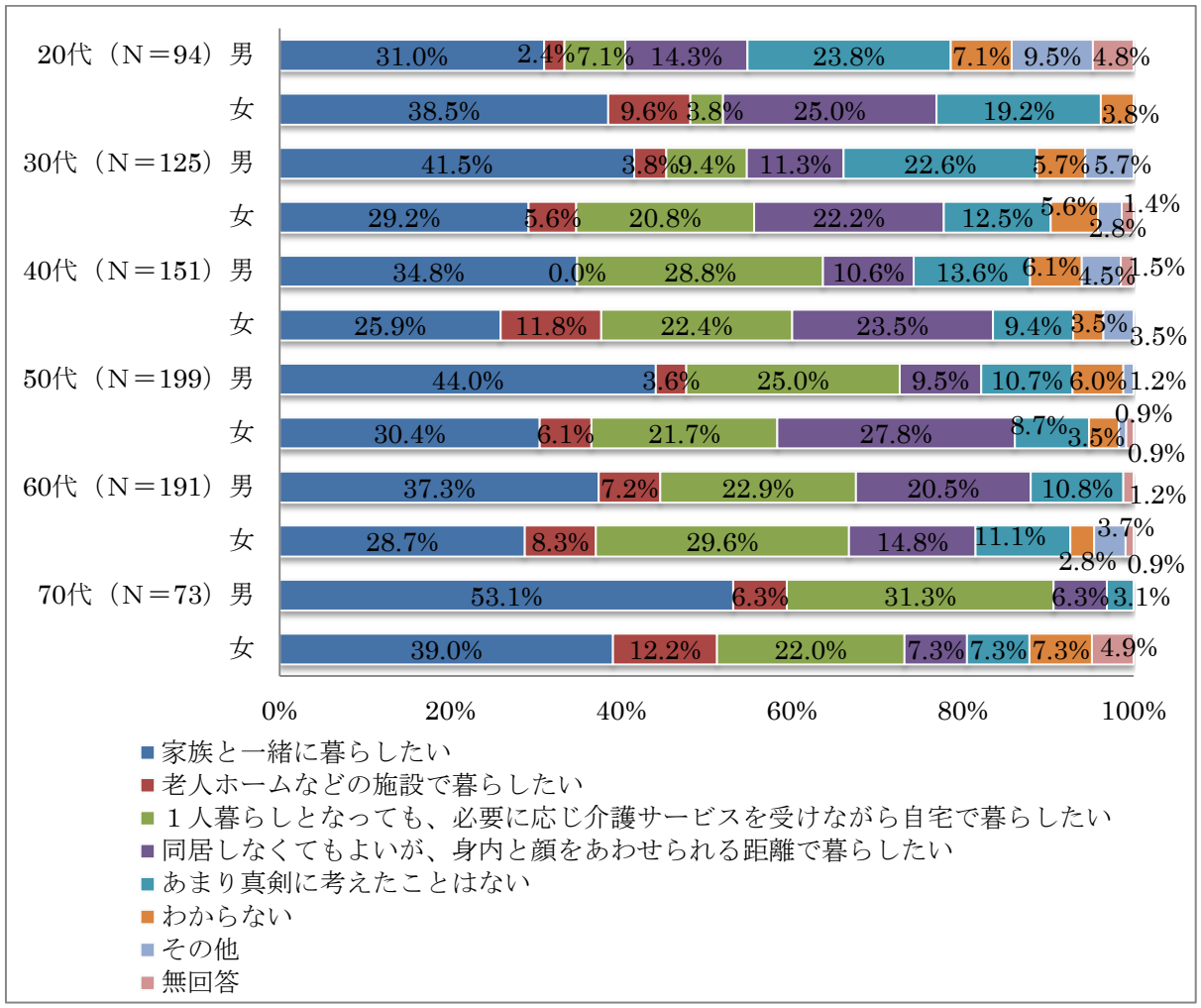
問 34　あなたは老後どのように暮らしたいと思いますか。

男女共に「家族と一緒に暮らしたい」が最も回答が高くなった。




年代別にみると「家族と一緒に暮らしたい」の項目が最も多かったのは 70 代男性で 53.1%となった。

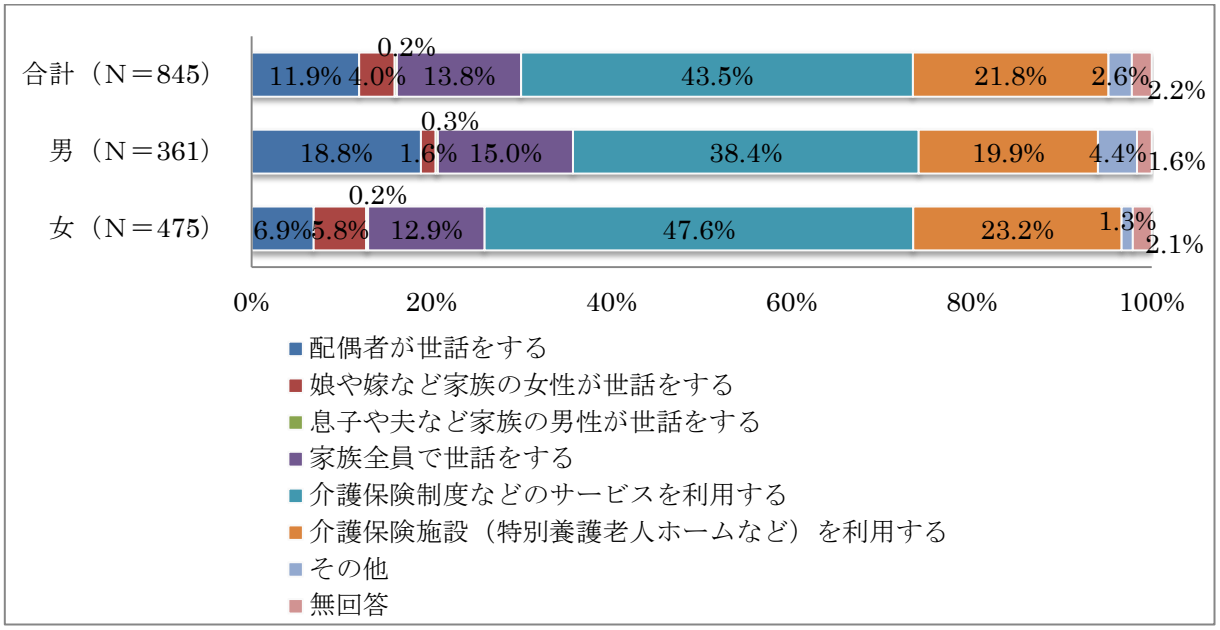
「１人暮らしとなっても、必要に応じ介護サービスを受けながら自宅で暮らしたい」の項目について、20 代男女とも他の年代に比べ低い割合となった。



問 35　あなたは介護が必要となったとき、身の回りの世話はどのような形を希望しますか。

男女共に「介護保険制度などのサービスを利用する」が最も多くなった。

男女のポイント差でみると「配偶者が世話をする」の項目で男性が 11.9 ポイント高くなり、「介護保険制度などのサービスを利用する」の項目で女性が 9.2 ポイント高くなった。

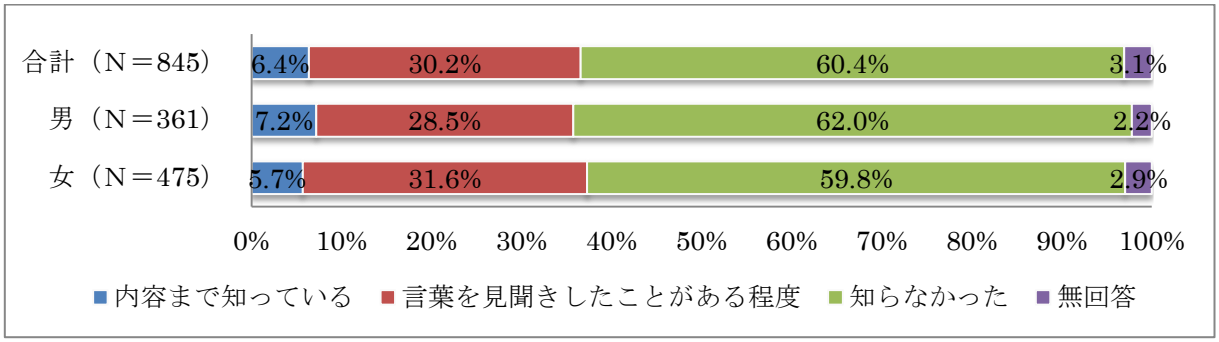


## 7．仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

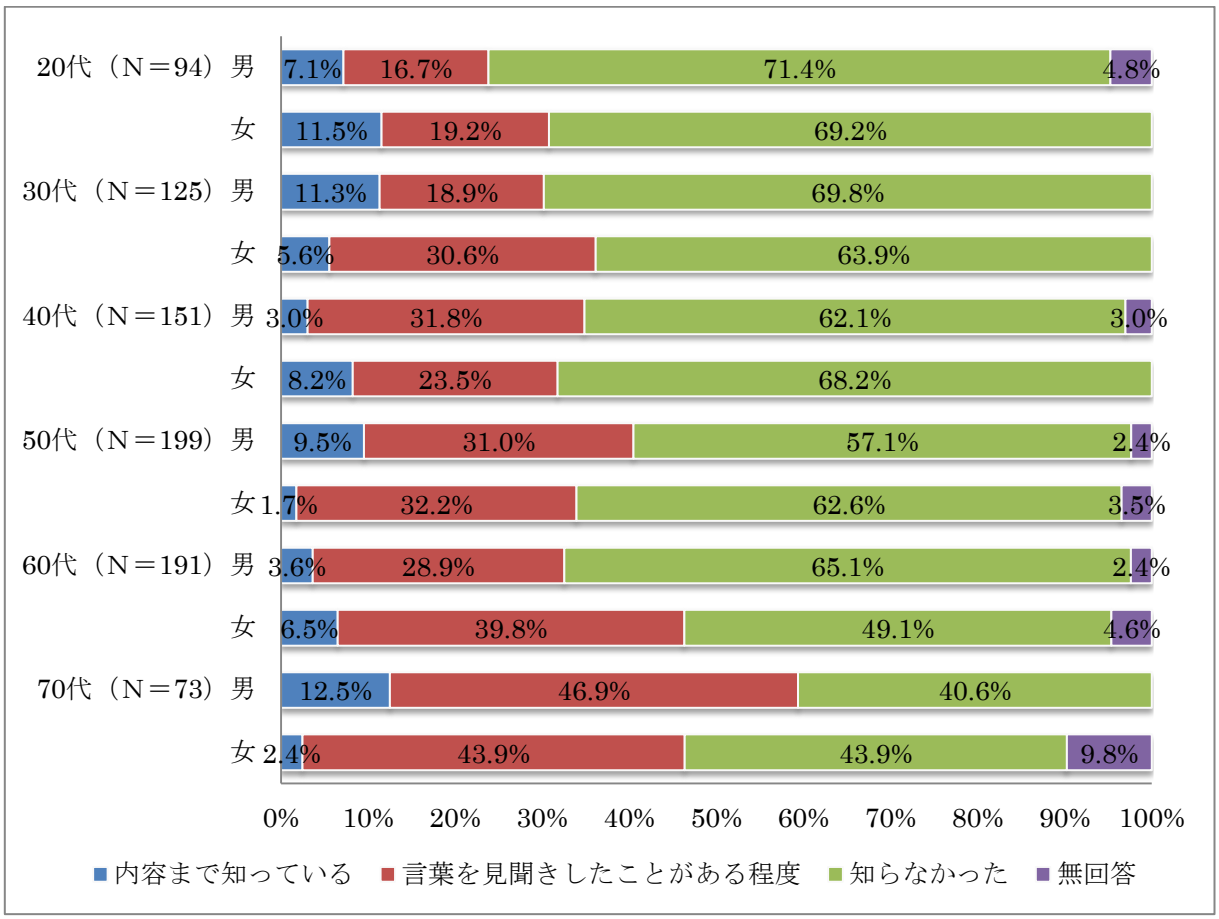
問 36　ワーク・ライフ・バランスについて知っていますか。

男女共に「知らなかった」が最も多くなった。

前回調査と比較すると「内容まで知っている」で男性が 3.0、女性が 3.3 ポイント増加し、男女共に「無回答」が減少した。



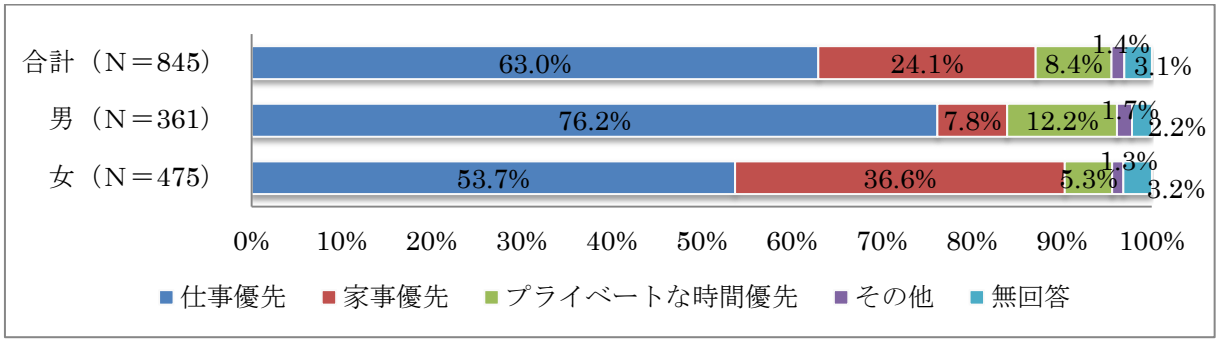

年代別にみると、「内容まで知っている」の項目が最も多いのは 70 代男性 12.5%、次いで 20 代女性 11.5%となった。



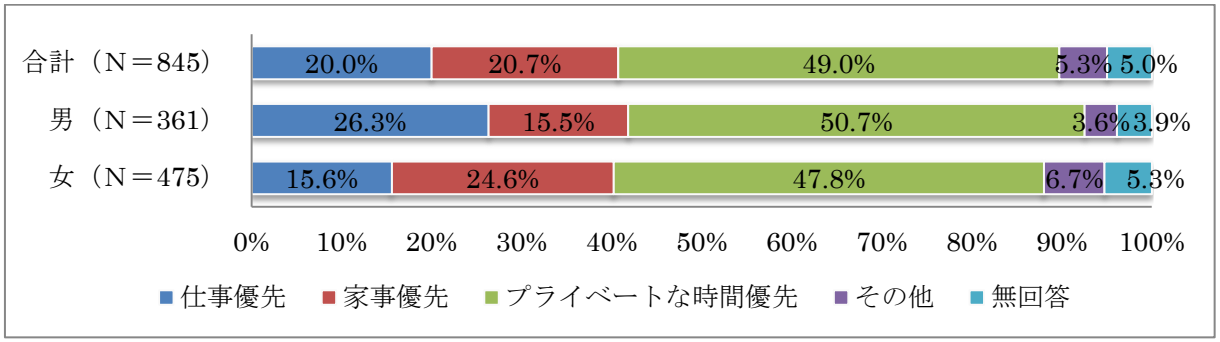
問 37　生活の中での、仕事・家事（育児、介護）・プライベートな時間（趣味など）の優先度について「現状」と「理想」それぞれについて伺います。

【現状】は「仕事優先」が最も多く、【理想】では「プライベートな時間優先」が最も多くなった。

・現状



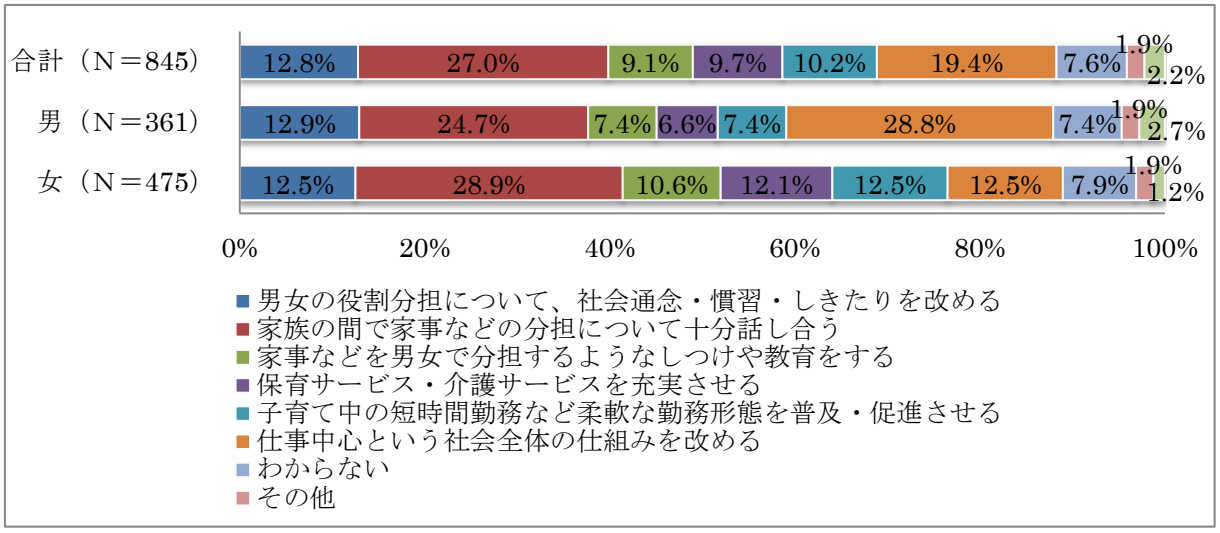

・理想




問 38　仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

男女別にみると、男性は「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」が最も多く、女性は「家族の間で家事などの分担について十分話し合う」が最も多くなった。

男女の意識の差（ポイント）でみると「保育サービス・介護サービスを充実させる」の項目で女性が 5.5 ポイント上回っており、「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」で男性が 16.3 ポイント上回った。



問 39　ワーク・ライフ・バランスの推進により、プラスの効果として考えられるものは。【複数回答】

男女別にみると、男性は「一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる」で、女性は「子育てや介護など個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択できる」が最も多くなった。

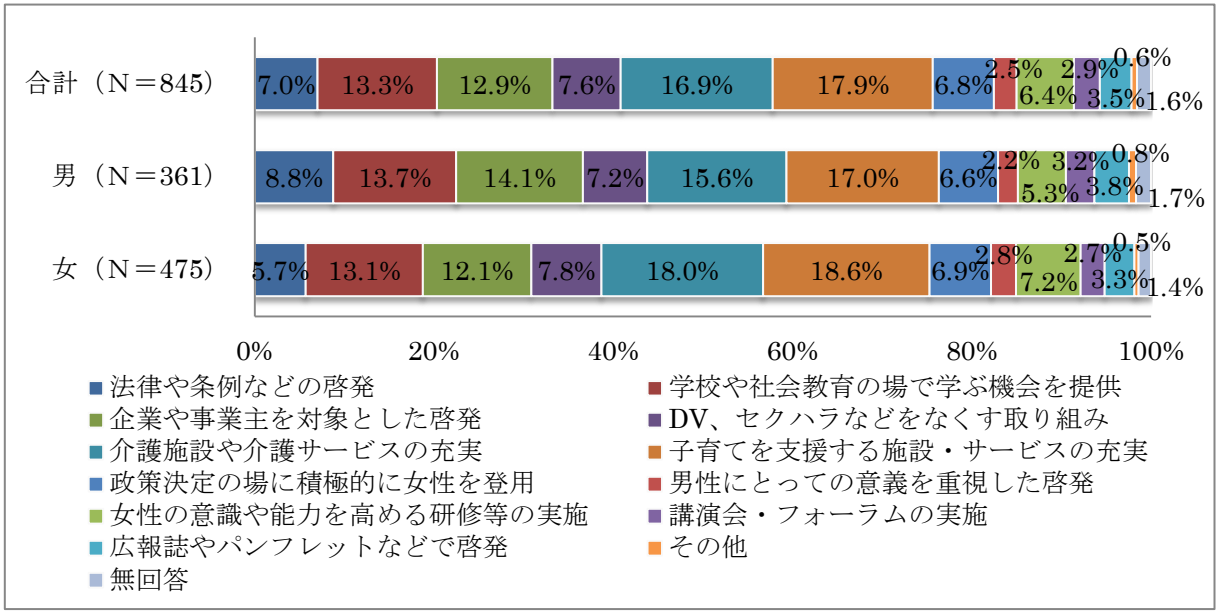
男女の意識の差でみると「仕事と家庭の両立や子育ての環境が整い、少子化の進行を防ぐことができる」の項目で女性が 2.5 ポイント上回り、「働く人々が地域活動に関われるようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる」の項目で男性が 2.0 ポイント上回った。

## ８．男女共同参画社会の実現に向けて、市がすべきこと

問 40　男女共同参画社会の実現に向けて、市がすべきことはどのようなことですか。
【複数回答】

男女共に「子育てを支援する施設・サービスの充実」が最も多い回答となった。

男女のポイント差でみると、「法律や条例などの啓発」の項目で男性が 3.1 ポイント高くなり、「介護施設や介護サービスの充実」の項目で女性が 2.4 ポイント高くなった。



# 自由意見

## ◇ 内容ごとにまとめた結果は次のとおりです。（抜粋）

**【男女平等意識について】**

○ 男女の平等を目指すために、仕事や家庭といった役割は家族で話し合い、決定することが重要であると考える。またその決定に周囲の人が口を出すべきではない。例えば、“主夫”として息子が生活していたら、周囲から奇異の目で見られ、家族は働けと催促するだろう。息子が妻と相談して“主夫”になったのであれば、一人の人間の生き方として「認める」ことが必要であると思う。（20 代男性）

○ まだまだ男性が優遇されている社会だと感じています。そして、妊娠・出産をこれからするであろう女性には働きにくい社会です。私は登米市に転入して仕事を探した時、登米市に系列がいくつかある薬局の面接を受けた時、「これから妊娠する人はちょっとね」と言われました。私は悔しさのあまり泣きながら帰りました。少子化で子どもを産み、育てることを推進しているにもかかわらず、そんなことを言われるとは。面接官はもちろん男性です。その時、笑いながら妊娠を否定した態度は一生忘れないと思いました。（20 代女性）

○ 地域としてまだまだ閉鎖的で、男性は仕事が中心で家長、女性は家を守って家事をするという考え方が根強いと感じている。とくに年配の方たちはそういう考えであり、そのような家庭で育った男子は同じように妻には仕事をしてほしくない、家にいてほしいという考えの人が多いようです。（20 代女性）

○ 滅私奉公、前時代的な人間関係を要求する会社や管理者が増えてきているようです。多様な個性を否定する会社に未来は無いのに・・・。（30 代男性）

○ 男性看護師が増えているが、女性の手当てなどはやはり女性にしてほしい。差別ではなく、区別・配慮も大切だと思う。共同参画は大切だと思うが、何でもかんでも平等にということではないと思う。（30 代女性）

○ 女性が子どもを産んで社会復帰することは、少子化を食い止めることにつながるはずです。まだまだ社会では男社会です。育休を１年とって復帰したばかりですが、すぐ異動させられて、女を何だと思っているんだ。将来の日本を担う人を産み、育てているのに、そのような待遇はないと思います。もっともっと社会が女性のそういう面に理解を示してくれないと、子どもは増えないし、高齢化が進むだけです。それをまだ分かっていない人（会社側の 50～60 代の方）が多いようです。それが現実です。（30 代女性）

○ 女性の社会参画には大賛成。しかし私のように持病がある人は力仕事は無理です。事務職を希望しても、女性の方が合格するのが圧倒的に多いです。しかも、親の介護も重なり、ここ数年地獄でした。男女両方とも平等な仕事に就けるように期待したい。（40 代男性）

○ まだまだ仕事の内容によって、男性の仕事だとか女性の仕事だとか聞かれるので、その部分の意識の変化が必要かと思われます。ハローワークの求人などが良い例えだと思います。（40 代男性）

○ 「家事は女性がする」という考え方を根本から改めていかなければ、女性の負担は大きくなる。また、子どものいる家庭は手がかかるから、子どものいない家庭が地域の仕事を負担するという考え方も違うと思う。偏った方から見て政策を考えることだけはしないでほしい。

（40 代女性）

○ 既婚者が対象であるが、「男女共同参画社会」の実現・理想は全て相手パートナー次第だと思う。同じ目線、物差しで考えないと良いバランスにならない（難しい）。（50 代男性）

○ ６０歳を過ぎてから今さら思う。これからの若い世代に期待したい。女性が強くなったのではなく、意見をはっきり言える時代になったのだろう。（60 代女性）

○ 「男女共同参画社会」とても素晴らしいことと思いますが、とても難しいです。土地柄、年代別、性別で意識は異なるかとは思いますが、６０歳以上はとくに外面と内面では？？です。「男女共同参画社会」には家庭内での男性の自立が必要だと思います。年齢が高いと難しいと思いますが、小さい時からしつけで（理論と実践）を積み重ねていけば、数年後には数歩進めると思います。

（60 代女性）

**【地域活動について】**

○ 地域活動は、土・日・祝日の方を基準として企画されていて、平日が休みだったり、夜に仕事をしている方にとっては、地域社会と関わりにくいと感じることが多い。（40 代女性）

○ 市全体としてというより、まだまだ町ごとの方が目立ち、高齢の女性の人たちの参加される方が昔の考え、先入観が強く、前に出て発言しにくい地域がまだまだ多々あり、住みにくい地域です。

（50 代女性）

○ 婦人防火クラブと交通安全母の会を廃止してほしいです。地域に各戸、婦人女性がいない家庭（亡くなったりして）や母になっていない家庭（独身等）があり、男性のみの家庭もあります。男性のみの家庭では、婦人防火クラブや母の会に入会できず、地区でも大変困っているのが現状です。婦人だけというクラブを廃止し、男女平等に防火クラブ、交通安全クラブにしてほしいです。

（50 代女性）

○ 地域、行政区、団体等の役員改選で、担い手である次世代の方々が承けてくれないのが悩みです。行政の方から改善する方法等を思考ください。私も町内会長を受けて長い年月が経ちます。次世代を当たっても、受けてくれる者がおりません。（60 代男性）

○ 会合出席等で、発言者の発言終了していないのに、否定的な言葉を発する参加者は、発言が終了するまできちんと聞く姿勢の無い（特に）男性参加者が多すぎる。（60 代男性）

○ えこひいきの地域役員、役職型の延長選択を早期解消し、まちづくりに未来型感性の主役選択を目指して、学識あるリーダーを生み出し、そして育むこと。（70 代男性）

【高齢社会・介護について】

- 介護も子育ても、地域の中で協力や見守りができる社会がいいと思います。なんでも分断されるのではなく。（40 代女性）

- 介護施設への申込みから各施設とも 1 年以上の長期待機になっている状態です。仕事を続けられる状態ではありません。（50 代女性）

- 夫婦共働きの家庭で、高齢の親を預かってくれる施設はあるが、夕食の支度時に帰宅されると大変忙しいので、夜７～８時頃まで預かってくれる施設があれば良いと思う。（50 代女性）

- 私は 62 歳、妻は 66 歳、もうこういう質問に答えるには年を取り過ぎた。一つ言える事は、いつまでも健康を維持し、自立した人生を送れることが何物にも優先する考えの無い事だと断言します。（60 代男性）

- 介護施設を安く利用できるようになってほしい。（60 代女性）

- 大きな施設より廃校などを利用し、各地域で犬・猫・鳥等と自由に世話しながら茶を飲みし、薬等のいらない医者がいてくれて、安心して自然に終わるよろこびでよし。あまり便利過ぎてイヤな世の中になり、人の温かさが失われているようだ。（70 代女性）

【仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について】

- 職場で育児に対する理解が得られないため、休みが取れない。収入が少ないため生活が苦しいので、就労環境の改善が必要と思われる。（30 代男性）

- 会社自体が潤っていないと、何をするにも難しいと思う。（40 代男性）

- 女性は家事・育児の負担が大きいためあまり仕事ができず、夫は収入だけを見て“自分の収入が多い＝苦労している”と思い、女性が楽をしていると勘違いをして、自分は家事・育児をする必要はないと思っている人が多いと思います。そういう考えは違うという内容の冊子を作成して配布していただきたい。（40 代女性）

- 男性は男性、女性は女性の役割があります。無理せずお互いに思いやりを持って、家庭でも社会でも活躍できることが大切だと思います。（40 代女性）

- 男女共同参画を考える前に、登米市行政の財政難の方が心配です。何事も削減の多い今日、ワークライフバランスがうまくとれるでしょうか。社会に足並みをそろえることも必要ですが、とにかく若者が住みやすい次世代に、明るい都市づくりを行って、生まれた町で生活が楽しめるよう進めてもらいたい。（40 代女性）

- 私の家は専業農家で主に家族労働で経営しています。なので、一人一人の仕事の内容が決まっていて、一人が欠けてしまったり（病気や事故等で）すると、それをカバーするのは大変な事です。ワークライフバランスの前に、したくても余裕がありません。私の家に限ったことでしょうか？きれいごとの様に思います。（50 代女性）

【妊娠・出産・子育てについて】

○ 現在、保育園の入所が難しい状態なので、子ども達がのびのびと成長できる環境を多くしてほしい。子どもを産んだ母親の就職しやすい条件を増やしてほしい。最初のうちは、子どもも体調を崩しやすいので、時間帯や条件を考えてほしい。（20 代男性）

○ 夫婦で共働きが多くなっている中、子育てや介護の施設が家庭の状況に対して臨機応変な対応がまだまだ足りないと思います。児童館なども少ないと思います。老人ホームなどの施設は増えていますが、子どもに対いての施設の充実も必要と感じます。（20 代男性）

○ 法人や会社等に子どもを預かってくれる場所が併設してあれば、女性も安心して働けるのではと思う。（20 代女性）

○ 小児科の病院を増やしてほしい。夜間の受け入れができる病院（小児科）が無いので、必要だと思います。子どもの医療費無料化を１５歳までにしてほしい。（30 代女性）

○ 現在は容易ではないが、今後世代が変わっていくと、だいぶ意識も変わるように思う。個人的には、女性が働きやすくなる保育サービス、特に病児保育の施設を希望します。（30 代女性）

○ 産後のケア、保育施設の充実。育児は大変ですが、そればかりだとストレスが溜まってくるので、安心して外に出たり、働けるようになってほしい。（30 代女性）

○ シングルマザーは世間に知られているが、シングルファザーも多くなっている気がします。男性が家事・仕事・子育てで子ども達が夜遅くまでいたりするのを聞いたことがあります。支援は女性だけでしょうか？知らない方も多いようです。（40 代女性）

○ 病院に産婦人科をつくってほしい。（50 代男性）

○ 今、若い家族の別家がほとんどのようだが、子育ては祖父母の助けがとても大事だと思う。（70 代女性）

○ 女の人が働きやすい社会をつくり、子育てがしやすい環境づくりが大切。フランスが一番良い例だと思います。女性がすごく働きやすく子育てがすごく充実していて、出産後すぐ働きだせたとの事です。少子高齢化をいかにして日本は守るのかが大切だと思います。（70 代女性）

【教育・講座・講演会について】

○ 中学校等、学校と連携して色々やってみるのもいいと思います。若いうちからギッチリ教え込まないと！（30 代男性）

○ 未だに「男だから」「女だから」といった考えがかなりこの地域には残っているように感じられるので、まずは中高年の方々の意識改革から始める必要があると思います。（30 代男性）

○ 子育ては父親、母親それぞれの役割があり、二人でするものだと思いますが、土地柄、地域柄なのか母親が行うものとなっており、やって当たり前だと思われています。年配の方の理解、会社側の理解を強く望みます。（30 代女性）

○ 未だ家庭内、職場においても男女共同参画の実現には遠い所にいるなと感じている。幼い頃から男女が平等という家庭内での教育、雰囲気作りをしていくことも必要かと思う。（30 代女性）

○ いろいろな世代が考え、社会全体の課題として変えていくべきことであり、田舎は特に考えを改めなければならない。（40 代男性）

○ 出産時に、父親向けのパンフレットを頂いたが、あまり参考にしてくれなかった。もっと強い口調でパンフレットなどを父親向けに配っていただければ良かったと思う。出産などは、男性が意識を変えることができるすごい良い機会なので、父親学級などももっと義務化してくれれば、もっともっと育児に始まり介護などに責任を持たなくては、という意識をつけるチャンスになると思います。（40 代女性）

○ 講演会、フォーラム等、平日昼間のため参加できない方が多いのでは？（50 代女性）

○ 講演会等の出席、研修会等に出席する人が重複し、そのような機会にあまり出くわさない人が情報を身近なものと感じ得ないのではないかと思います。（50 代女性）

○ 家庭の中では抵抗感なく家事に協力的なので、精神的に余裕があります。社会では経済的な面もあり、仕事中心にならざるを得ないのですが、職場で講演会・フォーラム等を開いて意識改革をしたら良いかと思われます。（50 代女性）

○ 結婚すると女性はそれまでと違い、家事の負担がいっきに増え、自分の時間がなくなる。家事をしない男性は、結婚前となんら変わらない。その事に気づいていないと思うので、なんらかの教育（講演会等）が必要。家事・育児の参加が妻に対しての感謝やいたわりの気持ちを伝えるチャンスであり、お互いにいたわり合う温かい家庭になると思います。子ども達の幸せにもつながると思います。（60 代女性）

【登米市の取り組みについて】

○ 登米市がこのようなアンケートを用意することは、何かしら問題があり、そのような事を１つでも解決できる実績を重視してもらいたい。それだけ思っている問いなら全て実行してもらいたい。（30 代男性）

○ 都市部と違い、まだまだ情報や対応に遅れがあると思う。困っている人がいても自分から情報を得て行動に移せる人は少ないのでは？行政からの積極的な呼びかけが必要と思います。（30 代女性）

○ 市の議員さんが全て年配の方だけでは、子育てに対した考えや要望が伝わらない。今、子育てをしながら仕事を行っているような方々を集めて、今本当に困っている事などを聞いていかないと、子どもは減る一方だと思います。まずは、子育てが充実した市になっていくと自然と男女共同参画社会に向いていくと思う。まずは、子どもの行事で休むのも仕方ない、という考え方の上司の育成、父親参加の子育て、高齢者の事も大事ですが、高齢者が安心して住むためにも、まず子どもを育てなくては市がいきいきしないと思う。残りたいと思うような市にしてほしい。（30 代女性）

○ 登米市内において男女共同参画社会の実現を望んでる方々をあまり見聞きしたことが無いので、必要性に欠ける。（40 代男性）

○ 古い政治家の考えが変わったり、政党主権の考えが変わらないと無理。票がほしいマニフェストだけでは。（50 代男性）

○ 市民の生活の安定と向上に向けた男女共同参画社会はどのようにあるべきか、登米市の特色を生かした男女共同参画社会の実現を希望します。（50 代女性）

○ 先日、農業支援センターに行ったら、補助申請の際、女性経営者に３ポイントがついて、男性にはポイントがつきませんでした。これって男女平等ではないですよね。市では男女差別を支援しているの？（50 代女性）

○ 登米市が最重要点とする事は、登米市の人口を増やし、安心して生活できる環境づくりをすることと思う。少子化がますます深刻化しており、是非、小児科医院を充実させてほしいと思う。男女共同参画社会については、登米市になってから啓発されており、各家庭などにおいては非常に男女協力的になってきていると思います。（共働きの家庭が多くなり、お互いを思いやればおのずとそのような社会になれるはず。何はともあれ、少子化をなくす事です。（年齢不明女性）